

## 第5節 1面の遺構と遺物

Ⅲ層中あるいはⅣ層上面で検出した遺構を含めた。Ⅳ層の上面レベルはⅠ区の東で9.40mから10m、Ⅱ区の東で9.90m、Ⅲ区の東で9.70mである。Ⅰ区のy42ライン以東で方形竪穴建物、土坑群を検出したが、y42ライン以西は大きく削平を受け、9.60m～9.70mで基本Ⅹ層以下の堆積土が露頭していた。そのため遺構は井戸1基、土坑3基の検出にとどまった。Ⅱ区では東壁際で方形竪穴建物、小規模な集積埋葬を、西壁近くで方形竪穴建物、土壙墓、土坑群、Ⅱ区を東西に横断する骨の散乱する溝状遺構を検出した。Ⅱ区の西壁近くの遺構群は9.10mから9.40mに堆積している宝永火山灰直下で確認している。Ⅲ区では方形竪穴建物、井戸、土坑が調査区の全域から検出されている。

出土遺物や切り合い関係を見ると、Ⅱ区のT1～T2号溝周辺から手づくねかわらけ皿が出土し、またⅠ区の基本Ⅴ層上面から少し器肉の厚い手づくねかわらけ皿が出土している。したがって、本遺構面は13世紀初め頃に骨の散乱する溝状遺構があり、それらがⅣ層の飛砂で埋没した後に方形竪穴建物、井戸、土坑、土壙墓などが作られたと考えている。以下、文章中のかかわらけ皿は、手づくね整形（手づくね）以外は、すべて回転糸切整形の皿である。

1面の遺構を検出・確認するまでに出土した遺物、整理段階で遺構から外れた窪み部分から出土した遺物の内、74点を図50-1～図52-95に図示した。また、現代攪乱を掘り上げる際に出土した遺物のうち、図化した16点は図53-1～16に提示した。

1～5は舶載陶磁器で、1は青磁鎬蓮弁文碗口縁部、2は青磁腰折碗口縁部、3～5は青磁無文碗体部下位～底部、5は断面部分が細かくキザミが入っている。6～8は瀬戸窯で、6は中皿体部下位～底部（中野Ⅳ）、7は褐釉仏華瓶、8は仏飯具脚部、9～13は常滑窯甕口縁部、9は6b、10～13は6a、14は常滑窯小型壺口縁部、15～18は常滑窯片口鉢口縁部（Ⅱ類）、19、20は山茶碗窯系片口鉢で、19は口縁部、20は胴部下位～底部、21は備前窯播鉢口縁部、22は山茶碗体部下位～低部。23～51はかわらけ皿。この内23～40は小皿で、26、28、36、38は口縁部にススが付着して灯明皿の使用痕がある。39は器肉が厚く直線的な側面を持つ、40は体部上半を打ち欠いた皿。43は中皿で器肉が厚い。42～51は大皿で、44は手づくね大皿、42、45～51は薄手造りで51の底面にはススが付着している。52、53は瓦質鉢型火鉢口縁部。54、55は管状土錘で丸い棒に粘土を貼り付けて指頭で整形し、両端部はヘラ状の工具で切り離している。56、57は滑石製の鍋口縁部であるが、57は体部の一部を砥石に転用、三面に磨面がある。58～63は石製品の砥石で、石材は細粒泥岩。産地は鳴滝産。61は滑石転用、65は石製品硯、66、67は常滑甕片の外周などを磨いた磨り常滑。68～71は骨製品で、68は加工途上の製品、69は紡錘車？、70、71は加工痕のある骨角製品。72～91は鉄製品で、72は不明製品、73は五徳の一部と思われる製品、74は火箸、75、76は刀子、77は刀身から茎部にかけての欠損品、78はドーナツ状の飾り具らしき製品、79は止め金具、80～91は鉄釘、92～95は銅銭で、銭名は92が開元通寶（初鑄845）、93が宋元通寶（初鑄960）、94が嘉佑元寶（初鑄1056）、95は天禧通寶（初鑄1017）。

図53-1・2は中国製陶磁器で、1は青磁折縁鉢口縁部、2、3は青磁鎬蓮弁文碗口縁部、4は唐津窯天目碗高台部文の打ち欠き、5は瀬戸窯灰釉鉢口縁部～体部、6は瀬戸窯灰釉鉢口縁部～体部、7は常滑窯甕口縁部、8は常滑窯片口鉢口縁部、9は備前窯播鉢胴部、10は産地不明片口鉢胴部下位～底部、11、12は薄手造りかわらけ皿の中皿と大皿で共に口縁部分にススが付着している。13はフイゴの羽口で口唇部は強い熱により、変化して部分的に黒緑色の溶融物が付着している。14は石製品砥石、石材は細粒泥岩で鳴滝産、15は泥岩製の陽物と思われる製品、16は鉄製品で用途不明品。

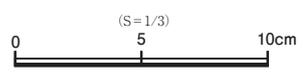
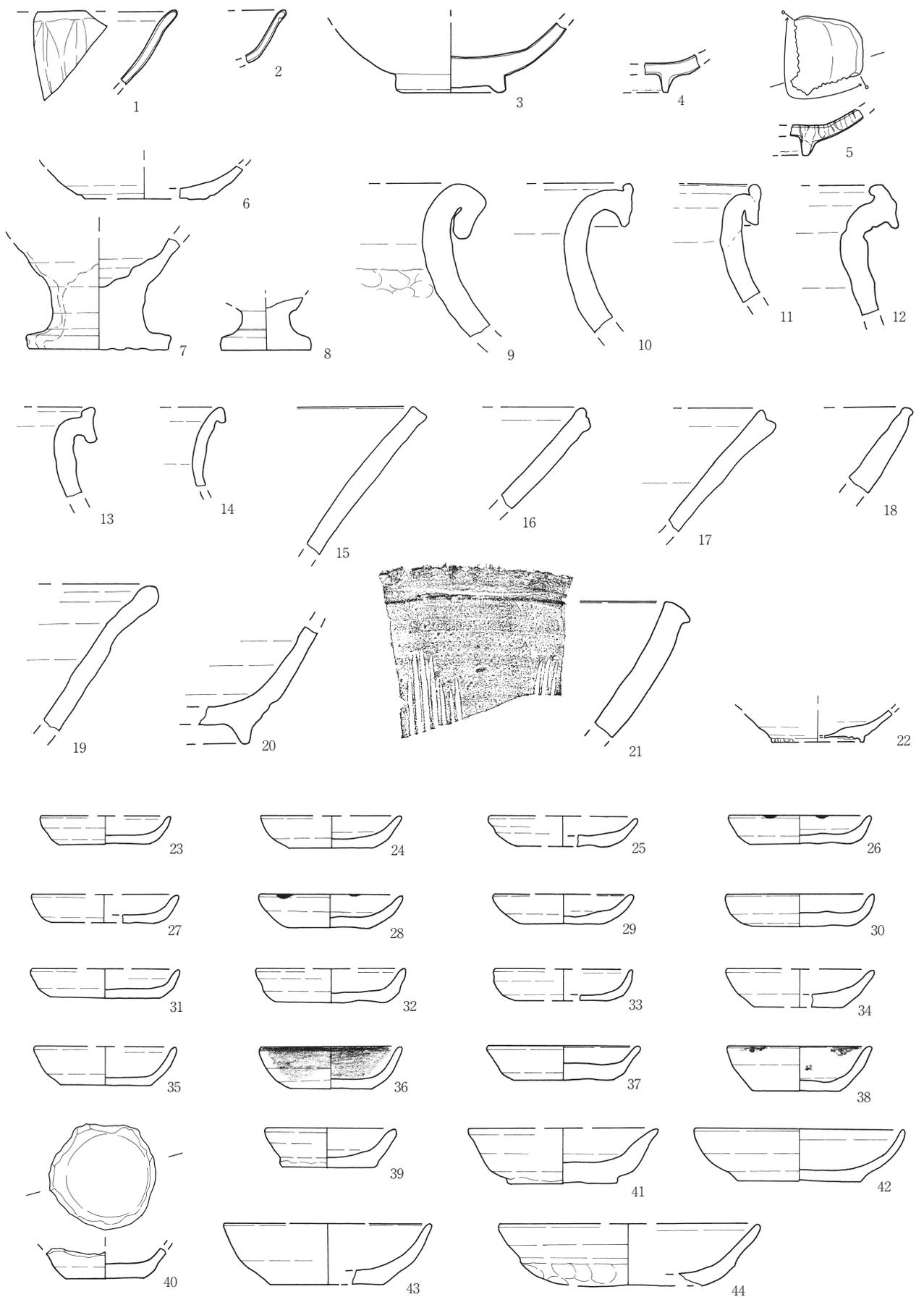


图50 1面出土遺物(1)

(1) 方形竪穴建物 (図 54 ~ 図 78)

I 区の東側、II 区の東側、III 区の東側で検出されている。他の地域では痕跡も確認できなかったので、方形竪穴建物は調査区の東側に集中していたと考えている。

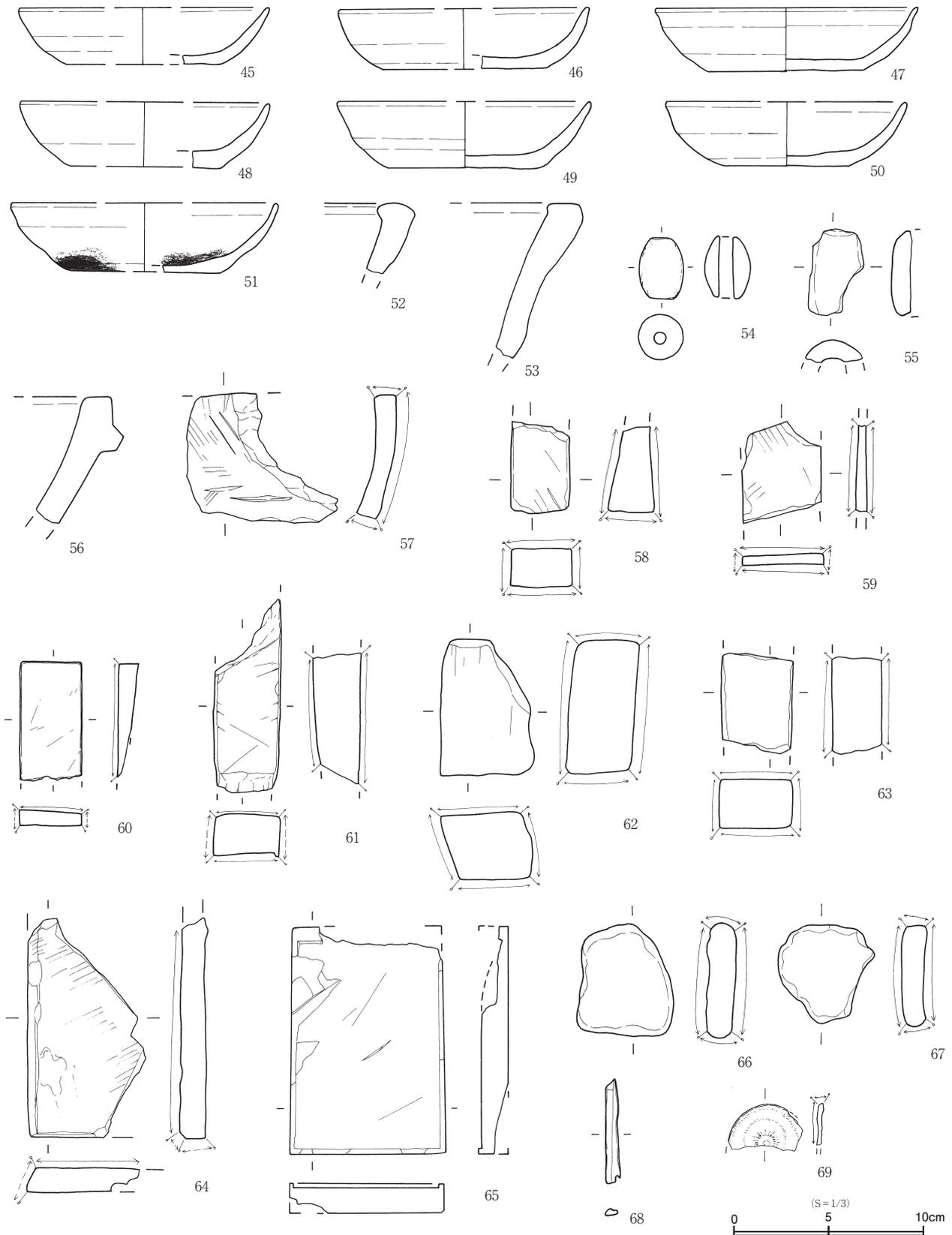


図 51 1 面出土遺物 (2)

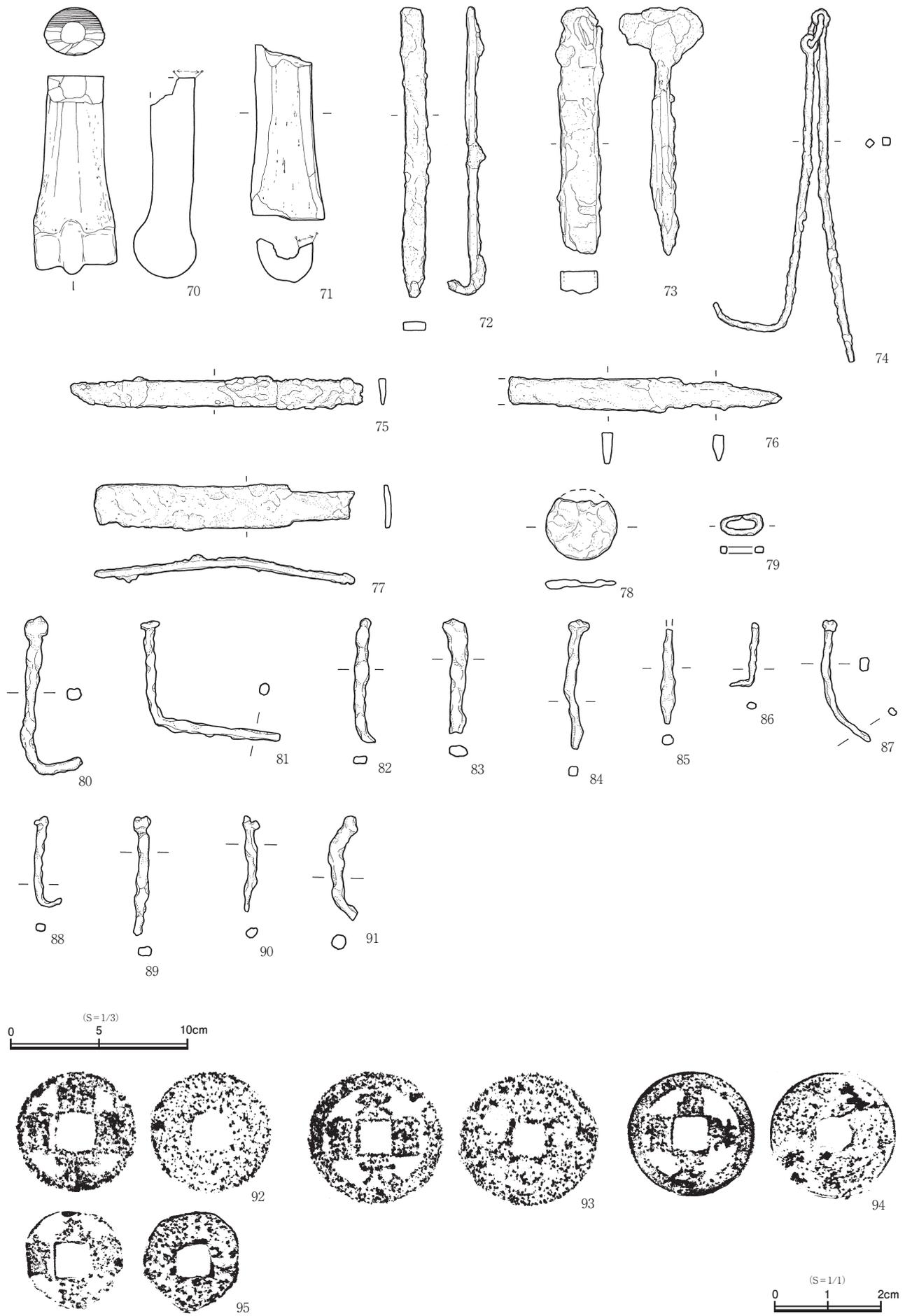


图52 1面出土遺物 (3)

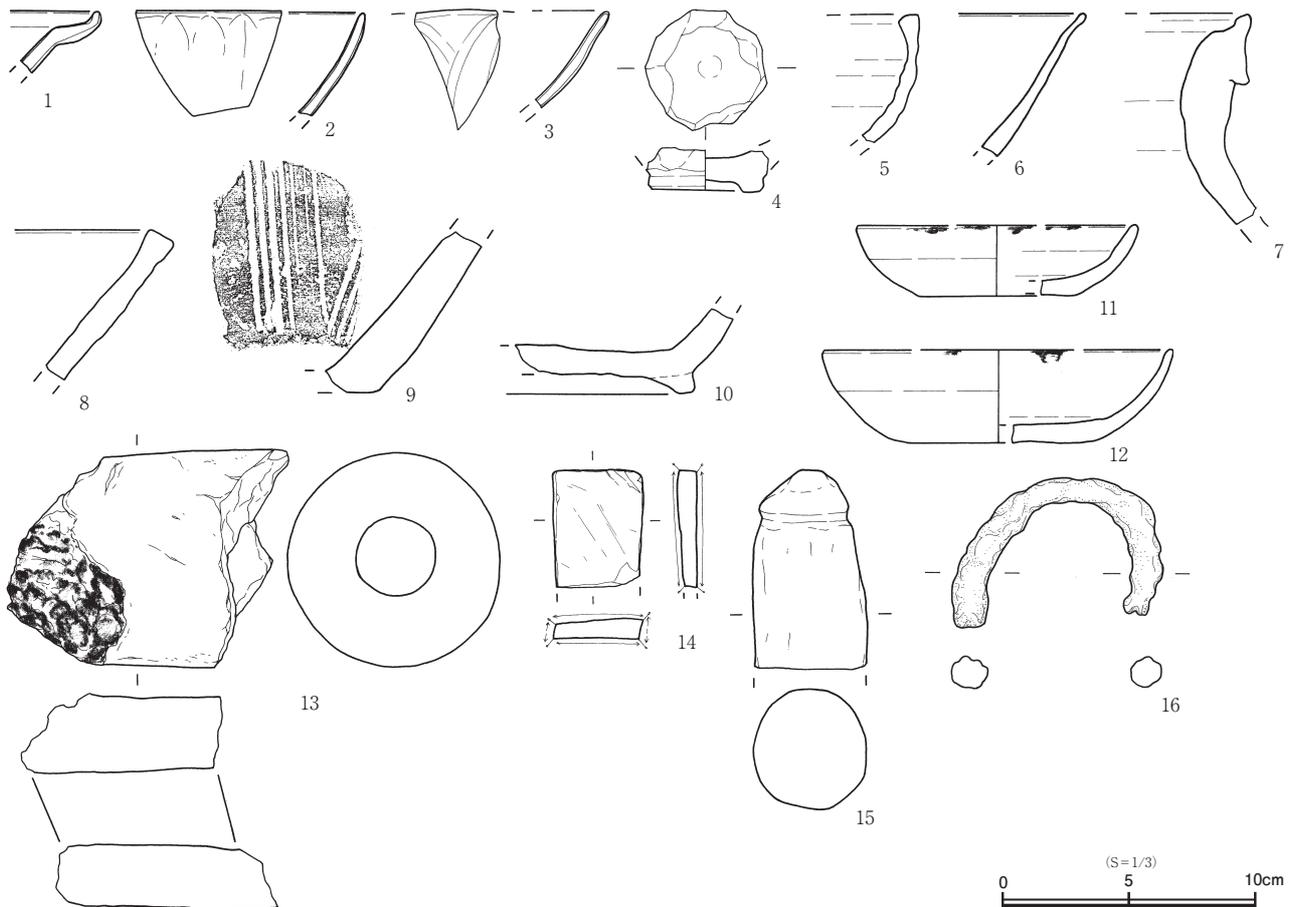


図53 攪乱出土遺物

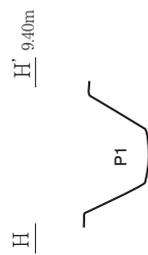
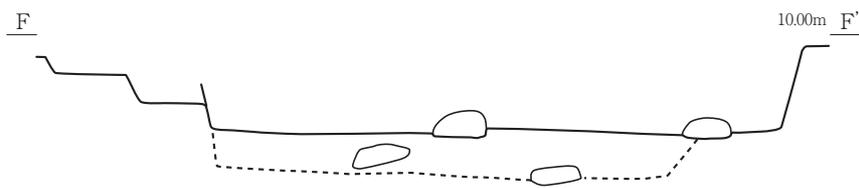
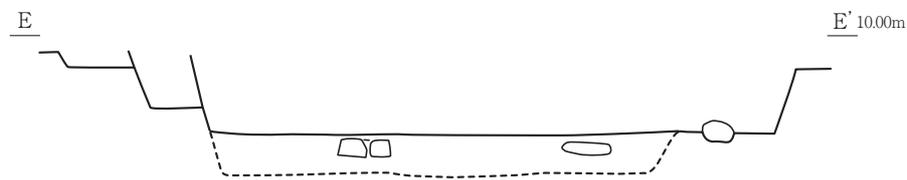
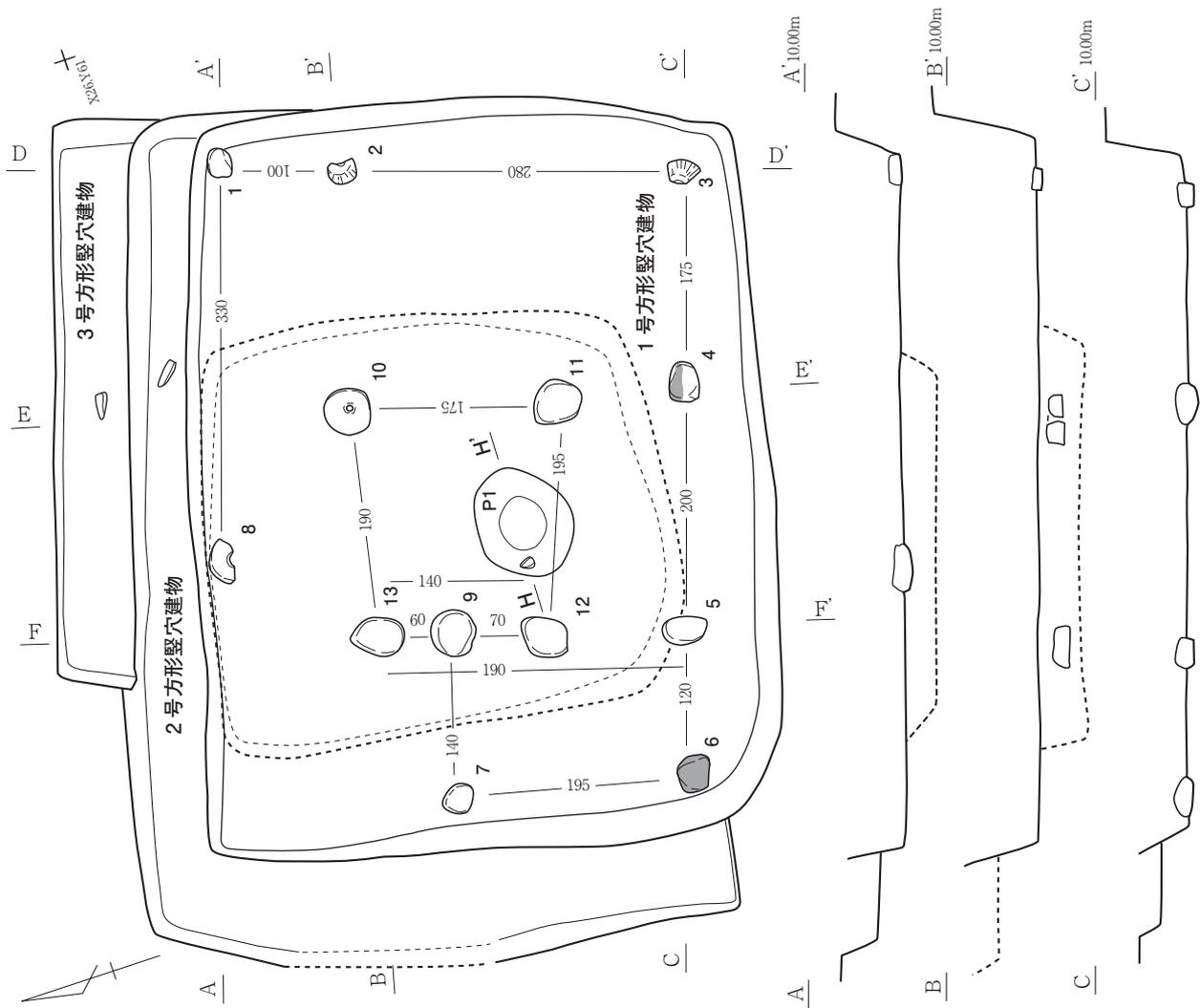
### 1号方形竪穴建物

本址はI区のx21～27、y53～60の間に位置し、北で2号方形竪穴建物を、東で3号方形竪穴建物を壊している。本址は安山岩川原石6石と石臼破片3石を土台に使用した大きな方形の掘り込みの方形竪穴（上部竪穴）とその土台石の下で検出した安山岩川原石3石と石臼1石を使用したやや小さな方形竪穴（下部竪穴）で構成されている。調査時点では別の遺構として扱っていたが、礎石に明らかな上下関係はあるものの、南北方向はほぼ同軸である事、下部竪穴を単独の方形竪穴建物として提示することに抵抗を感じた事等に拠り、同一遺構として扱った。

上部竪穴は、平面形は東西に長い長方形で、覆土は炭化物を含む暗褐色砂質土。覆土上部からは部分的に火熱を受けた跡の残る鎌倉石、土丹、安山岩川原石が18石出土している。確認規模は長軸628cm、短軸465cm、深さ71cmを測る。底面レベル9.20m前後、主軸方位N-14°-Eである。底面は平坦で、東壁下で礎石1～礎石3が、南壁下で礎石3～礎石6が、西壁下で礎石6と礎石7が、北壁下で礎石8と礎石1が、礎石5の北で礎石9が検出された。

各礎石の上面レベルは、礎石1が9.32m、礎石2が9.28m、礎石3が9.22m、礎石4が9.33m、礎石5が9.33m、礎石6が9.33m、礎石7が9.28m、礎石8が9.29m、礎石9が9.39mで、礎石2、3、8は石臼の破片、礎石4と礎石6は火熱を受けた痕跡が残っている。礎石間は芯々距離で1と2が100cm、2と3が280cm、3と4が175cm、4と5が200cm、5と6が120cm、6と7が195cm、8と1が330cm、5と9が190cm、7と9が140cm離れていて一定していない。

下部竪穴は、平面形は方形で北壁は上部竪穴の北壁に沿ってやや拉げている。確認規模は長軸385cm、短軸350cm、深さ19cmを測る。底面レベル8.94m、主軸方位N-8°-Eを測る。底面は平坦で安



No.	長軸 × 短軸 × 深さ (cm)	底面標高 (m)
P1	97 × 78 × 49	8.50

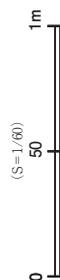


图54 1号、2号、3号方形竖穴建物

山岩礎石 3 石、石臼転用礎石 1 石、土坑 1 基が検出された。各礎石の上面レベルは礎石 10 が 9.18m、礎石 11 が 9.15m、礎石 12 が 8.97m、礎石 13 が 9.14m。各礎石間は芯々距離で 10 と 11 が 175cm、11 と 12 が 195cm、12 と 13 が 140cm、13 と 10 が 190cm を測る。土坑は礎石 11 と 12 の間に位置している。平面形は楕円形で、長軸 95cm、短軸 80cm、深さ 16cm を測る。底面の海拔レベルは 8.68m である。覆土から鉄釘が多く出土している。

本址は、礎石 3 と礎石 6 間の 495cm、礎石 1 と礎石 3 の 380cm が建物の規模と考えられる。上部堅穴と下部堅穴の関係は明らかに出来なかった。例えば下部堅穴が床下遺構で礎石 10 ～礎石 13 がそれに伴う可能性や、下部堅穴の大きな礎石 4 石が上屋構造を支える礎石である可能性を考えているが定かではない。

遺物は図 55-1 ～図 57-43 に 43 点を図示した。1 は青磁連弁文碗体部、2 は常滑窯甕口縁部 6a 類、3 ～7 は瀬戸窯製品で、3 は鉄釉壺底部、4 ～6 は卸皿で、4、5 は口縁部、6 は体部から底部。7 は灰釉折縁鉢口縁部。8 ～13 は常滑窯片口鉢で、8 ～11 は口縁部、12、13 は胴部下位～底部、14 は魚住窯片口鉢口縁部、15 は生産地不明の片口鉢口縁部、16 は亀山窯甕胴部、17 ～23 はかわらけ皿で、17 ～21 は小皿、22 は薄手造りの中皿、23 はかわらけ皿の体部外周を打ち欠き底部内面全体にススが付着している。24 は瓦質火鉢口縁部で、外面口縁直下に菊花文のスタンプを巡らせている。25 はかわらけ質の人形で上半身を表現していると思われる。26 ～29 は石製品の砥石で、26 は二次加工の孔をもつ、27 は粗粒泥岩で鳴滝産、28 は凝灰岩で伊予産、29 は滑石片を転用した砥石である。30 ～33 は鉄製品で、30 は火箸、31 ～33 は釘、34 ～40 は銅銭で、銭名は、3 4 は元豊通寶（初鑄 1078）、35 は宋通元寶（初鑄 960）、36 は天禧通寶（初鑄 1017）、37 ～40 は判読不能、41 ～43 は石臼で、41 は安山岩、42 は角閃石安山岩、43 は礎石の石 2 と石 3 が接合したもの、石材は角閃石安山岩。この他に図示しなかった鉄釘片が 37 点、スラグ 635 g が出土している。

## 2 号方形堅穴建物

本址は I 区の x22 ～27、y52 ～60 の間に位置し、北西部を残して大部分を 1 号方形堅穴建物に壊されている。平面形は東西に長い長方形で、確認規模は長軸 700cm、短軸 490cm、深さ 23cm ～30cm を測る。底面の海拔レベルは 9.42m 前後。主軸方位は西壁の北西隅と南西隅を結ぶラインで N-16° -E である。底面は平坦で、土丹が 1 石やや底面から浮いた状態で見つかったが、柱穴などは確認できなかった。土丹は土台石ではない。

遺物はかわらけ皿、常滑窯甕等の破片が多く出土しているが、図示できる出土遺物は少なく、図 58-1 ～4 に 4 点が図示できた。1 ～4 は鉄釘である。

## 3 号方形堅穴建物

本址は I 区の x25 ～27、y55 ～60 の間に位置し、南側のほとんどを 2 号方形堅穴建物に壊されている。平面形は方形で、長軸 472cm、短軸 (60) cm、深さ 21cm を測る。底面の海拔レベルは 9.70m 前後。主軸方位は西壁でやや強引に計測すると N-27° -E であるが、やや不自然さが残る。底面は平坦で、底面からやや浮いた状態で土丹が 1 石見つかったが、柱穴などは確認できなかった。土丹は土台石ではない。

図示できる出土遺物はない。

## 4 号方形堅穴建物

本址は I 区の x21 ～26、y59 ～62 の間に位置し、南西部を 1 号方形堅穴建物に壊されている。平面形は南北に長い長方形で、確認規模は長軸 445cm、短軸 250cm、深さ 91cm を測る。底面の海拔レベル 9.20m、主軸方位は東壁の下端で計測すると N-17° -E である。底面は平坦で柱穴などは確認できなかった。

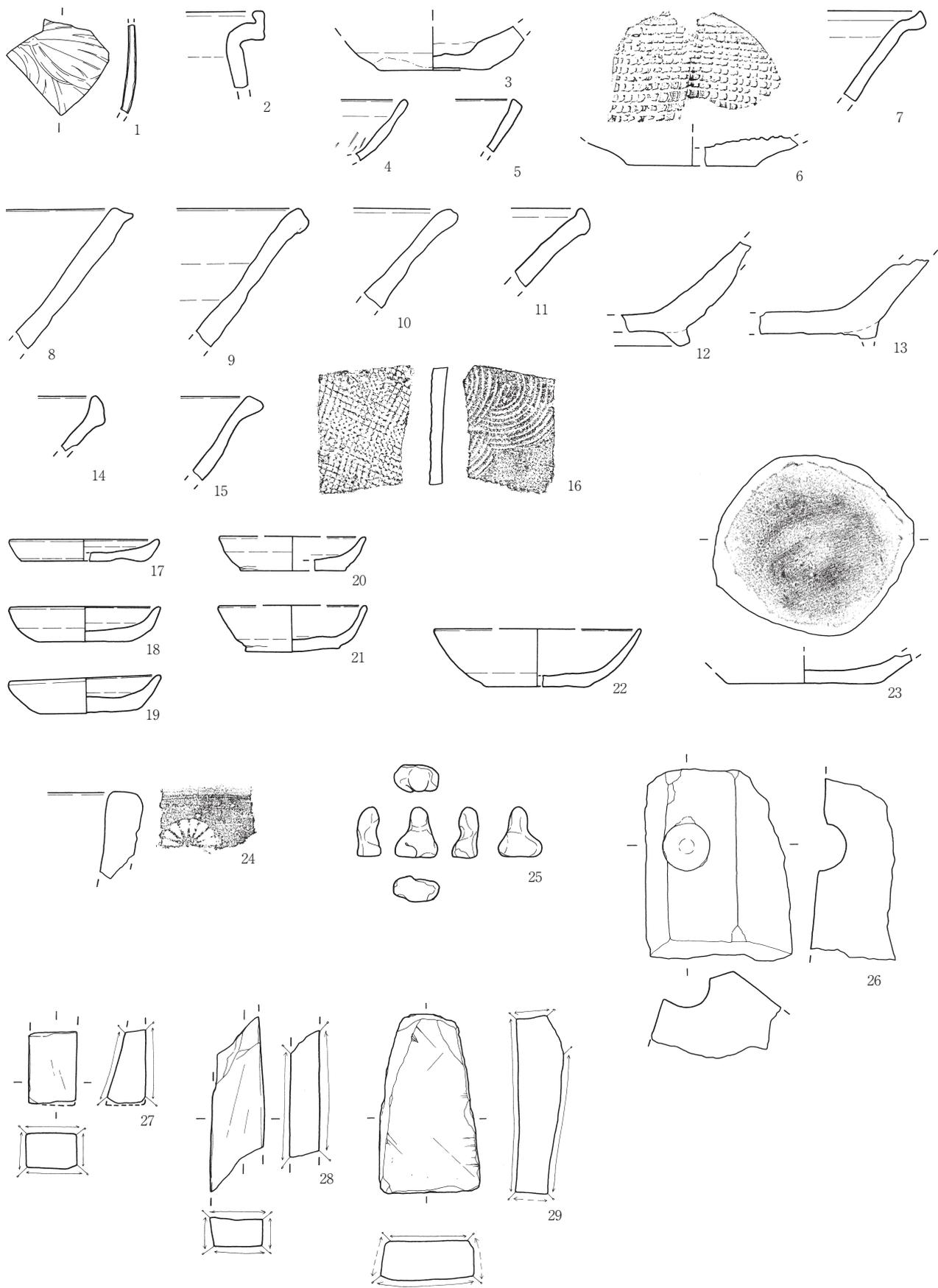


图55 1号方形竖穴建物出土遺物 (1)

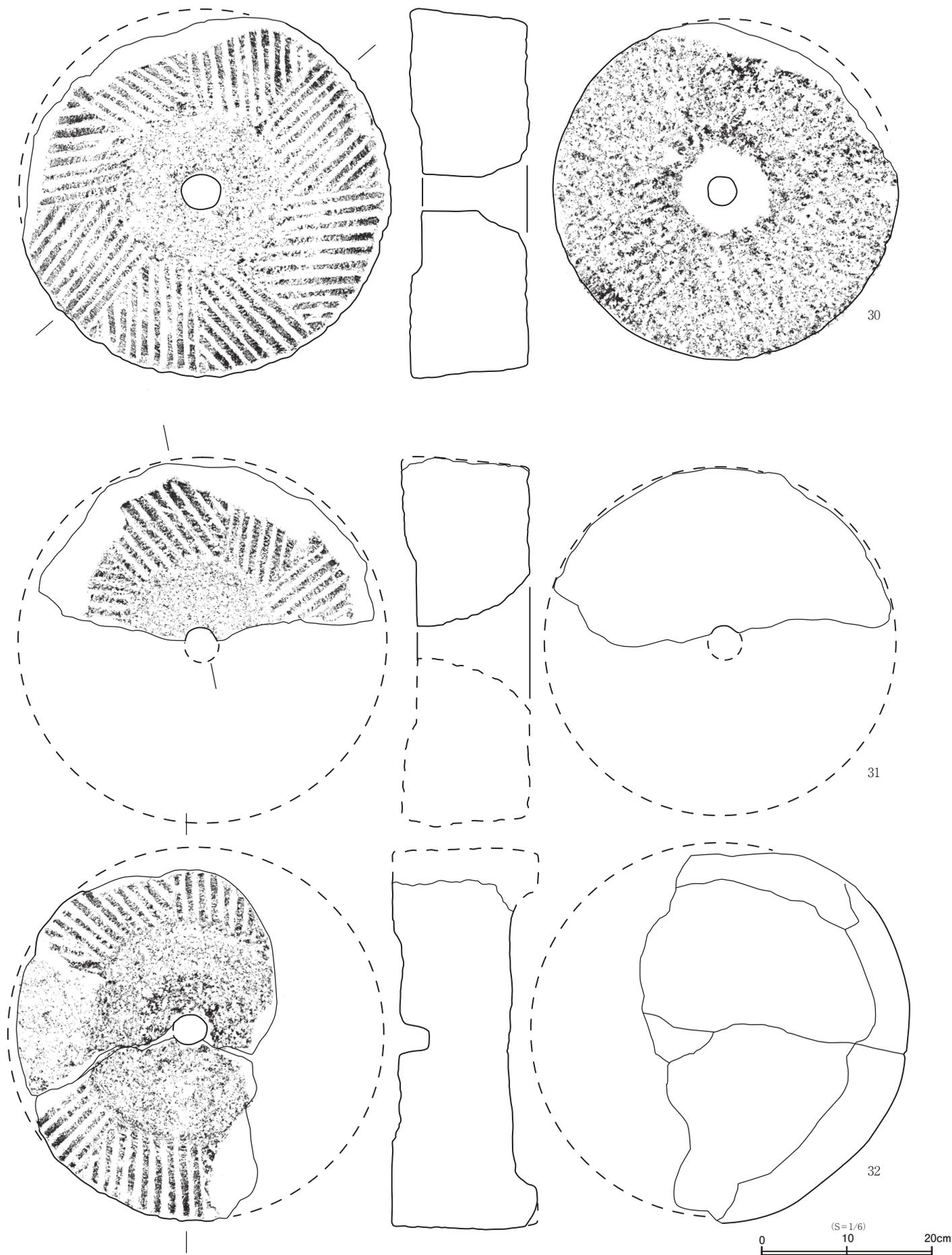


图56 1号方形竖穴建物出土遺物 (2)

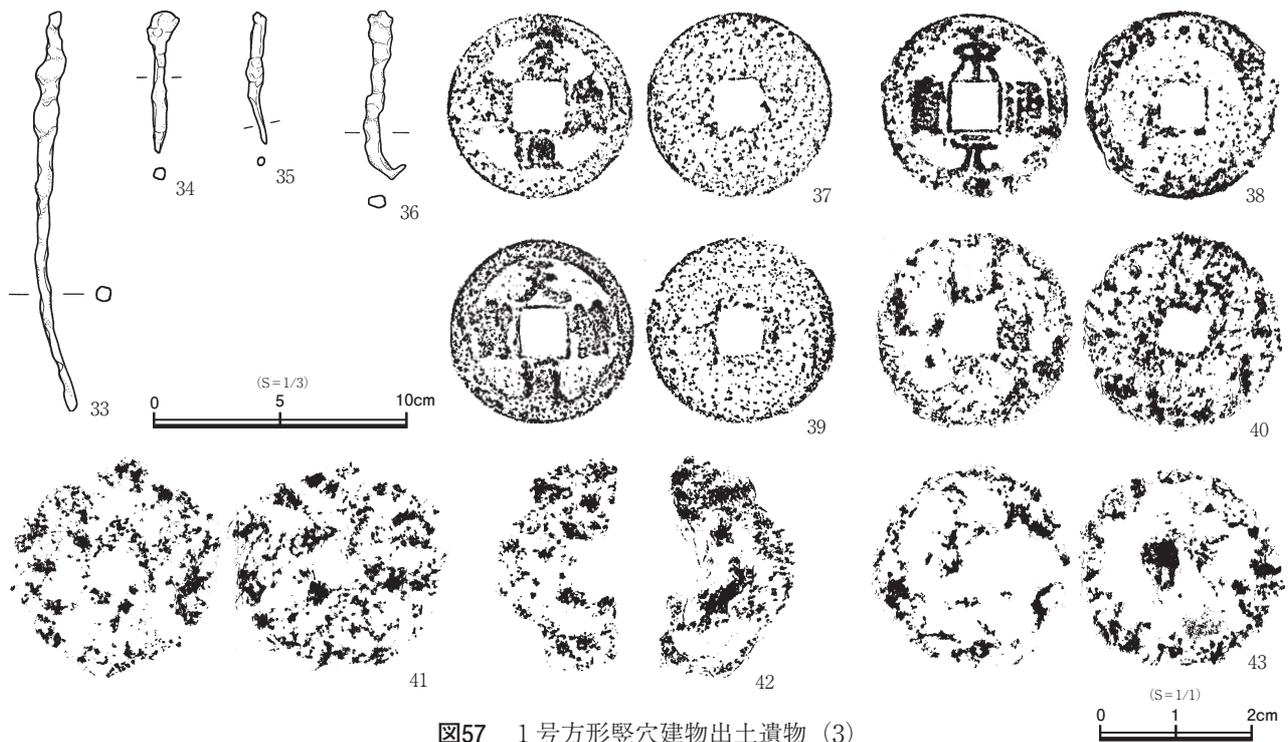


図57 1号方形竪穴建物出土遺物 (3)

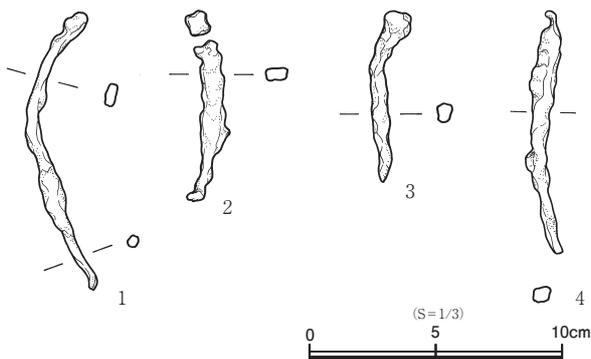


図58 2号方形竪穴建物出土遺物

た。覆土下部から底面近くで小形の安山岩川原石3石が見つかったが、南端の1石を除き底面から30cm～80cm上の出土で、土台石とは考えていない。

遺物は図60-1～9に9点を図示した。1、3は瀬戸窯で、1は入子2は卸皿底部、3は鉢で高台裏に卸し目が刻まれている。4は山茶碗窯系片口鉢口縁部（I類）、5～7はかわらけ皿大皿、8は骨製品の筭で鹿の下肢骨を加工している。9は銅銭で銭名は元祐通寶（初

鑄1086）である。

### 5号方形竪穴建物

本址はI区のx20～21、y53～57の間に位置し、北を1号方形竪穴建物に、南を7号方形竪穴建物に壊され、西で遺構45を壊している。残存部から、平面形は方形で、確認規模は東西(344)cm、南北(90)cm、深さ19cmを測る。底面の海拔レベルは9.40m、主軸方位N-16°-Eである。底面は平坦で、柱穴などは確認できなかった。

遺物はかわらけ皿、常滑窯甕等の破片が多く出土しているが図示できる出土遺物少なく、図62に11点が図示できた。1は瀬戸窯卸皿口縁部～底部、2、3は常滑窯片口鉢口縁部、4は瓦質火鉢口縁部、5～11は鉄製品で、5は棒状の一端を丸く、もう一端をL字状に曲げた落とし鍵、6～11は釘である。

### 6号方形竪穴建物

本址はI区のx19～20、y57～59の間に位置し、西を7号方形竪穴建物に壊され、ほとんどは南の調査区外に延びている。北東部分だけの確認である。確認規模は東西(142)cm、南北(58)cm、深さ38cmを測る。底面の海拔レベルは9.60m、主軸方位N-22°-Eである。床面は平坦で、柱穴などは確認できなかった。

遺物は図63-1～6の6点が図示できた。1は石製品の硯で一部欠損、2は石製品の砥石、石材は細粒

泥岩で産地は鳴滝産。3～6は鉄釘である。

### 7号方形竪穴建物

本址はI区のx19～21、y52～58の間に位置し、北で5号方形竪穴建物、8号方形竪穴建物、東で6号方形竪穴建物を壊し、南調査区外にほとんどが延びている。平面形は方形で、確認規模は東西570cm、南北(68)cm、深さ39cmを測る。底面の海拔レベルは9.30m～9.50m、主軸方位N-20°-Eである。

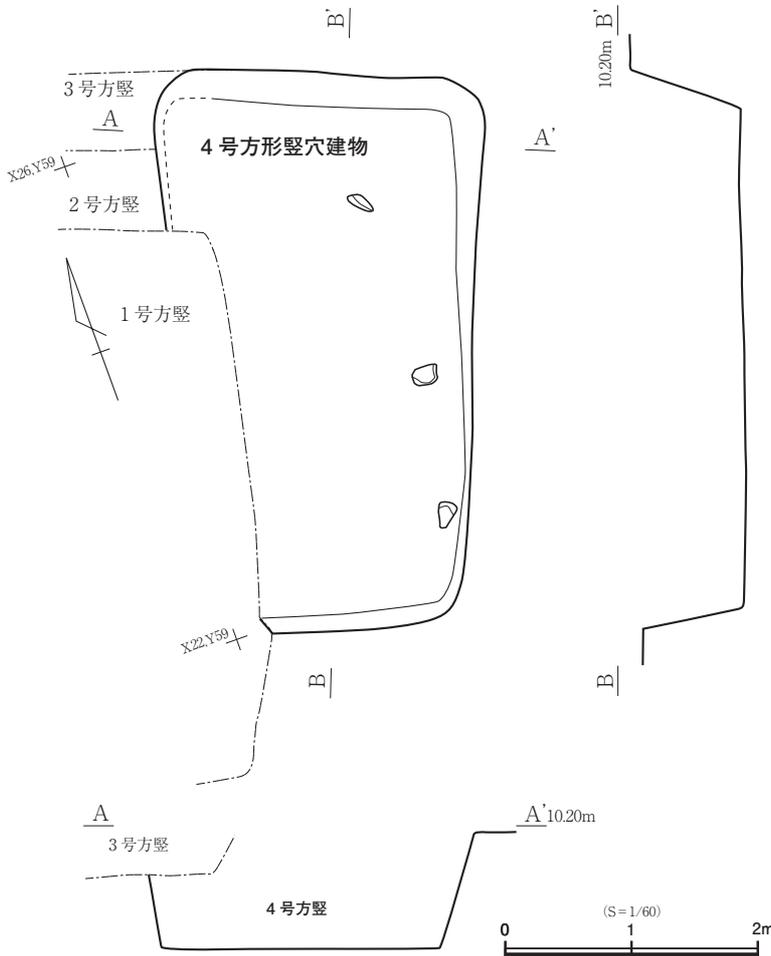


図59 4号方形竪穴建物

底面は平坦で、柱穴などは検出できなかったが、北壁際で安山岩川原石1石を検出した。石の上面レベル9.43m。角材などを支える土台石の可能性を考えたが、断定できない。

かわらけ皿、常滑窯甕等の破片が出土しているが、図示できる出土遺物は少ない。

遺物は図64-1～8に8点が図示できた。1はかわらけ皿の小皿で内外面にススが付着、2、3は石製品の砥石で、2の石材は粗粒凝灰岩で産地は上野産、3の石材は凝灰岩で産地は伊予産で片方の下部にススが付着している。4～8は鉄製品で、4は小札が三枚重なり、旧状をとどめているとすれば鎧の垂れの一部かもしれない。5～8は釘である。

### 8号方形竪穴建物

本址はI区のx21～23、y51～54の間に位置し、北東を1号方形竪穴建

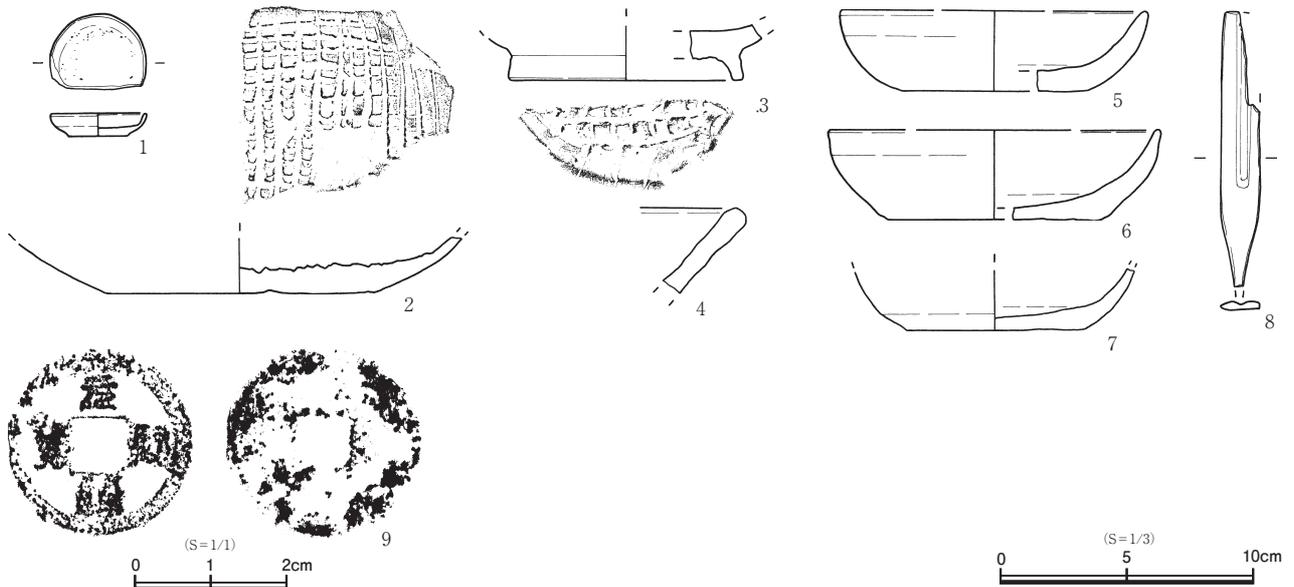


図60 4号方形竪穴建物出土遺物

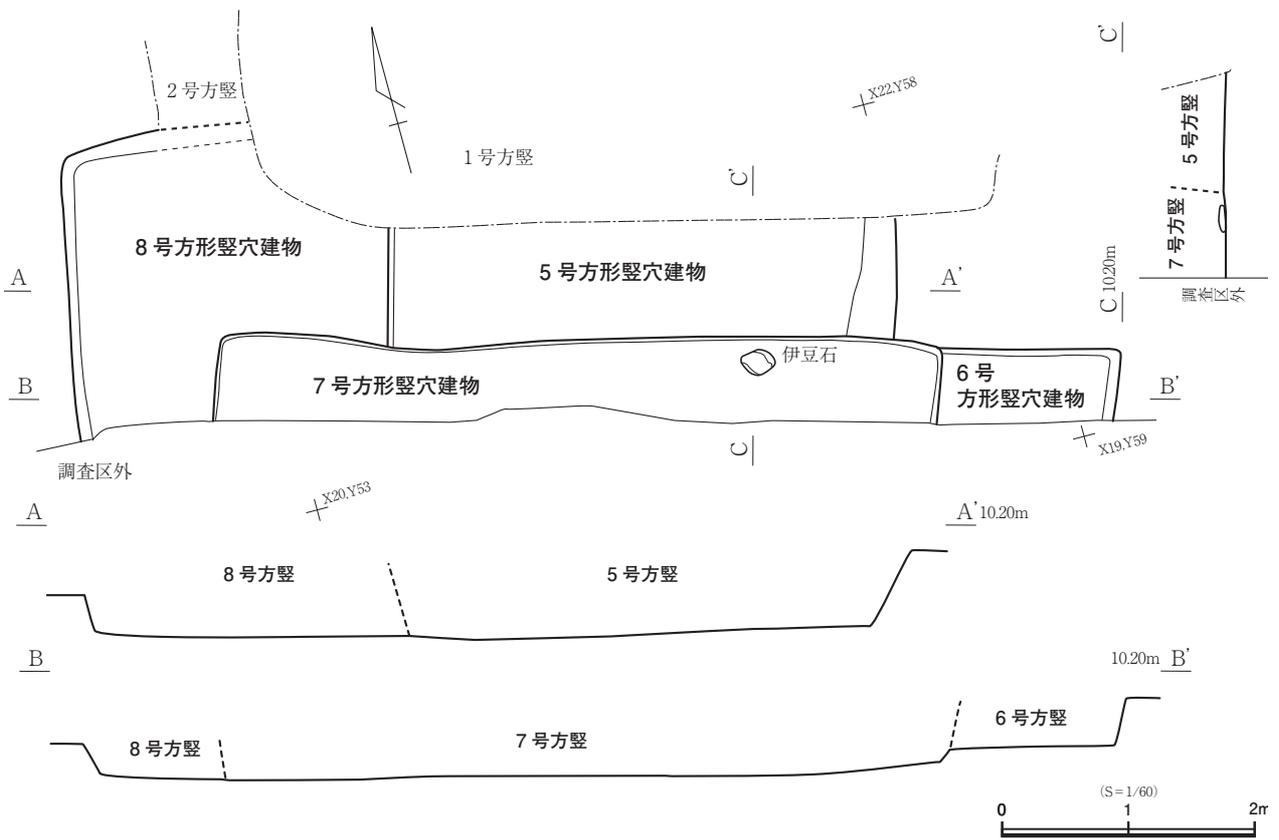


図61 5号、6号、7号、8号方形竪穴建物

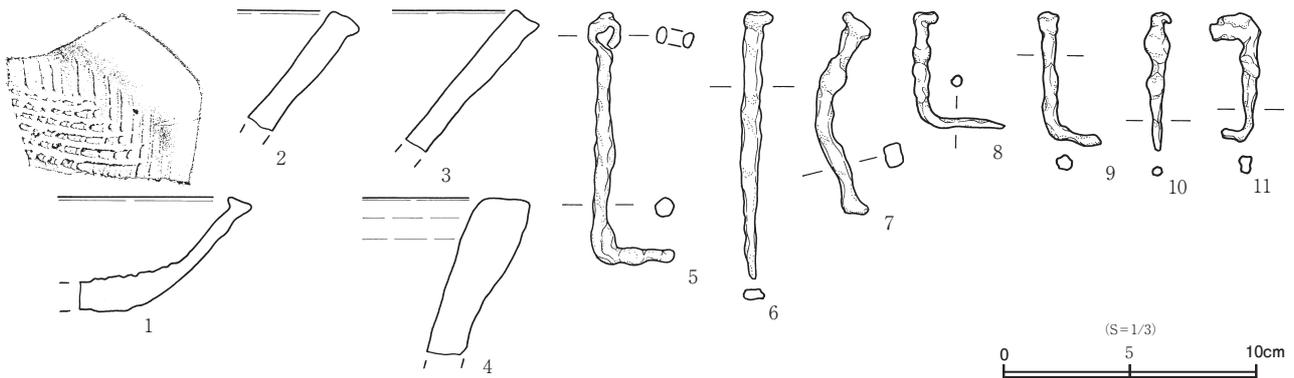


図62 5号方形竪穴建物出土遺物

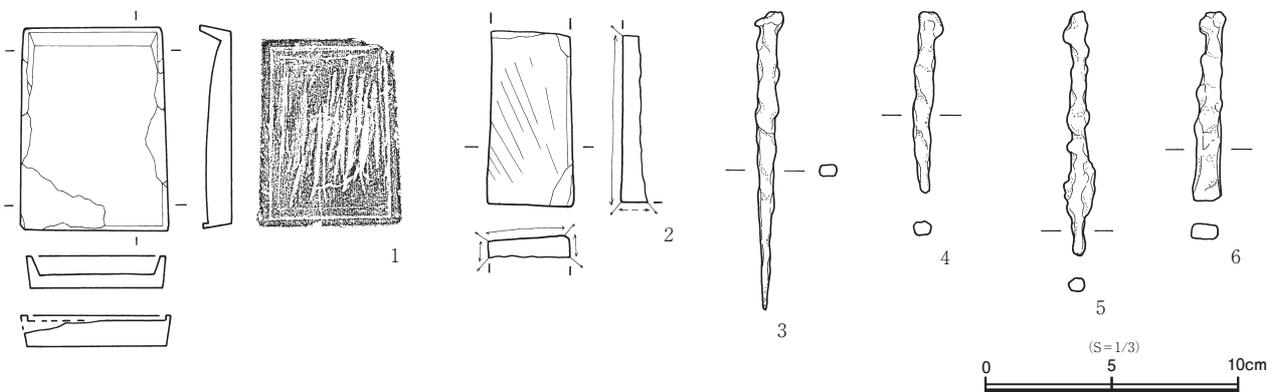


図63 6号方形竪穴建物出土遺物

物に、南東を7号方形竪穴建物に壊され、南は調査区外に延びている。平面形は方形で、確認規模は東西260cm、南北(228)cm、深さ30cmを測る。底面の海拔レベルは9.32m、主軸方位N-12°-Eである。底面は平坦で柱穴などは全く確認できなかった。

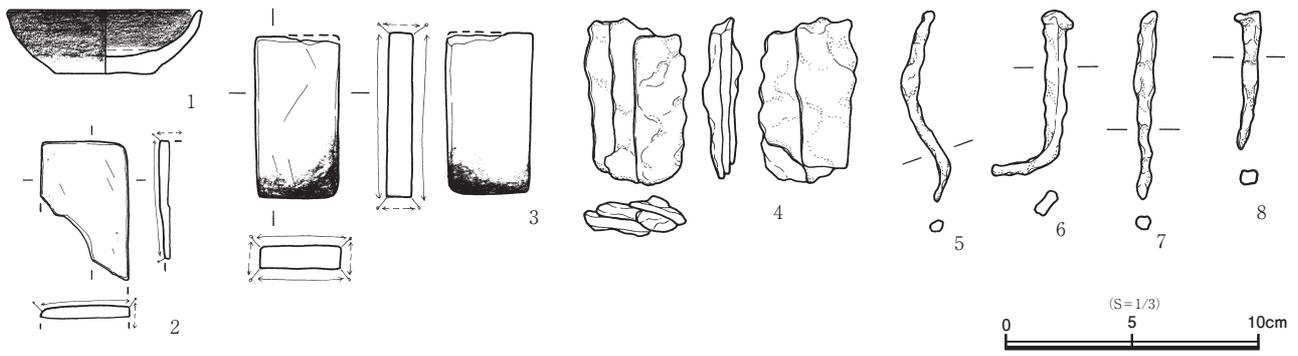


図64 7号方形竪穴建物出土遺物

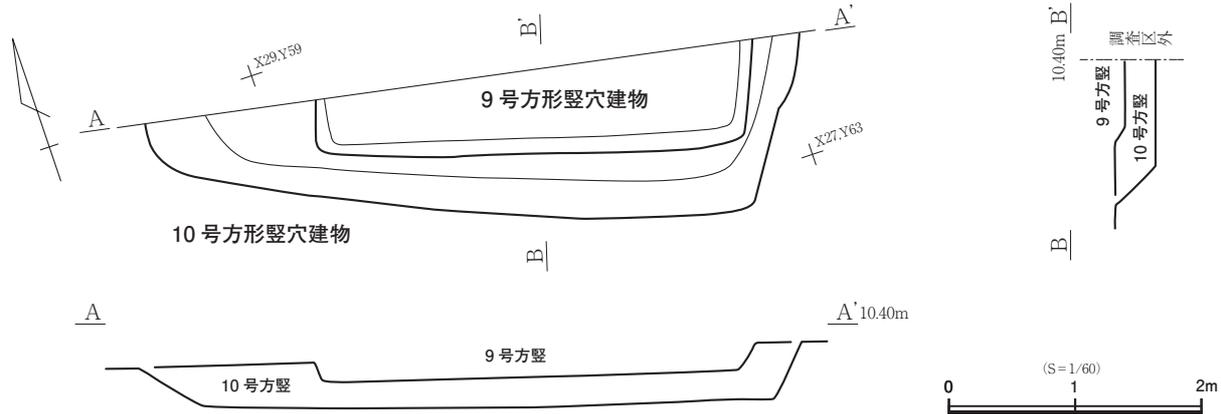


図65 9号・10号方形竪穴建物

図示できる出土遺物はない。

#### 9号方形竪穴建物

本址はI区のx26～28、y59～62の間に位置し、10号方形竪穴建物の覆土上部を壊して、北の調査区外に延びている。平面形は方形で、確認規模は東西394cm、南北(78)cm、深さ23cm、底面海拔レベルは9.98m、主軸方位N-21°-Eを測る。底面は平坦で柱穴などは全く確認できなかった。

遺物は図66-1に1点が図示できた。1は石製品の砥石で、石材は細粒泥岩で産地は鳴滝産である。

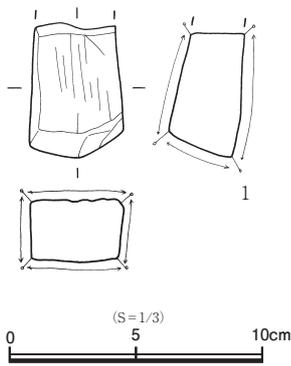


図66 9号方形竪穴建物出土遺物

#### 10号方形竪穴建物

本址はI区のx27～28、y58～63の間に位置し、覆土上部を9号方形竪穴建物に壊され、大部分は北の調査区外に延びている。平面形は方形で、確認規模は東西480cm、南北(122)cm、深さ31cmを測る。底面レベル9.73m、主軸方位は南壁で計測するとN-110°-Eである。本址と9号方形竪穴建物は同一遺構の可能性も考えられるが、ここでは別に説明を加えた。

図示できる出土遺物はない。

#### 11号方形竪穴建物

本址はI区のx20～23、y48～52の間に位置し、中央を遺構75と遺構80に壊され、北で12号方形竪穴建物を壊して、南は調査区外に延びている。平面形は方形で、確認規模は南北(250)cm、東西240cm、深さ32cmを測る。底面の海拔レベル8.88m、主軸方位N-2°-Eである。底面は平坦で柱穴などは確認できなかった。

遺物は図68-1～5に5点が図示できた。1は常滑窯片口鉢口縁部、2、3は薄手造りのかわらけ皿の中皿と大皿、4は骨製品筭の欠損品、5は銅銭で銭名は元豊通寶(初鑄1078)である。

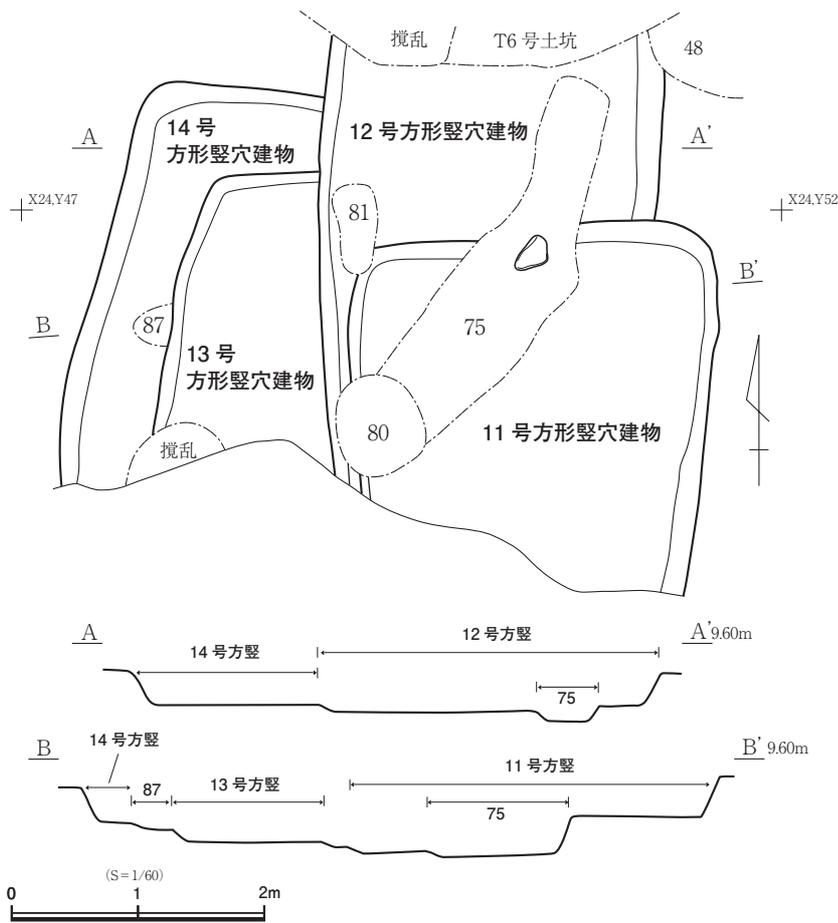


図67 11号、12号、13号、14号方形竪穴建物

を測る、底面の海拔レベルは9.08m、主軸方位は西壁で計測するとN-10°-Eである。

図69-1～3に3点が図示できた。1～3は鉄製品で、1は一端が扁平でもう一端は折れ曲がって打撃痕が残っている。用途不明品、2は刀子、3は釘である。

#### 14号方形竪穴建物

本址はI区のx21～25、46～48の間に位置し、東側の多くを13号方形竪穴建物に壊され、南は調査区外に延びている。平面形は方形で、確認規模は南北(295)cm、東西(50)cm、深さ29cmである。底面の海拔レベルは9.11m、主軸方位N-8°-Eである。

遺物は図70-1～36に36点が図示できた。1は中国製の青白磁合子の身、2は常滑窯甕口縁部6b類、3は瀬戸窯の鉢で底部に卸目が刻まれている。4、5は常滑窯片口鉢の口縁部(Ⅱ類)、6は山茶碗窯系片口鉢口縁部、7は魚住窯片口鉢口縁部、8は産地不明の片口鉢口縁部、9は瀬戸窯片口鉢底部、10は土器質火鉢の体部下位～底部。11～33はかわらけ皿で、11～25は小皿。23～25は薄手作りで、26、

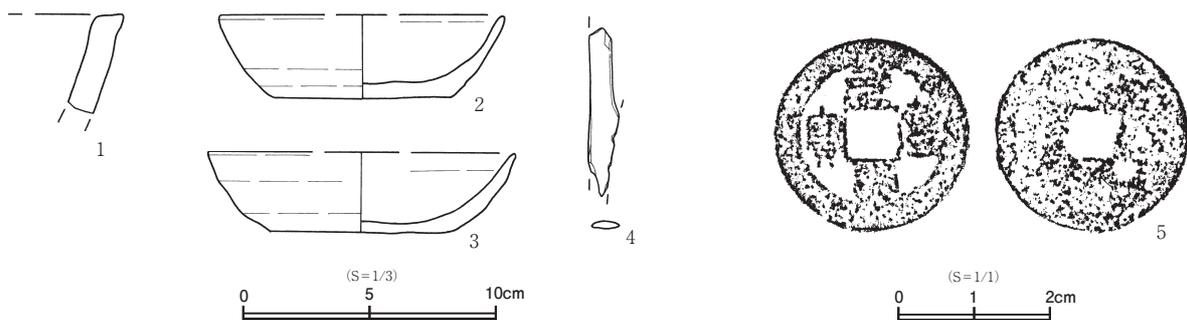


図68 11号方形竪穴建物出土遺物

#### 12号方形竪穴建物

本址はI区のx22～26、y49～52の間に位置し、内部を遺構75、遺構81、11号方形竪穴建物に、北をT6号土坑に壊され、南は調査区外に延びている。平面形は南北に長い長方形で、確認規模は南北(280)cm、東西220cm、深さ30cm、底面の海拔レベルは9.38mを測る。主軸方位N-2°-Eである。底面は平坦で柱穴などは確認できなかった。

図示できる出土遺物はない。

#### 13号方形竪穴建物

本址はI区のx21～24、y48～49の間に位置し、東を12号方形竪穴建物に壊され、南は調査区外に延びている。平面形はやや崩れた方形で、確認規模は南北(195)cm、東西(100)cm、深さ30cm

27は薄手作りの中皿、28～33は大皿。30、31は薄手作りで33は底部が厚く高台状になり、器高が高い。34は石製品の滑石加工品で用途不明品、35は鉄製品の刀子、36はメジロザメの脊椎で、側面に刃物のキズ痕がある。

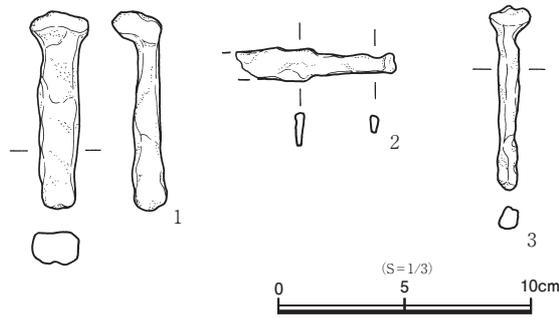


図69 13号方形竪穴建物出土遺物

15号方形竪穴建物

本址はI区のx29～31、y51～54の間に位置し、東の一部を現代攪乱に壊され、約半分が北の調査区外に延びている。平面形は東壁がやや歪んだ方形で、確認規模は東西310cm、南北(240)cm、深さ20cmを測る。底面の海拔レベルは9.52m、主軸方位は西壁で計測するとN-11°-Eである。底面は平坦で柱穴などは確認できな

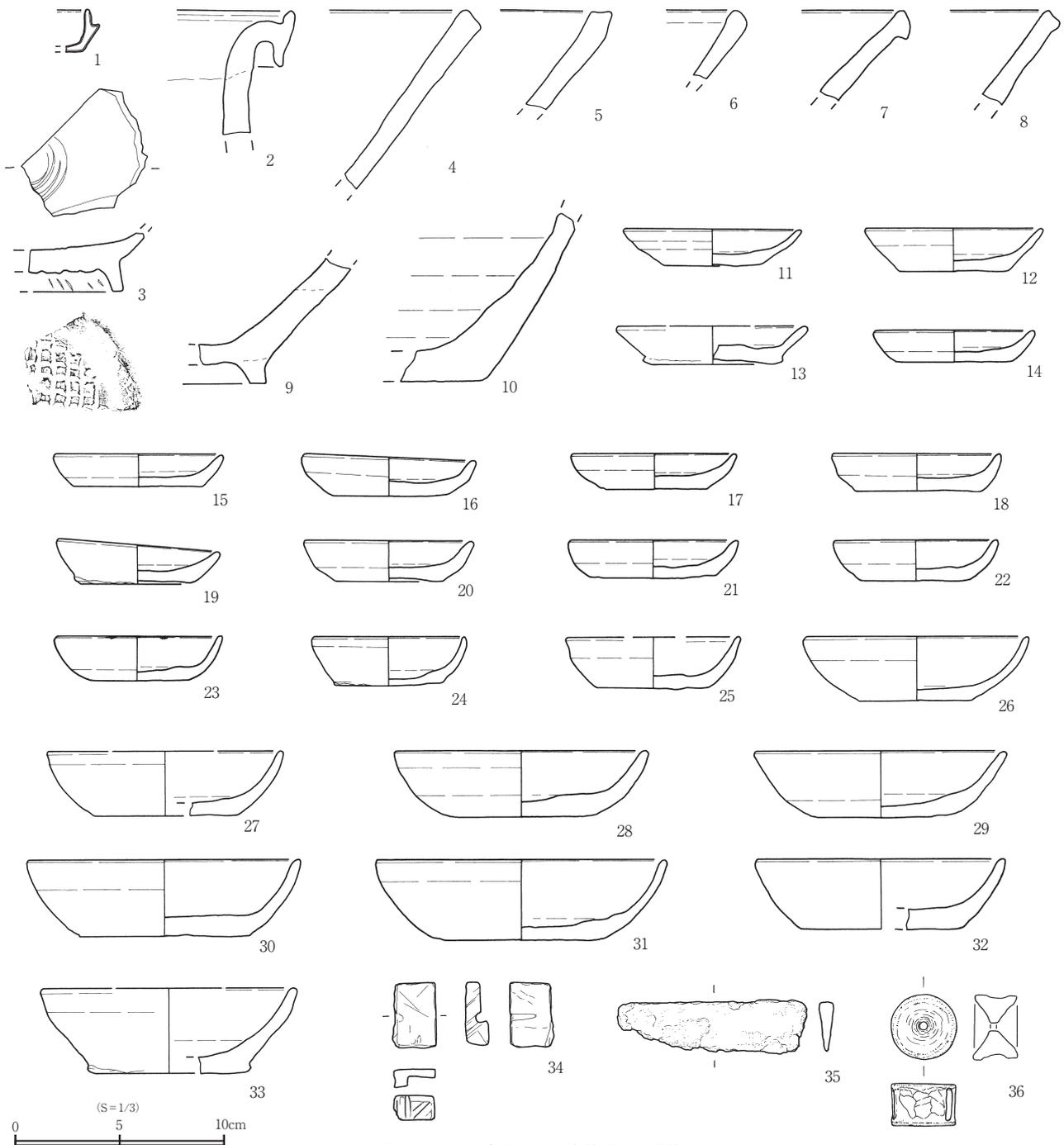


図70 14号方形竪穴建物出土遺物

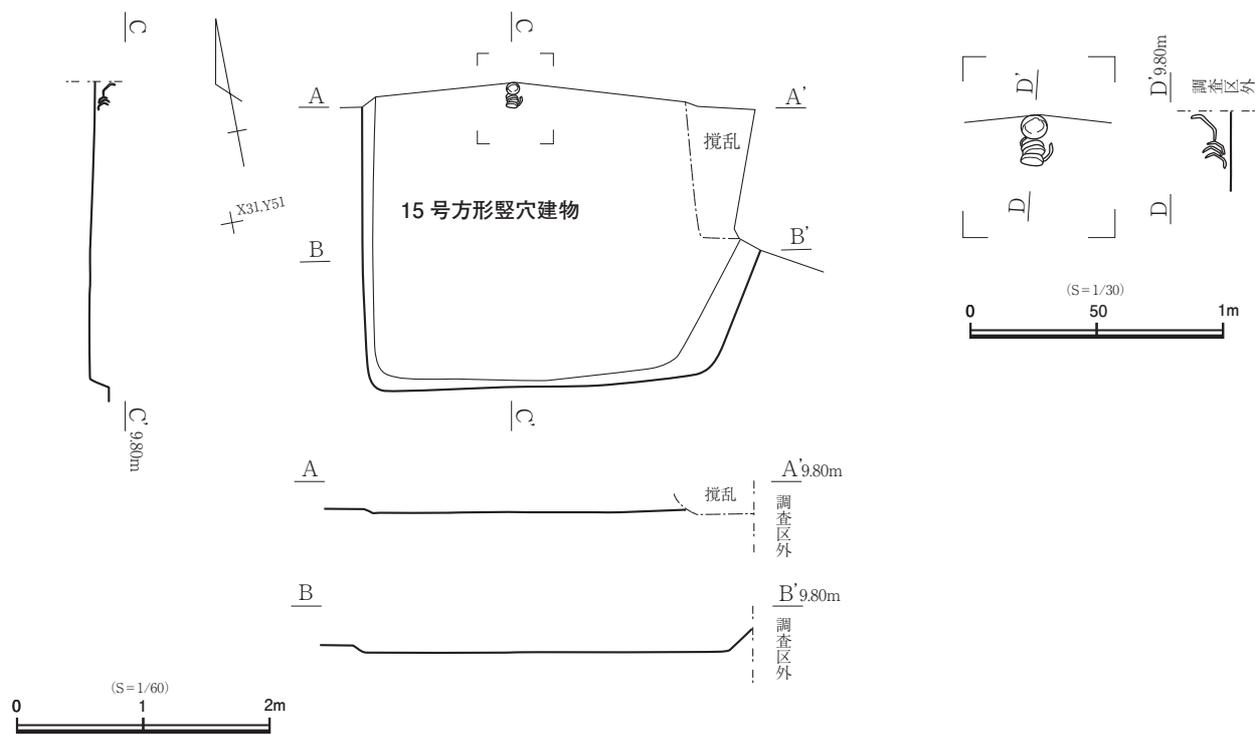


図71 15号方形竪穴建物

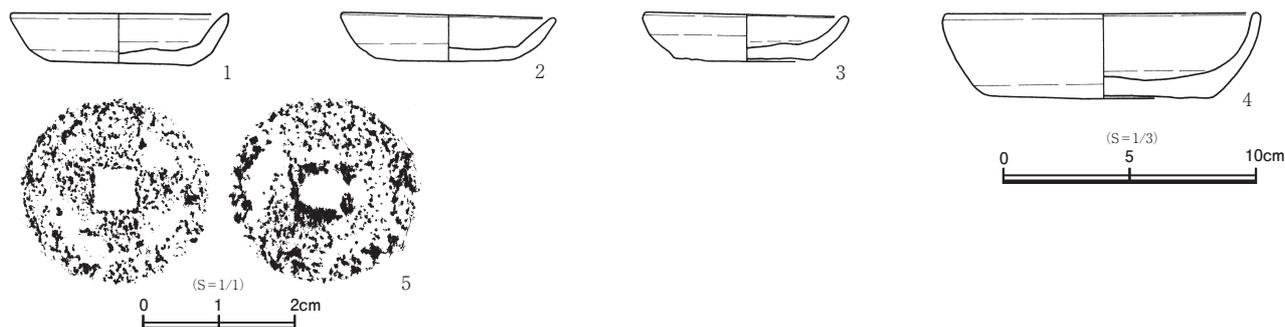


図72 15号方形竪穴建物出土遺物

ったが、北壁際でかわらけ皿が4枚まとまって出土している。

遺物は図72-1～5に5点が図示できた。1～4はかわらけ皿で、1～3は小皿、4は薄手大皿、5は銅銭で判読不能である。

#### 16号方形竪穴建物

本址はⅡ区のx29～34、y11～13の間に位置し、南で18号方形竪穴建物を壊して、西は西壁に向かって1面の確認面が下がっているため検出できなかった。残存部は北壁がやや不自然になっているが、平面形は方形と思われる。確認規模は南北520cm、東西(140)cm、深さ18cmを測る。底面海拔レベルは9.65m、主軸方位N-11°-Wである。覆土は暗褐色砂質土で、底面は平坦、柱穴などは検出できなかった。

遺物は図74-1～11に11点が図示できた。1は中国製褐釉小壺の口縁部、2は薄手造りのかわらけ皿の中皿、3は骨製品の筭で、鹿の下肢骨を加工している。4～10は鉄製品で、4は鎧の小札、5～10は釘。11は土師器の破片の外周を円形に打ち欠いた製品である。

#### 17号方形竪穴建物

本址はⅡ区のx35～39、y29～30の間に位置し、南は現代攪乱に壊され、東は調査区外に延びている。平面形は方形で、確認規模は南北(220)cm、東西(48)cm、深さ25cmを測る。底面の海拔レベルは

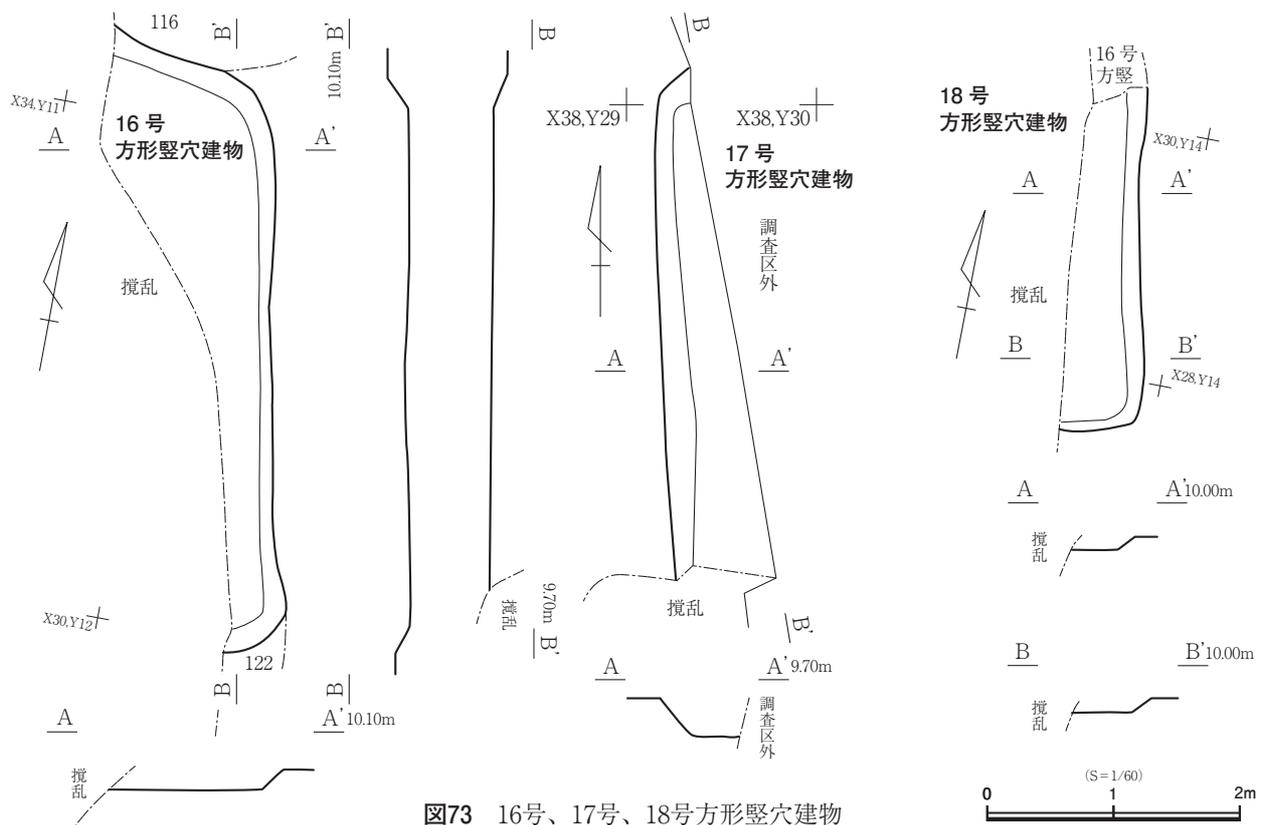


図73 16号、17号、18号方形竪穴建物

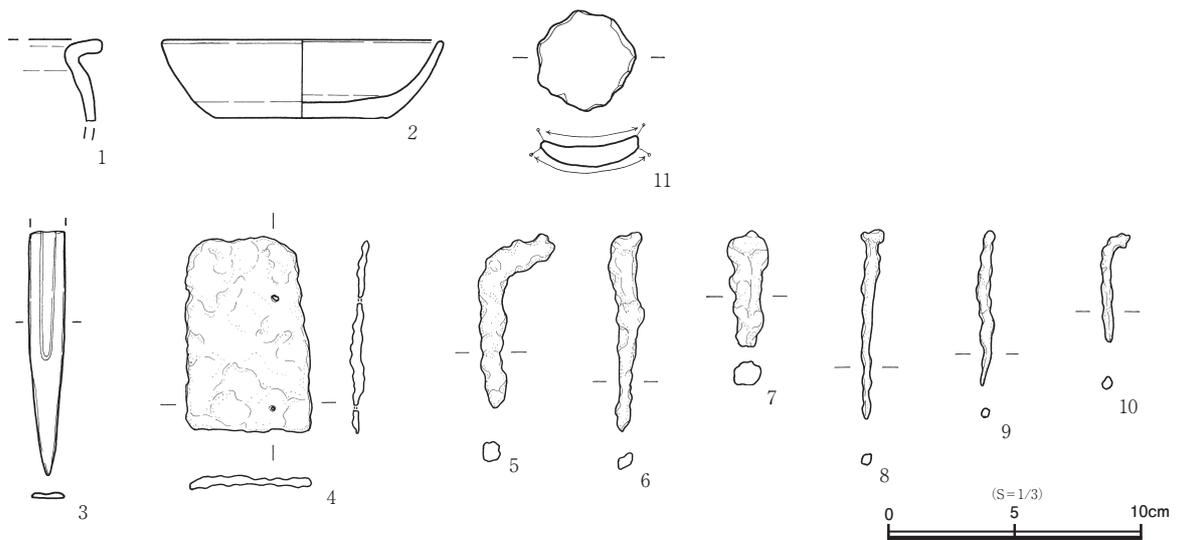


図74 16号方形竪穴建物出土遺物

9.60m、主軸方位 N-4° -E である。覆土は暗褐色砂質土で、底面からは柱穴などは検出できなかった。

遺物は図 75-1 ~ 13 に 13 点を図示した。1, 2 は常滑窯甕口縁部(6b 期)、3, 4 は山茶碗窯片口鉢口縁部、5, 6 は産地不明の片口鉢で、5 は口縁部、6 は胴部下位 ~ 底部。7 は東遠系山茶碗胴部下位 ~ 底部。8 ~ 10 はかわらけ皿で、8 は薄手作り小皿で口縁部にススが付着、10 は薄手造りの中皿で底面内外面にススが付着、11 は瓦質鉢型火鉢の口縁 ~ 底部、12, 13 は鉄釘である。

#### 18号方形竪穴建物

本址はⅡ区の x27 ~ 30、y13 の間に位置し、北を 16 号方形竪穴建物に壊されている。西は、西壁に向かって 1 面の確認面が下がっているため、検出できなかった。残存部から、平面形は方形で、確認規模は南北 275cm、東西 (63) cm、深さ 11cm を測る。底面の海拔レベルは 9.60m、主軸方位 N-10° -W である。覆土は暗褐色砂質土で、底面は平坦で柱穴などは確認できなかった。

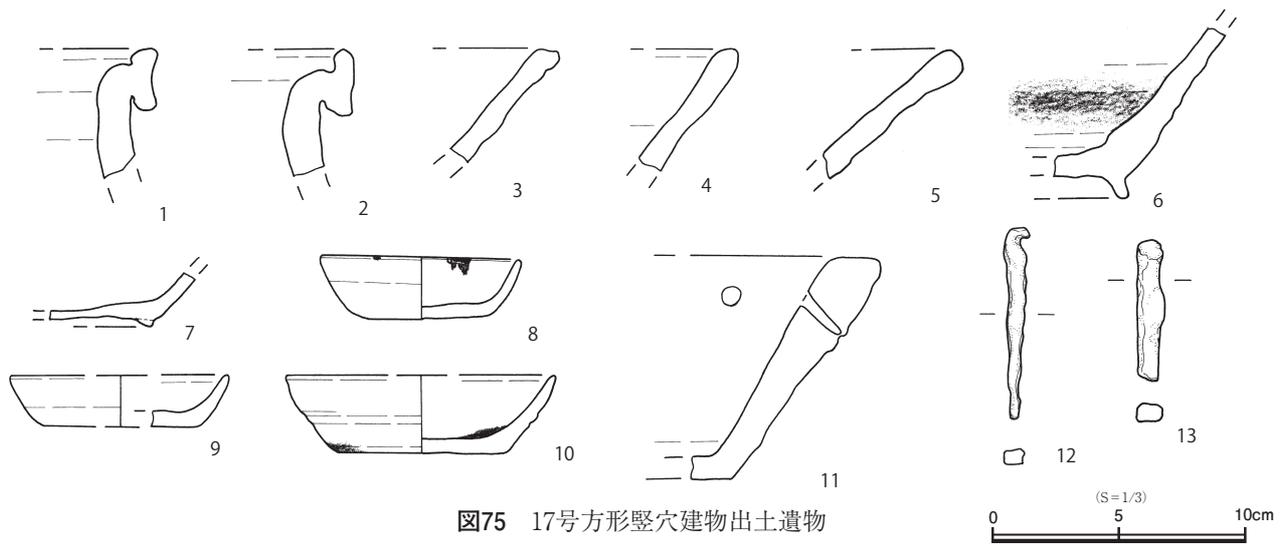


図75 17号方形竪穴建物出土遺物

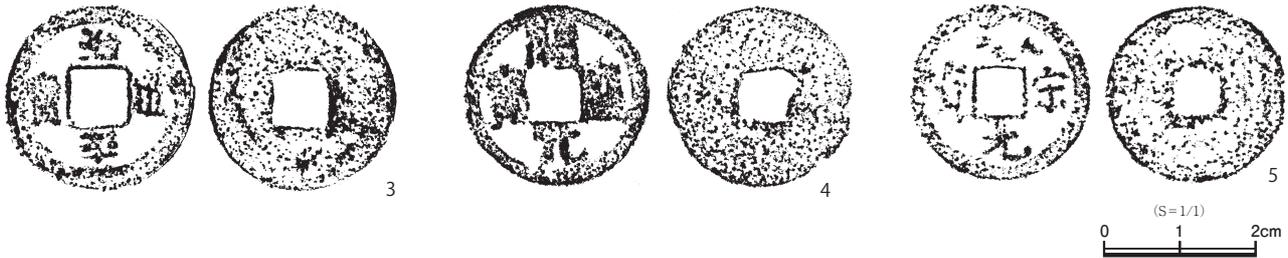
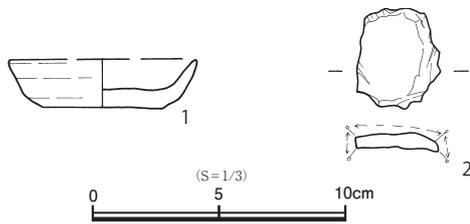


図76 18号方形竪穴建物出土遺物

遺物は図 76-1 ~ 5 に 5 点が図示できた。1 はかわらけ皿の小皿、2 は骨で周囲を刃物で削った痕跡が残り、製品の加工途中と思われるが不明。3 ~ 5 は銅銭で、銭名は 3 が治平通寶（初鑄 1064）、4 は開元通寶（初鑄 845）、5 は大宋元寶（1225 年）である。

### 19号方形竪穴建物

本址はⅢ区の x22、y28 の間に位置し、北は調査区外に延びている。確認部分のうちⅡ区の東壁近くは安全を考慮して、底面まで掘り下げなかった。平面形は方形で、確認規模は東西（560）cm、南北（240）cm、深さ 119cm を測る。底面の海拔レベルは 8.35m、主軸方位は西壁の下端で計測すると N-90° -E である。覆土は裏込め部分を含めて 9 層に分層できた。底面は平坦で柱穴などは検出できなかった。

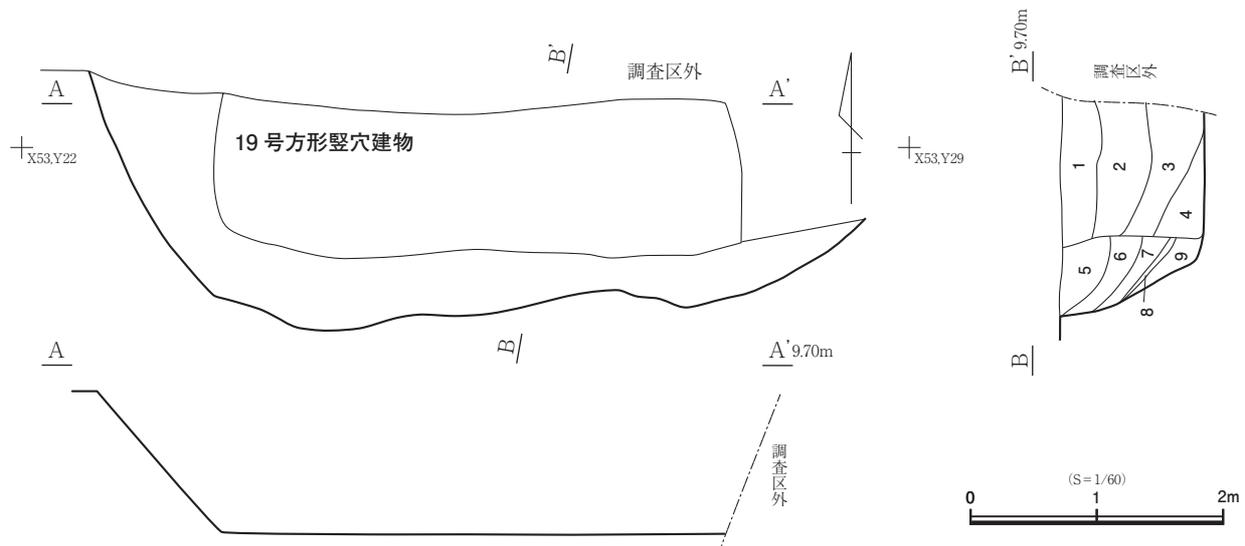
遺物はかわらけ皿、常滑甕などの破片が出土しているが、図 78 に 1 点が図示できた。1 は方形の鉄製品で、端部は折り曲げてあり箱状を呈している。用途不明品である。

### (2) 井戸 (図 79 ~ 図 83)

井戸は 2 基が検出された。2 基の井戸からは他の 1 面遺構より新しい年代のかわらけ皿が出土している。井戸が構築された時代の遺構群は削平されて残っていないと考えている。

#### 井戸 1

本址はⅠ区の x13 ~ 19、y32 ~ 38 の間に位置し、上層の一部は現代攪乱により壊されている。掘り方土坑は不整円形で、確認規模は東西 570cm、南北 550cm を測る。土坑確認面から約 50cm 掘り下げた



**19号方形竪穴建物 土層説明**

1層 黒褐色砂	粒子細かい。貝細片を多く含む。	5層 暗茶褐色砂
2層 暗茶褐色砂	炭化物・貝細片を多く含む。	6層 暗茶褐色砂
3層 茶褐色砂	粒子細かい。炭化物を含む	7層 黄白色砂
4層 茶褐色砂		8層 黄褐色砂
		9層 黄茶褐色砂

図77 19号方形竪穴建物

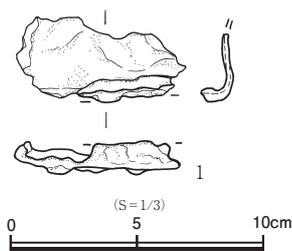


図78 19号方形竪穴建物出土遺物

ところで井戸杵を確認した。井戸杵は土坑中央からやや南に作られている。木材の残りは非常に悪く、確認できたのは杵材の痕跡のみで、支柱角材や側板材の区別は出来なかった。検出した杵材は、検出部分では26度東に傾いている。覆土内から漆喰片が出土しており、本来は井戸杵に塗られていたと考えられる。

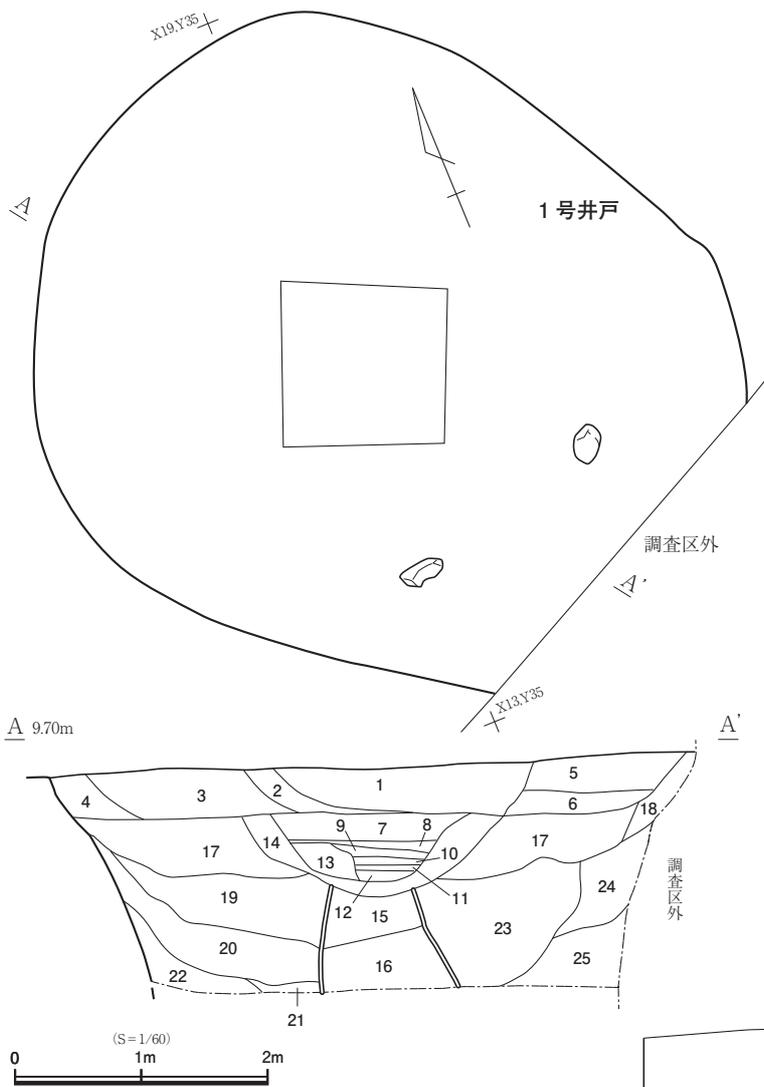
井戸杵の寸法は東西123cm、南北125cmで、確認部分から計測した主軸方位はN-21°-Eである。井戸杵内は確認面から260m（海拔6.85m）まで掘り下げたが、崩落の危険が生じたため、その高さで調査を終了した。

遺物は図80-1～15に15点が図示できた。1、2は山茶碗窯片口鉢胴部～底部、3、4は瀬戸窯卸皿口縁部～底部、5～7はかわらけ皿。5、6は小皿で5の口縁部にはススが付着している。7は薄手作りの大皿。8は瓦質火鉢口縁部で、外面には菊花のスタンプが捺されている。9は火鉢口縁部、10は骨製品の筭。11～14は鉄製品で、11は落とし鍵、12～14は釘、15は銅銭で銭名は元豊通寶（初鑄1078年）である。

**井戸2**

本址はⅢ区のx48～52、y13～18の間に位置し、1号井戸同様に上部は現代攪乱により壊されている。掘り方土坑は不整形で、調査区の北と南に一部が延びている。確認規模は東西625m、南北（380）mで、確認面から50cm掘り下げた高さで井戸杵の痕跡が確認できた。井戸杵は土坑の中心からかなり南に作られている。井戸杵の寸法は東西110cm、南北102cmを測る。井戸杵の残存部から計測すると主軸方位はN-1°-Wである。井戸杵内部は60cm（海拔7.51m）まで掘り下げたが、調査区の南壁が崩落したため、その高さで調査を終了した。

遺物は、図82-1～図83-59に59点が図示できた。1は中国製青白磁梅瓶胴部下位～底部、2は中国製青磁腰折碗体部下位～底部、3は青磁折縁鉢口縁部、4～9は常滑窯甕口縁部。10、11は瀬戸窯入子、12は瀬戸窯灰釉皿、13は瀬戸窯小形片口鉢（中野5）、14は東濃系山茶碗、15～19は常滑窯片口鉢口縁部、



1号井戸 土層説明

- |     |        |                             |
|-----|--------|-----------------------------|
| 1層  | 白灰色砂   | 貝・砂の粒径大きめで<br>やや粗。層相しま状。    |
| 2層  | 白灰色砂   | 1層よりきめ細かい。                  |
| 3層  | 茶灰色砂質土 | 砂質強い。                       |
| 4層  | 茶灰色砂質土 | 砂質弱い。                       |
| 5層  | 白灰色砂   |                             |
| 6層  | 灰色砂    |                             |
| 7層  | 茶灰色砂   | 貝・砂の粒径大きく粗。<br>貝片・土器片を多く含む。 |
| 8層  | 茶灰色砂   | 7層よりきめ細かい。                  |
| 9層  | 茶灰色砂質土 | 8層より粒子が細かい。                 |
| 10層 | 茶灰色砂質土 |                             |
| 11層 | 茶灰色砂質土 | 炭化物をごく少量含む。                 |
| 12層 | 茶灰色砂質土 | 粒子細かく、含有物が少ない。              |
| 13層 | 茶灰色砂質土 | 貝が多く混じる。炭化物を<br>多く含み色調黒ずむ。  |
| 14層 | 茶灰色砂質土 | 粒子細かく、<br>含有物がとくに少ない。       |
| 15層 | 灰褐色砂   |                             |
| 16層 | 暗灰褐色砂  |                             |
| 17層 | 黄白色砂   | 貝の粒子が多く混じる。                 |
| 18層 | 茶灰色砂質土 | 砂質強い。                       |
| 19層 | 灰褐色砂   | 暗褐色砂質土がごく少量混じる。             |
| 20層 | 灰色砂    |                             |
| 21層 | 灰色砂    |                             |
| 22層 | 暗灰色砂   |                             |
| 23層 | 灰色砂    |                             |
| 24層 | 灰褐色砂   | 暗褐色砂質土が多く混じる。               |
| 25層 | 灰褐色砂   |                             |

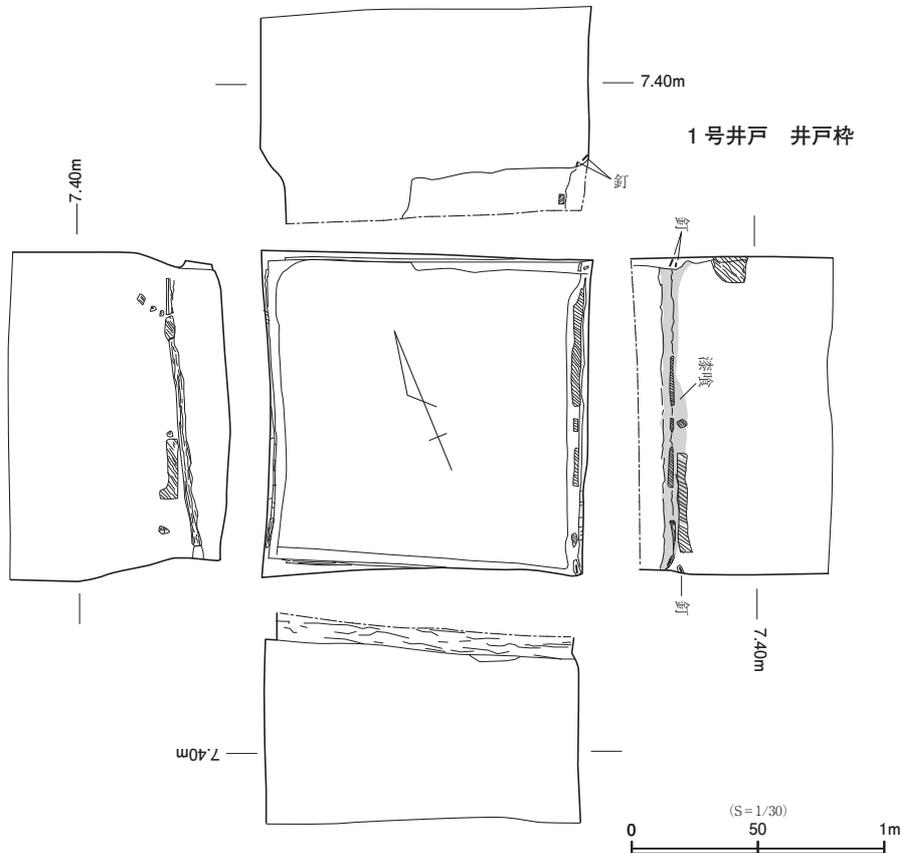


図79 1号井戸

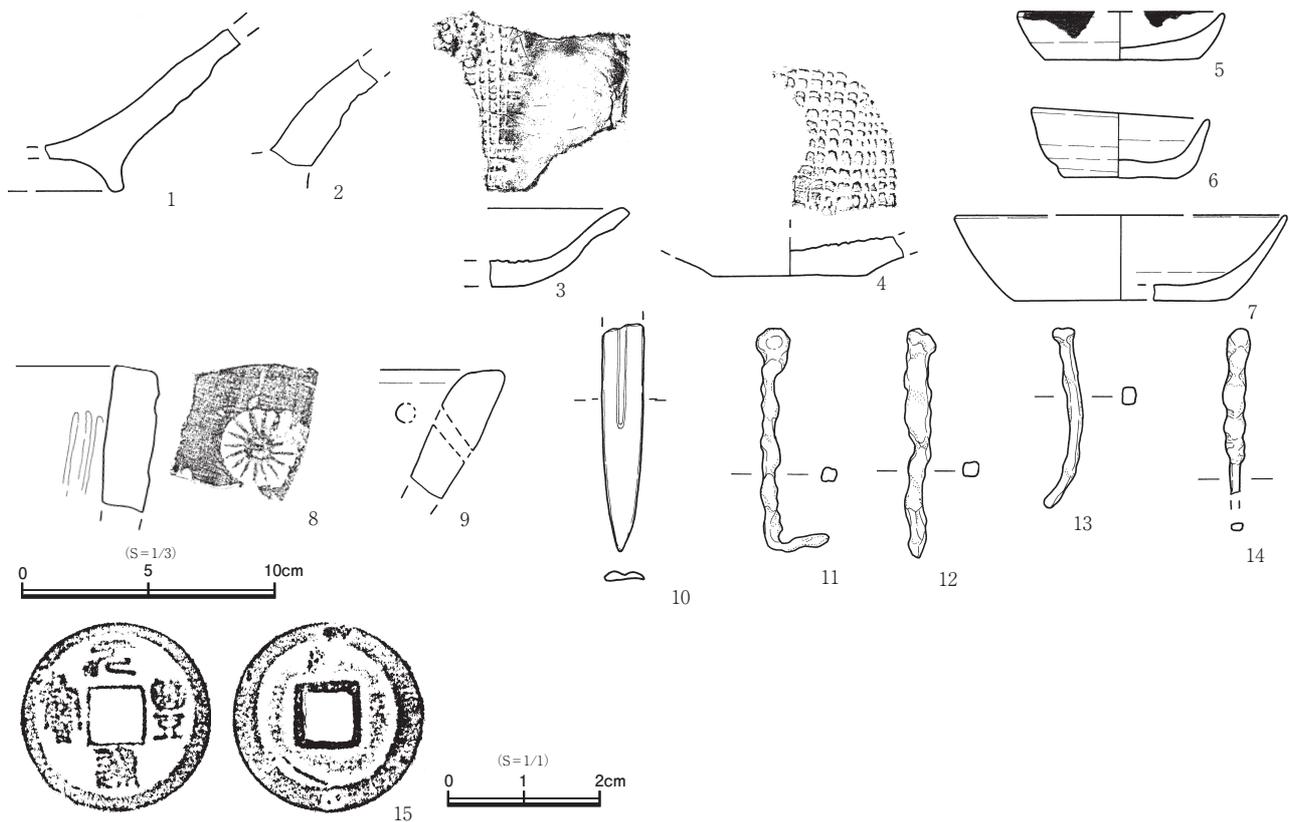


図80 1号井戸出土遺物

20は山茶碗窯系片口鉢胴部～底部。21～37はかわらけ皿で、21～25は小皿、22、23、25は口縁部にススが付着している。26、27は薄手中皿で27にはススが付着、28～37は大皿で薄手作り、30、34、35にはススが付着している。36、37の内底面には指頭ナデが施されていない。38は瓦質火鉢口縁部で外面に菊花文のスタンプが捺されている。39は土器質鉢型火鉢口縁部。40は常滑窯甕片の外周を磨いた磨り常滑、41～48は骨製品で、41～47は筭、48は不明。49～51は石製品の砥石で、いずれも石材は細粒泥岩で鳴滝産、52は石製品の磨石と思われる。53は鉄製品の皿、54～59は鉄製品で、54は火箸、55～59は釘である。

### (3) 溝 (図84～図88)

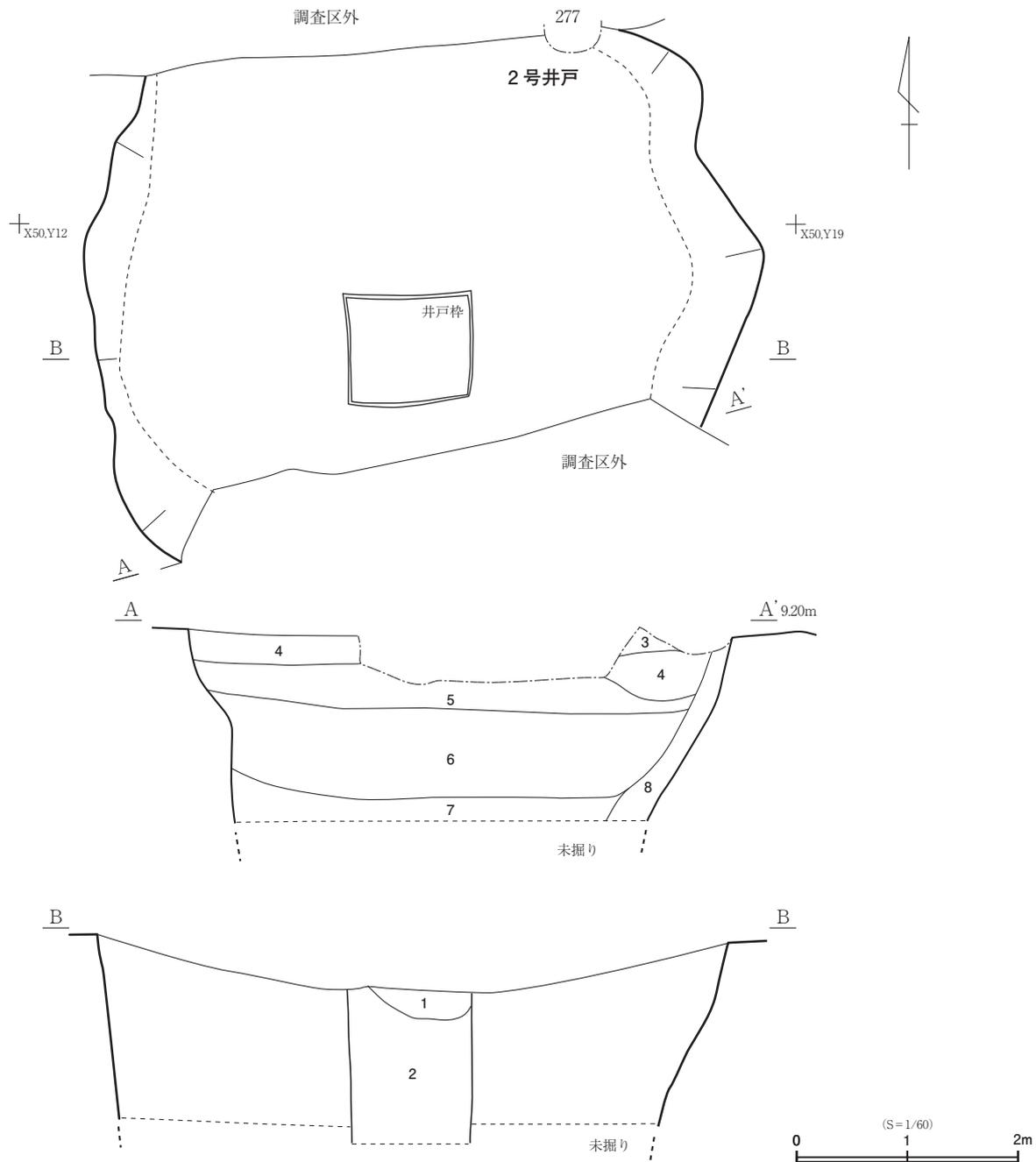
溝あるいは溝状遺構として確認した遺構をここに含めた。溝としては不自然な遺構もあるが、とりあえず提示した。

#### T1号、T2号、T3号溝

Ⅱ区の飛砂中で散乱するヒトの頭骨や動物骨が数多く検出された。それらの骨を検出する作業の結果、東西方向に延びる重複した3本の溝 (T1号、T2号、T3号) を確認した。溝の全体規模は上幅約900cm、深さ135cmを測る。これらの溝は砂丘後背湿地の窪みである可能性も考えたが、基本V層や基本X層のような黒色弱粘質砂層の堆積は確認できなかった。そのため溝として扱った。3本の溝は飛砂で埋っているが、この飛砂は基本IV層と考えている。中世遺構のほとんどは基本IV層の上面から掘り込まれているため、本遺構は方形竪穴建物他の遺構群に先行して構築されていた可能性が高い。この溝は西側で不明瞭になり、Ⅱ区の西壁では確認できなかった。

遺物は骨や貝殻に混じって、それぞれに古代の土器片などが出土している。

T1号溝はⅡ区のx25～30、y10～27の間に位置している。東端は2面の5号竪穴住居址辺りで消滅し、西端はy10ライン辺で途切れて、約150cm西の調査区西壁では確認できない。断面形は浅いU字



**2号井戸 土層説明**

- |         |                  |         |                 |
|---------|------------------|---------|-----------------|
| 1 暗黄褐色砂 | 暗褐色砂と黄褐色砂が混合する。  | 4 暗茶灰色砂 | きめ細かい。          |
| 2 暗褐色砂  | 黄褐色砂をブロック状に多く含む。 | 5 茶灰色砂  | 貝小片を多く含む。       |
| 3 茶褐色砂  |                  | 6 暗褐色砂  |                 |
|         |                  | 7 暗褐色砂  |                 |
|         |                  | 8       | 基本土層Ⅸ(飛砂)層の崩落土。 |

**図81** 2号井戸

形で覆土は飛砂、上端ラインは屈曲して直線的ではない。確認規模は上幅 190cm ~ 310cm、深さ 60cm ~ 115cm を測る。底面の海拔レベルは東端で 8.95m、西端で 8.50m である。

T2号溝はⅡ区の x29 ~ 36、y16 ~ 29 の間に位置している。東端は調査区外に延び、西端は y17 辺りで T3号溝に合流している。新旧関係は確認できなかったが、仮に切り合い関係があった場合、T3号溝が新しい様相を呈している。断面形は浅いU字形で覆土は飛砂、上端ラインはやはり屈曲して直線的ではない。確認規模は上幅 180cm ~ 200cm、深さ 40cm ~ 65cm を測る。底面レベルはⅡ区東壁で 8.54m、西の合流地点で 8.32m である。

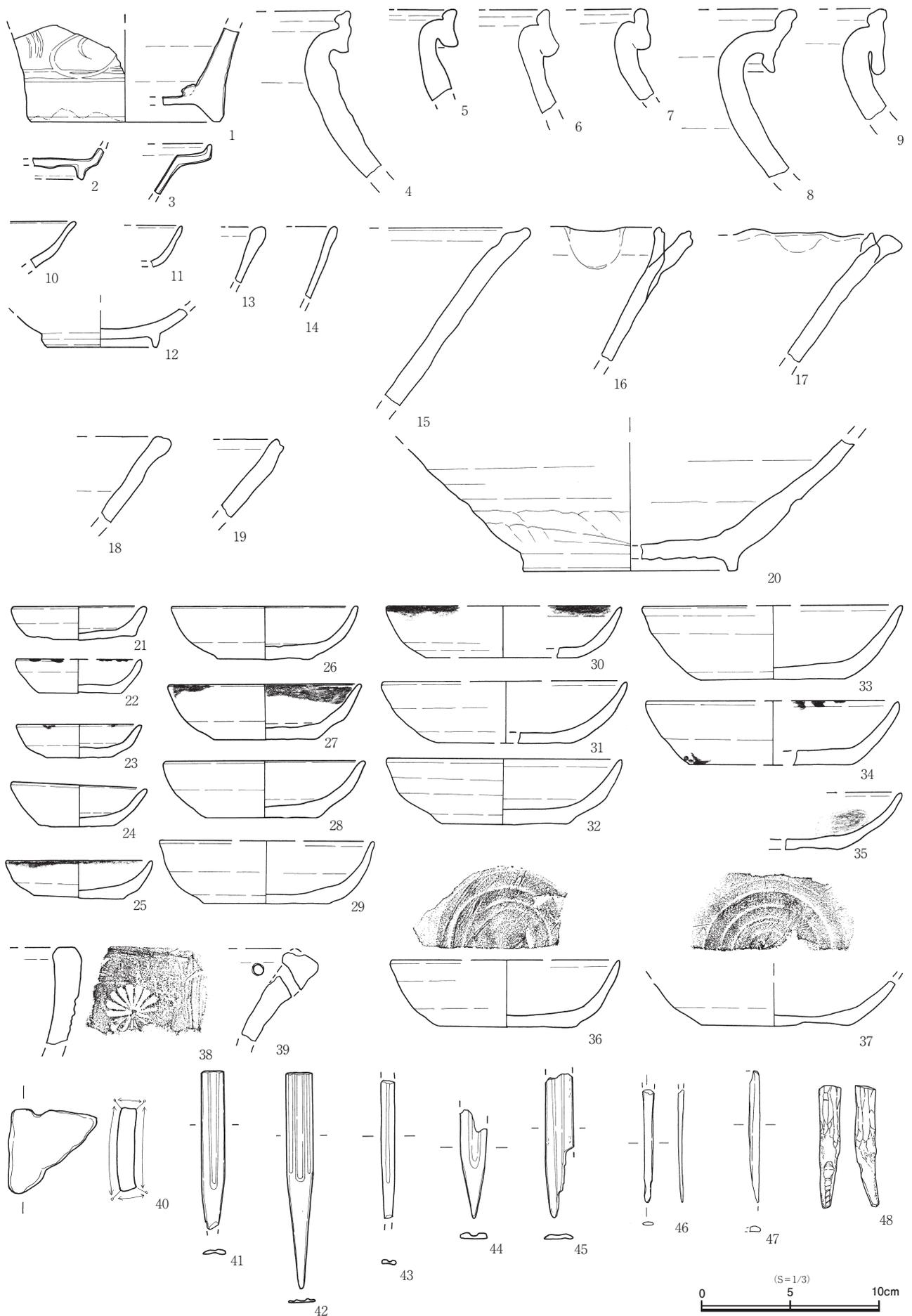


图82 2号井戸出土遺物(1)

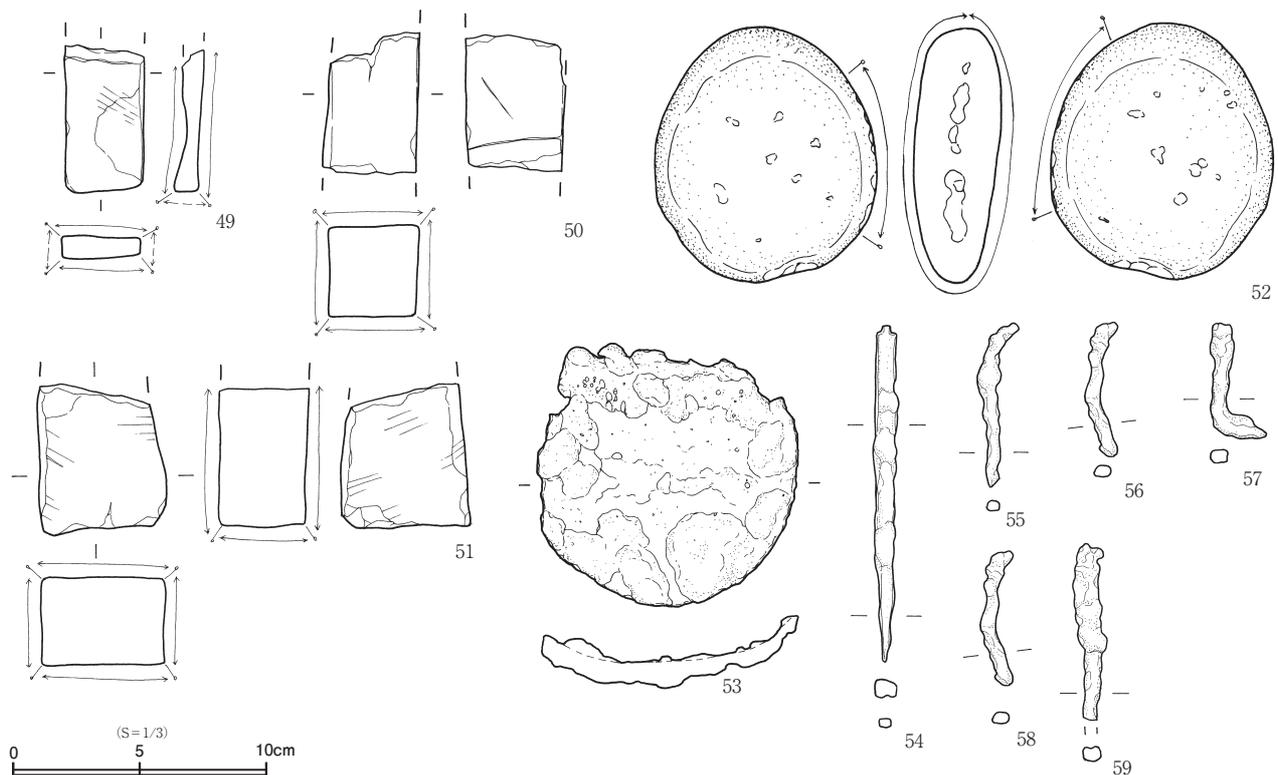


図83 2号井戸出土遺物 (2)

T3号溝はⅡ区の x28～38、y10～29の間に位置している。東は調査区外に延び、西端はy10ライン辺りで途切れて、約150cm西の調査区西壁では確認できない。断面形は浅いU字形で、北壁はなだらかに立ち上がっている。覆土は飛砂、上端ラインはやはり屈曲して直線的ではない。確認規模は上幅250cm～370cm、深さ53cm～135cmを測る。底面の海拔レベルはⅡ区東壁9.4m、西端で8.61mを測る。

遺物は溝の北側斜面のx38、y24辺りから出土している。図89-1、2に2点図示した。1は手づくね成形の内折れ皿完形品、2は鉄製品で用途不明品である。

#### T4号溝

本址はⅢ区のx48～50、y9の間に位置し、北と西の調査区外に延びている。北壁のy7～8から南に向かい、x48ライン辺りで西にほぼ90度で曲がる溝である。何らかの区画施設と思われるが不明。確認規模は上幅115cm、深さ47.5cmで、覆土は暗褐色砂質土で少量の人頭大の泥岩塊と炭化物を含んでいる。底面海拔レベルは北壁で8.31m、x48ライン辺りで8.28m、西壁で8.33mである。底面の海拔レベルでは北に向かって低くなる。

遺物は図89-3～8に6点が図示できた。3は山茶碗窯片口鉢口縁部、4は東濃系山茶碗の底部である。5、6はかわらけ皿で、5は薄手造りの小皿、6は同中皿で、内側底面にススが付着している。7は瓦質火鉢口縁部、8は坩堝で、溶けた鉄あるいは銅がベッタリと付着している。

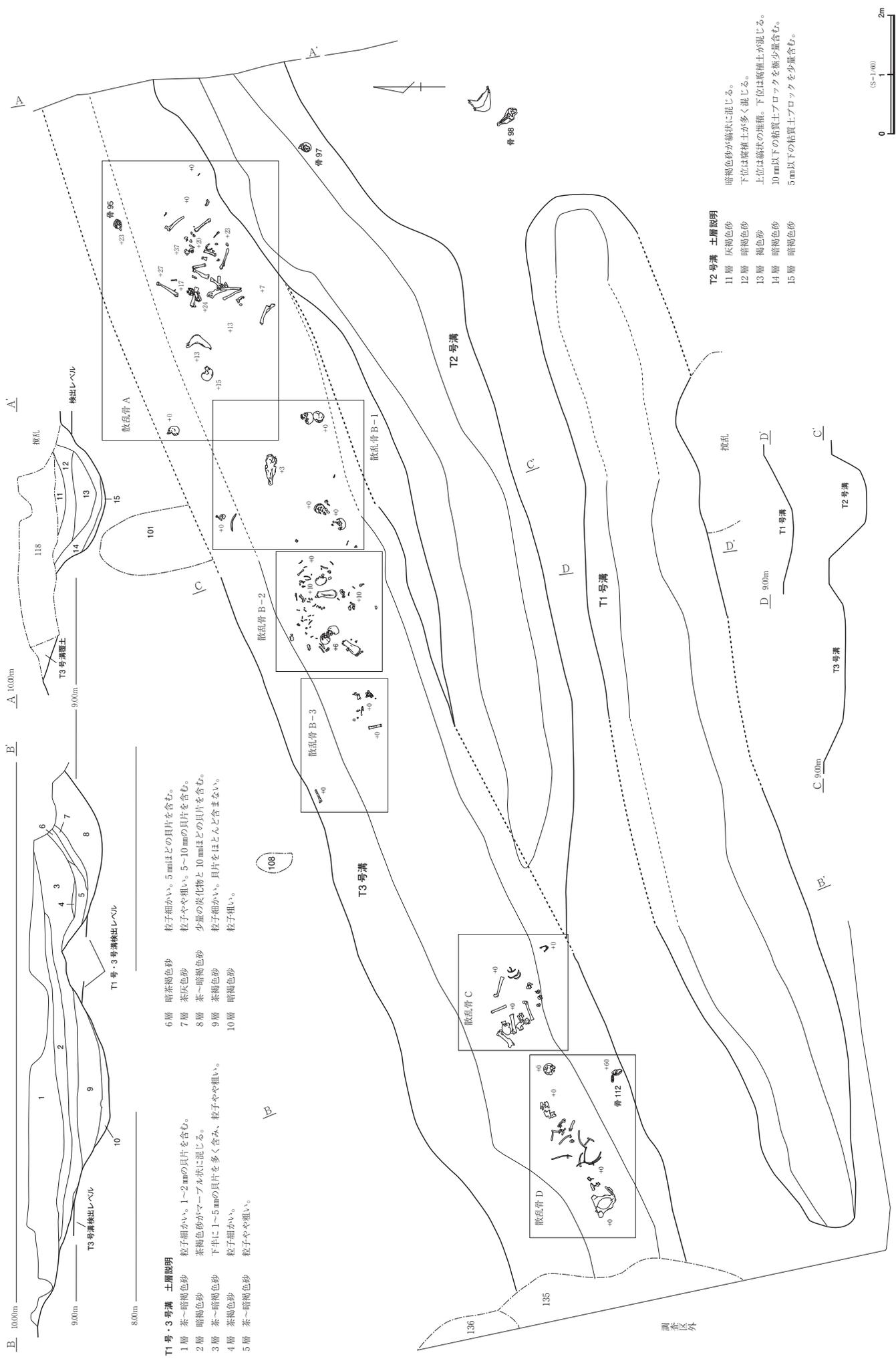
#### T5号溝

本址はⅢ区のx52～53、y21～22の間に位置している。Ⅲ区の北壁から南に身かって延び、南端は不明瞭になっている。断面形は浅い皿型で、確認規模は長軸76cm、幅22cm、深さ21.5cm、底面の海拔レベルは9.30mを測る。

図示できる出土遺物はない。

#### (4) 土壌墓 (図89・90)

土壌墓はⅠ区で1基、Ⅱ区で3基が検出された。単体埋葬はT1号土壌墓、T3号土壌墓の2基で、



**T2号溝 土層説明**  
 11層 灰褐色砂  
 12層 暗褐色砂  
 13層 褐色砂  
 14層 暗褐色砂  
 15層 暗褐色砂

暗褐色砂が礫体に混じる。  
 下位は礫層土が多く混じる。  
 上位は礫状の堆積。下位は礫層土が混じる。  
 10mm以下の粘質土ブロックを極少量含む。  
 5mm以下の粘質土ブロックを少量含む。

**T1号・3号溝 土層説明**  
 1層 茶～暗褐色砂 粒子細かい、1～2mmの貝片を含む。  
 2層 暗褐色砂 茶褐色砂がマーブル状に混じる。  
 3層 茶～暗褐色砂 下半に1～5mmの貝片を多く含む、粒子やや粗い。  
 4層 茶褐色砂 粒子細かい。  
 5層 茶～暗褐色砂 粒子やや粗い。  
 6層 暗褐色砂 粒子細かい、5mmほどの貝片を含む。  
 7層 茶灰色砂 粒子やや粗い、5～10mmの貝片を含む。  
 8層 茶～暗褐色砂 少量の炭化物と10mmほどの貝片を含む。  
 9層 茶褐色砂 粒子細かい、貝片をほとんど含まない、粒子粗い。  
 10層 暗褐色砂 粒子粗い。

A 1000m

B 1000m

B 1000m



図84 T1号、T2号、T3号溝

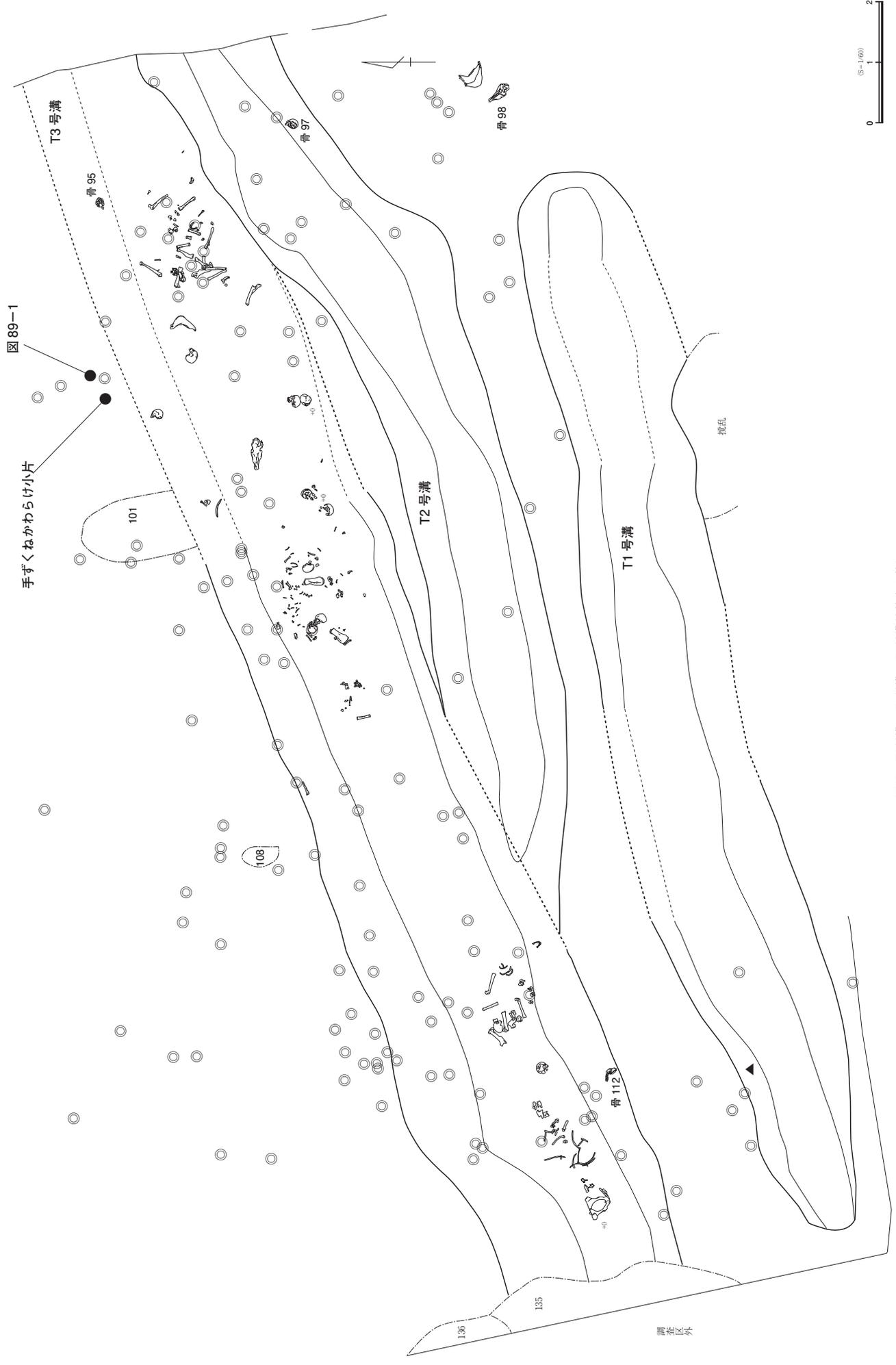


図85 T1号溝、T2号溝、T3号溝骨他出土状況

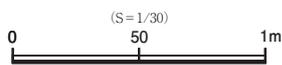
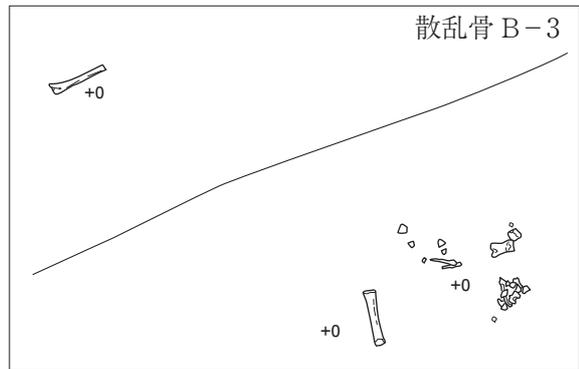
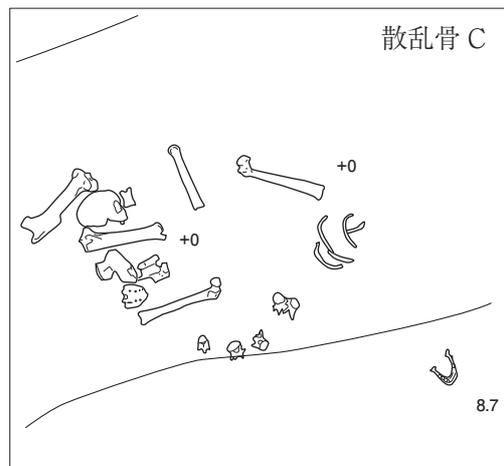
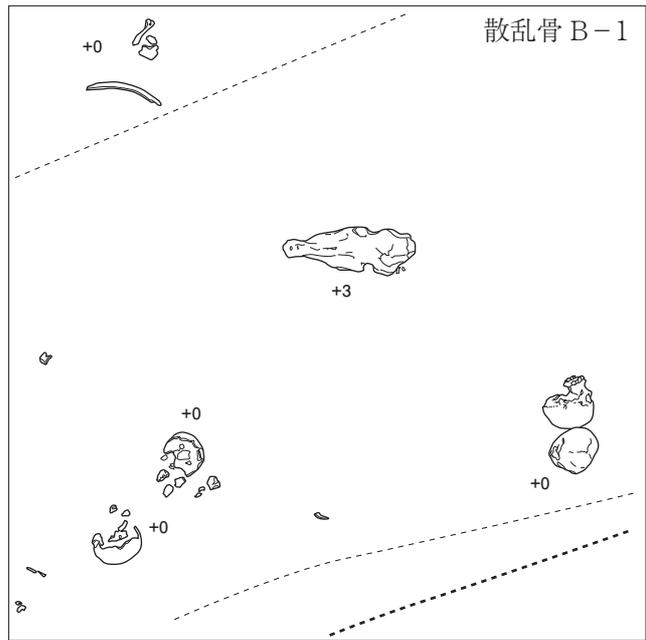
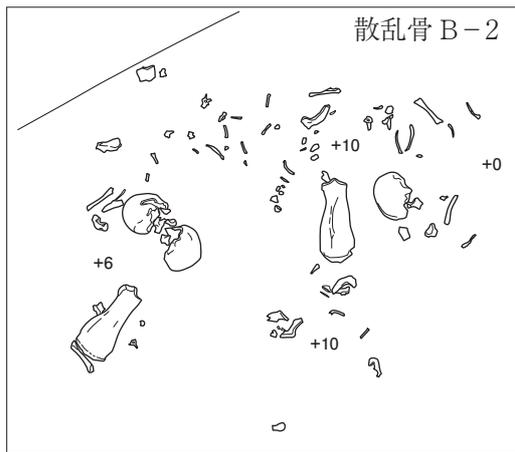
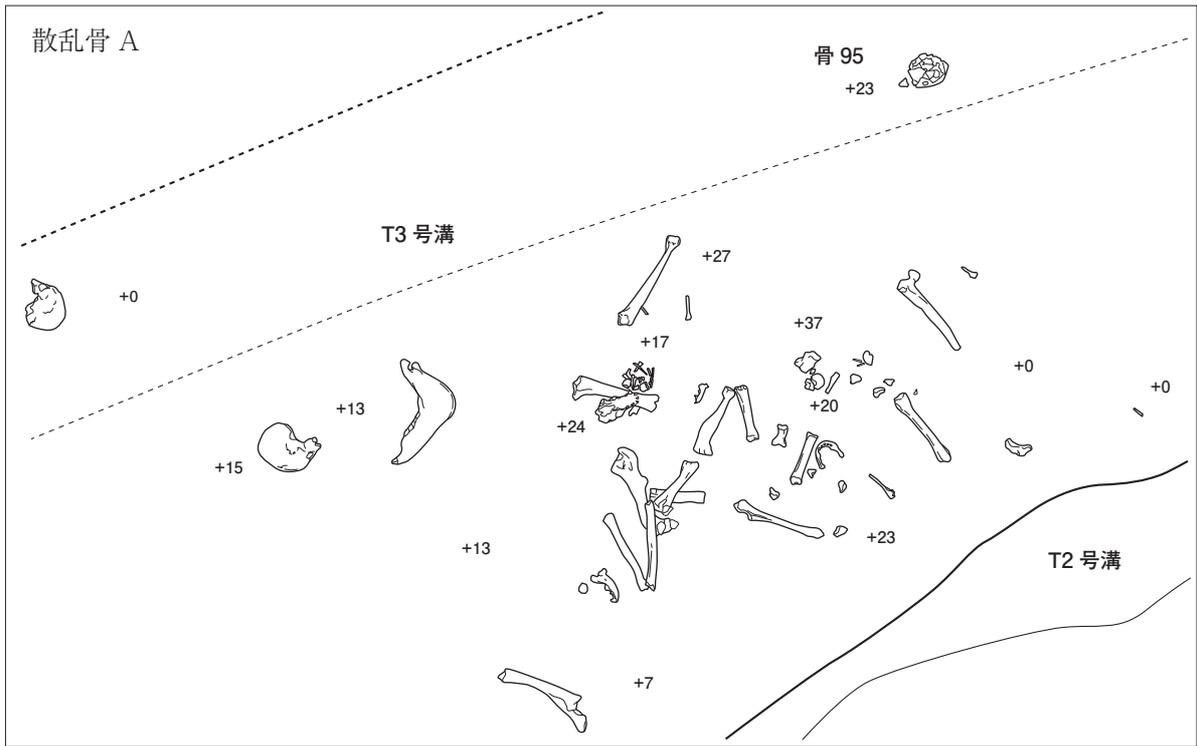


图86 散乱骨 (1)

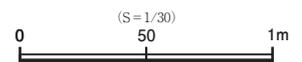
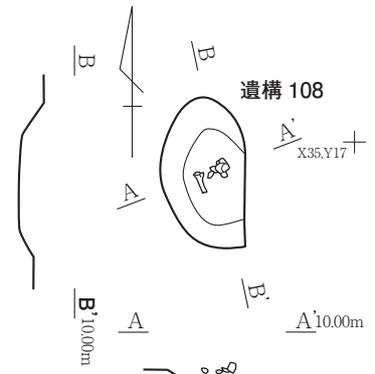
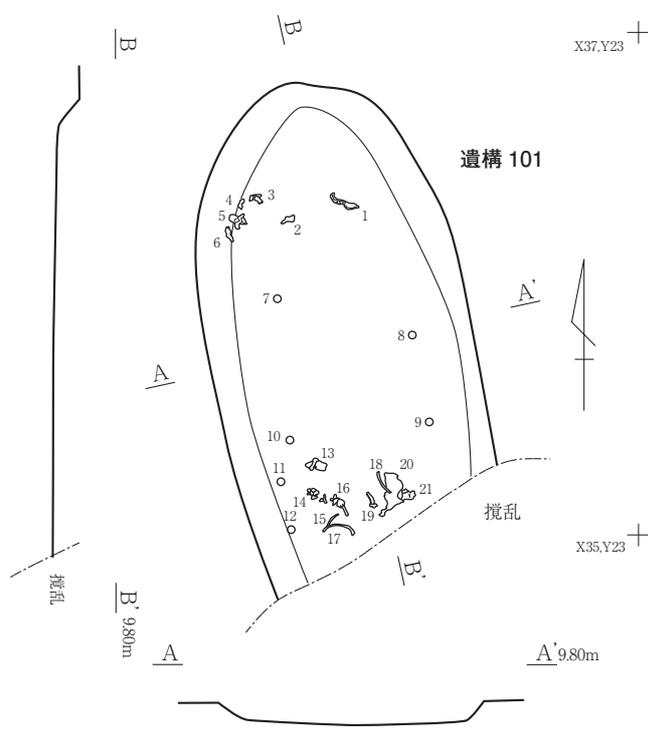
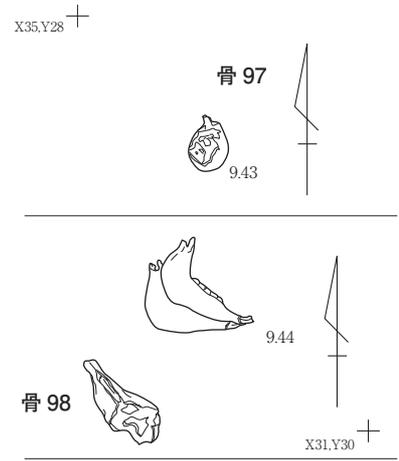
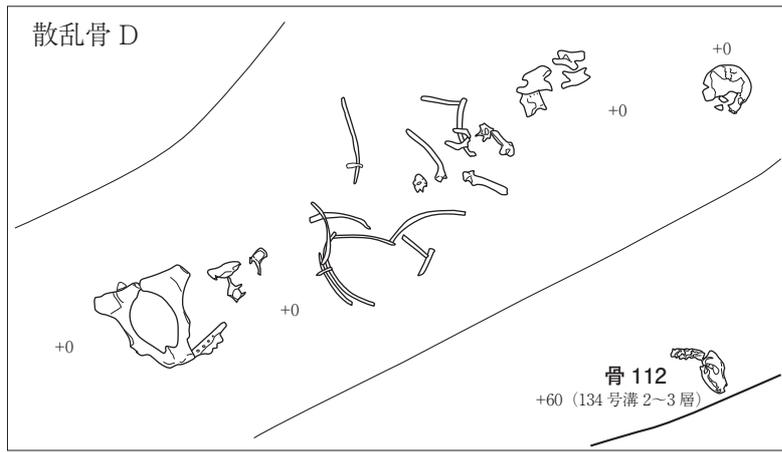


図87 散乱骨 (2)

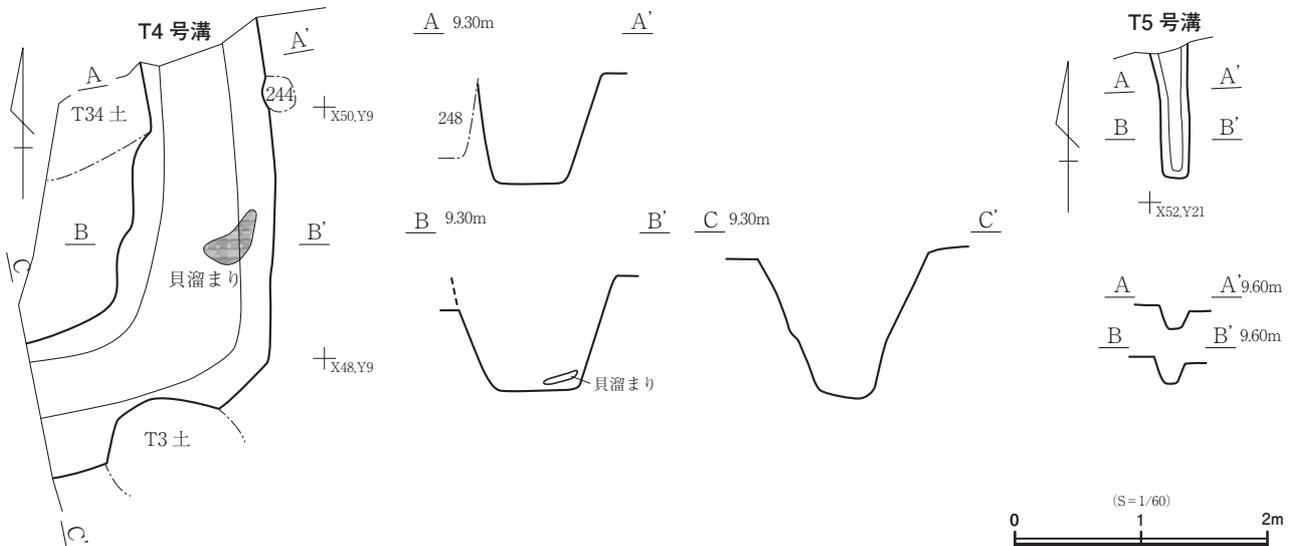


図88 T3号、T4号溝

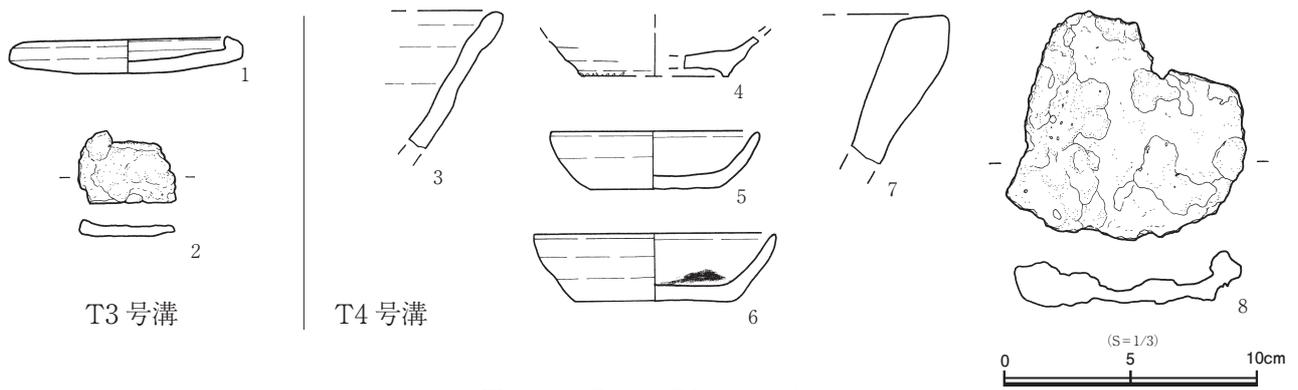


図89 T3号、T4号溝出土遺物

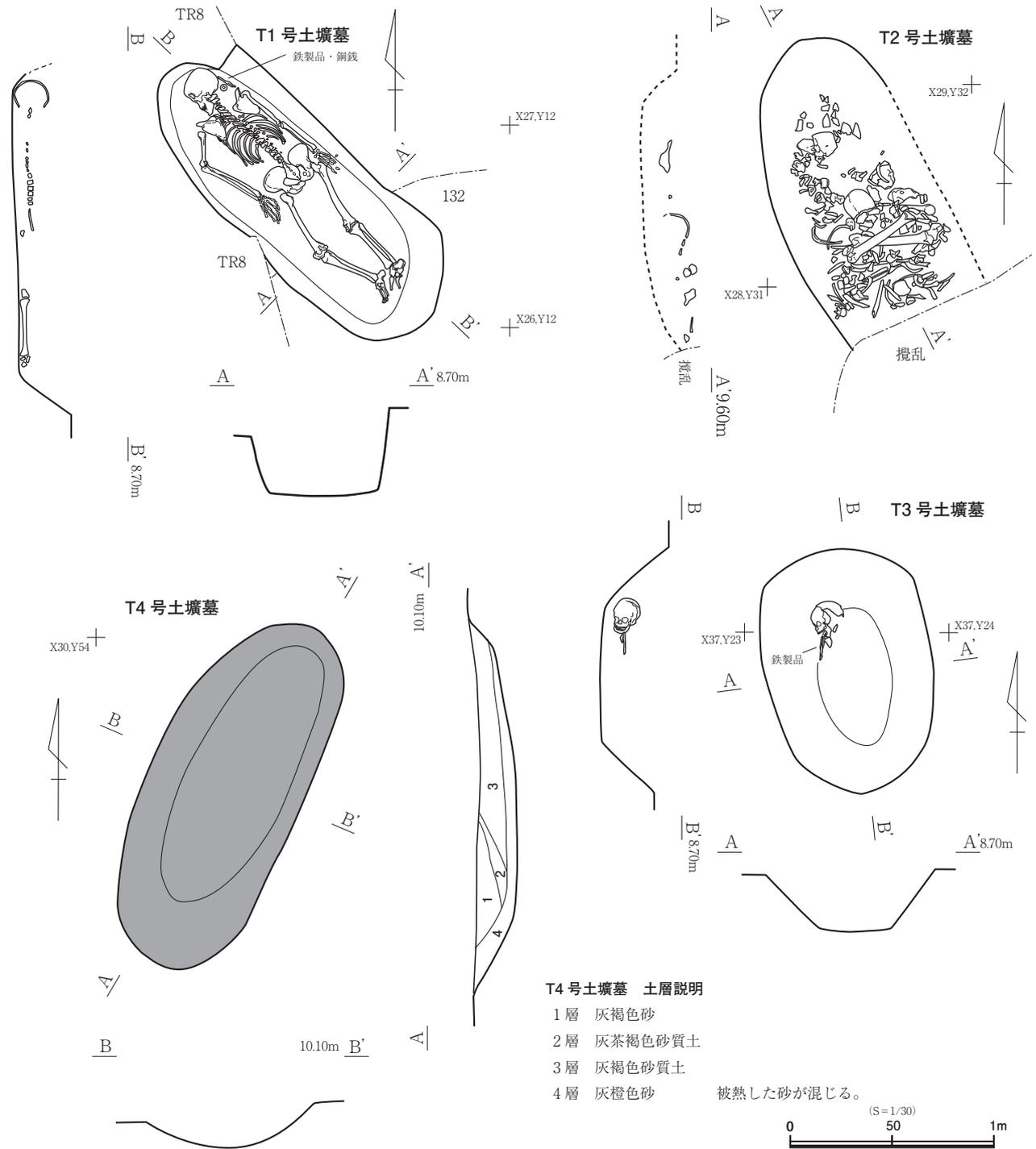


図90 土墳墓

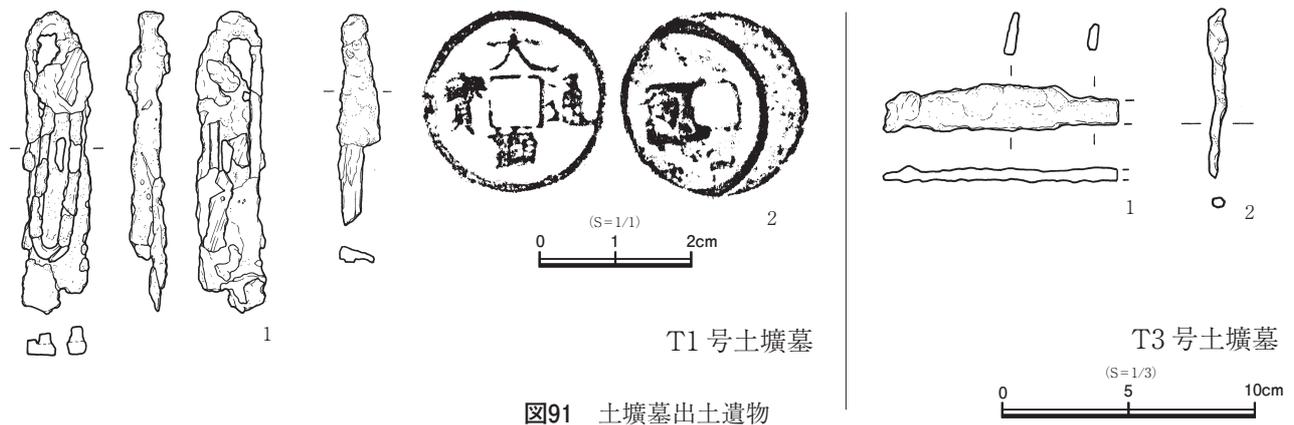


図91 土壙墓出土遺物

T2号土壙墓は集積埋葬と考えている。T3号土壙墓は火葬跡の可能性を考えているが、底面に焼けた泥岩塊もなく、確証はない。

#### T1号土壙墓

本址はⅡ区のx26～28、y10～12の間で検出された。土坑は角の丸い長方形を呈し、確認規模は長軸180cm、短軸70cm、深さ10cmを測る。底面の海拔レベルは8.68m、主軸方位N-45°-Wである。埋葬体は北西に頭を向けた伏臥伸展葬である。

埋葬体の残存状況は良好で身長145cm、妊娠歴のある壮年の女性。左頸部辺に銅銭1枚、毛抜き、鋏、用途不明鉄製品、シャケの脊椎骨6個が供えられている。毛抜きと鋏は横位に立てた状態で、その西に銅銭が置かれていた。シャケの脊椎は鋏の下に置かれていた。

遺物は副葬された2点が図示できた。図91-1は二つの鉄製品が融着した状態で、鋏と毛抜きであると判断した。右はハクリした銅銭の一部。2は銅銭で銭名は大観通寶（初鑄年1107）である。

#### T2号土壙墓

本址はⅡ区のx27～28、y30～32の間で検出された。南側を現代攪乱で切られているため、全体は検出されなかったが、頭、脊椎、大腿骨などが重なるような状態で検出された。このような検出状況から見て座葬の可能性もあるが、小規模な集積埋葬と考えたほうが適切かもしれない。人骨の周囲から副葬品は出土していない。

土坑の規模は長径300cm、短径120cm、深さ32cmを測る。底面海拔レベルは8.90m、主軸方位はN-29°-Wである。

#### T3号土壙墓

本址はⅡ区のx32～14、y25～30の間で検出された。規模は長径138cm、短径52cm、深さ265cmを測る。人骨はほぼ全体で検出されているが、取り上げの段階で頭部以外の部位は残さず先に取り上げてしまった。頭部は北、顔は西を向きひざを折り曲げた屈葬であった。年齢は2歳前後と思われる。

遺物は2点が図示できた。図91-1は鉄製品の刀子、2は鉄釘である。

#### T4号土壙墓

本址はⅠ区のx27～28、y54～55の間で検出された。上層は現代攪乱でほとんどが削平されてわずかな覆土しか残っていない。平面形は楕円形で、確認規模は長軸180cm、短軸76cm、深さ22cmを測る。底面の海拔レベルは9.82cmである。

覆土は暗褐色砂質土で、覆土を除くと灰褐色砂質土の底面が全体に焼けていることが確認できた。覆土内に人骨はほとんど残っておらず、わずかに火葬骨の小片が2点出土している。土壙墓として扱ったが、火葬跡の可能性も残る。

## (5) 貝溜り土坑 (図 91)

### T1 号貝溜り

本址はⅡ区の x30～32、y27～29 の間に位置している。確認時点ではマウンド上の高まりに焼土粒子、炭化物が混じっていた。そのためカマドと考えて掘り下げていくと、貝の散乱である事が判明した。平面形は楕円形で、確認規模は長径 168cm、短径 80cm、深さ 16cm、底面の海拔レベルは 9.02m を測る。貝はアワビ 1、サザエ 6、バテイラ 1、スガイ 12、サビシラトリ 1、ハマグリ 1、オキシジミ 1 が出土している。

### T2 号貝溜り

本址はⅢ区の x51～52、y24～26 の間に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 98cm、短軸 78cm、深さ 16.5cm、底面海拔レベルは 8.81m を測る。覆土は暗褐色砂質土で、覆土中には貝が多く散乱していた。貝はバテイラ 1、キサゴ 1、ウミニナ 2、ツメタガイ 1、マガキ 8、ヒメシラトリ 6、カガミガイ 4、ハマグリ 12、アサリ 168、オオノガイ 1 が出土している。

### T3 号貝溜り

本址はⅢ区の x50～52、y26～27 の間に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 108cm、短軸 78cm、深さ 7cm、底面の海拔レベルは 8.81m を測る。確認面からの深さは浅いが、風土は暗褐色砂質土である。貝はサザエ 1、ダンベイキサゴ 1、スガイ 1、イガイ 2、ヒメシラトリ 1、カガミガイ 1、ハマグリ 1、オオノガイ 1、カリガネコガイ 4 他が出土している。本址は古代遺構の可能性はある。

### T4 号貝溜り

本址はⅢ区の x51～52、y27～29 の間に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 (72) cm、短軸 48cm、深さ 8.5cm、底面の海拔レベルは 8.81m を測る。暗褐色砂質土の覆土中に多くの貝殻が散乱していた。貝はサザエ 44、クボガイ 1、ヘソアキクボガイ 1、バテイラ 12、サビシラトリ 1、アサリ 5 が出土している。

## (6) 土坑 (図 92～図 101)

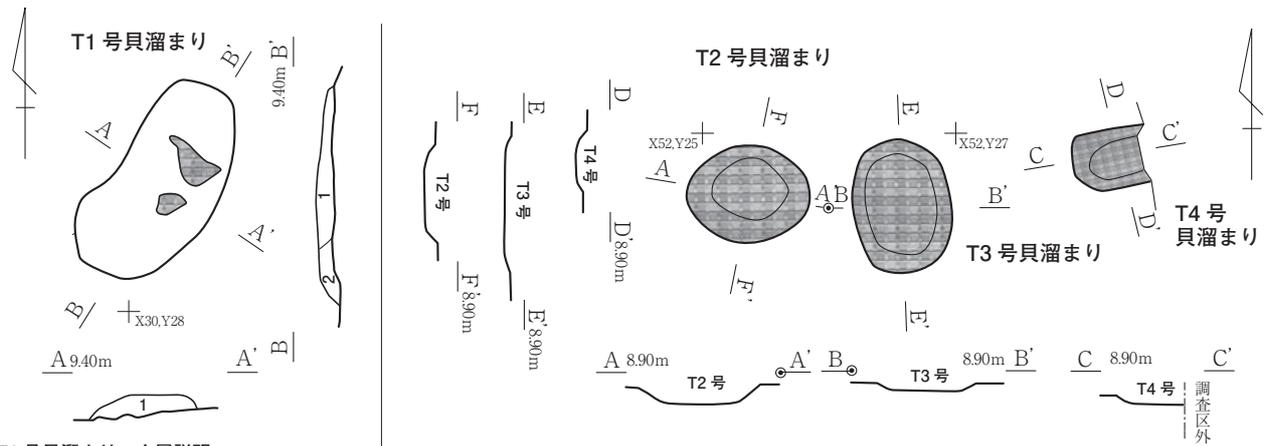
### T1 号、T2 号土坑

本址はⅢ区の x49、y9 の間に位置している。T1 号土坑は平面形はいびつな円形で、確認規模は長軸 (94) cm、短軸 (92) cm、深さ 42cm、底面の海拔レベルは 8.58m を測る。確認面から 30cm ほど掘り下げた、底面に近い南側隅から口縁部を合わせた状態で 3 枚 (上 1 枚、下 2 枚) のかわらけ皿が出土した。上の伏せたかわらけ皿を外すとアワビ 1 個、ハマグリ 3 個の貝殻が確認できた。ハマグリのうち 1 個はアワビの中に入っていた。これらの貝はすべて上向きに置かれていた。また、かわらけ皿の東脇には長軸 8cm、短軸 5cm の安山岩河原石が置かれていた。この 3 枚のかわらけ皿に下からさらに 3 枚のかわらけ皿が重なって出土している。祭祀の様相が伺える。T2 号土坑は T1 号土坑に壊され全体形は不明。

遺物は図 94-1～5 の 5 点が図示できた。2、3、5 は口縁部を合わせた状態で出土しているかわらけ皿。2 は伏せた小皿、3 は 5 の上に重なっていた。1、4 はこれらの下から出土した小皿と大皿である。

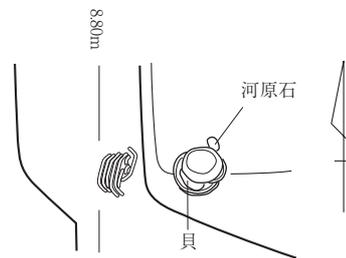
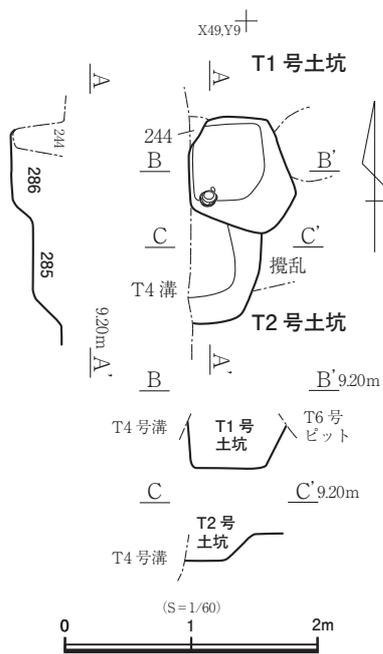
### T3 号土坑

本址はⅢ区の x48、y8 の間に位置し、T41 号土坑に壊され、T4 号溝を壊している。平面形は円形で、確認規模は長軸 119cm、短軸 95cm、深さ 90cm、底面レベル 8.02m を測る。覆土は暗褐色砂質土で、覆土上層からかわらけ皿の完形品などが出土している。また土坑内からはマテ貝が多く出土している。遺物は 4 点が図示できた。図 94-6～9 はかわらけ皿で、6 は小皿、7～9 は大皿である。大皿の 9 は内外面にススが付着している。

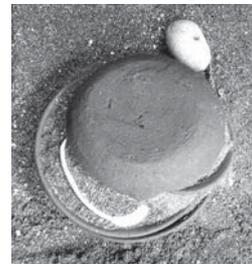
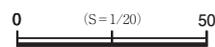


**T1号貝溜まり 土層説明**

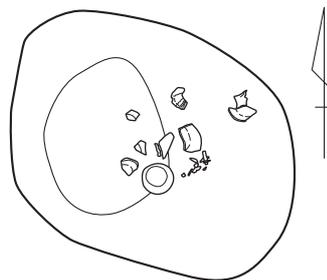
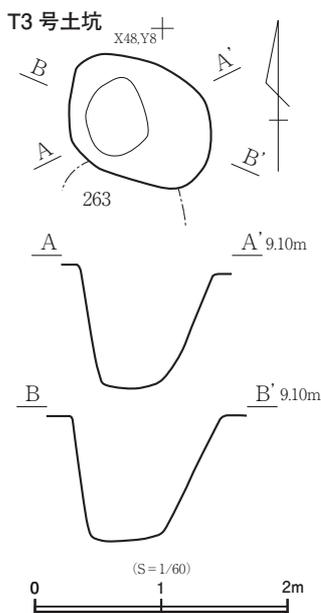
- 1層 黒褐色土 焼土粒子・3mm大の炭化物・貝片を多く含む。しまりあり。
- 2層 黒褐色土 貝砂が混じる。焼土粒子・3mm大の炭化物を含む。しまりなし。



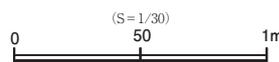
**T1号土坑遺物出土状況**



T1号土坑遺物出土状況



**T3号土坑遺物出土状況**



T3号土坑遺物出土状況

図92 土坑 (1)

#### T4 号土坑

本址は I 区の x11 ~ 13、y30 ~ 32 の間に位置し、T5 号土坑の覆土上に位置し、南側は調査区外に延びている。平面形は円形で、確認規模は長軸 148cm、短軸 (82) cm、深さ 26cm、底面レベル 9.49m を測る。

遺物は 1 点が図示できた。図 94-10 はかわらけ皿の大皿である。

#### T5 号土坑

本址は I 区の x10 ~ 14、y25 ~ 29 の間に位置している。上面は部分的に現代攪乱によって壊されている。平面形はやや歪んだ楕円形で、覆土は暗褐色砂質土である。確認規模は長軸 334cm、短軸 120 ~ 170cm、深さ 95cm を測る。底面の海拔レベルは 8.32m、主軸方位は N-21° -E である。

遺物は 11 点図示できた。図 94-11 は瀬戸美濃窯天目碗口縁部~体部、12 は常滑窯甕口縁部 6 b 類、13 は常滑窯片口鉢口縁部、14 ~ 17 はかわらけ皿の小皿、18 は石製品の砥石で、石材は粗粒凝灰岩で上野産、19 ~ 21 は鉄製品で釘である。

#### T6 号土坑

本址は I 区の x25 ~ 28、y50 ~ 54 の間に位置し、北東部分を土坑 14 に、南西部分を攪乱 15 に壊されている。平面形は不整形円形で、確認規模は、長軸 330cm、短軸 240cm、深さ 76cm を測る。底面の海拔レベルは 9.12m である。

遺物は 1 点が図示できた。図 94-23 は中国産白磁碗口縁部。

#### T7 号土坑

本址は I 区の x24 ~ 26、y49 ~ 51 の間に位置し、北側を部分的に現代攪乱に壊されている。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 (167) cm、短軸 (150) cm、深さ 40cm を測る。底面の海拔レベルは 9.05m、主軸方位 N-19° -E である。覆土は暗褐色砂質土で大型土丹 (泥岩塊) が混じっている。

遺物は 3 点図示できた。図 94-24 は青白磁梅瓶胴部~底部、25 は土器質火鉢、26 は石製品で硯である。

#### T8 号土坑

本址は I 区の x24 ~ 26、y40 ~ 41 の間に位置し、南を攪乱 4 に壊されている。平面形は楕円形で確認規模は長軸 (185) m、短軸 (66) cm、深さ 29cm を測る。底面の海拔レベルは 9.54m である。

遺物は 3 点が図示できた。図 94-27 ~ 29 はかわらけ皿で、すべて小皿。

#### T9 号土坑

本址は I 区の x26 ~ 27、y42 ~ 43 の間に位置し、土坑 23 を壊している。平面形は円形で、確認規模は長軸 81cm、短軸 75cm、深さ 32cm を測る。底面の海拔レベルは 9.46m である。

遺物は 3 点が図示できた。図 94-30、31 はかわらけ皿の小皿と大皿、32 は常滑窯甕片の外周等を磨いた磨り常滑である。

#### T10 号土坑

本址は I 区の x15 ~ 17、y27 ~ 29 の間に位置し、北で T11 号土坑を壊している。平面形は円形で、確認規模は長軸 (179) cm、短軸 (156) cm、深さ 43cm を測る。底面の海拔レベルは 9.40m である。

遺物は図 96 に 7 点が図示できた。33 は常滑窯甕口縁部~胴部 6 b 類、34、35 は常滑窯片口鉢口縁部、36、37 はかわらけ皿で、36 は小皿、37 は大皿で共に薄手造り、38、39 は石製品の砥石で、38 は凝灰岩で石材は伊予産、39 は粗粒泥岩で鳴滝産である。

#### T11 号土坑

本址は I 区の x16 ~ 18、y27 ~ 29 の間に位置し、南を T10 号土坑に壊されている。平面形は円形で、確認規模は長軸 235cm、短軸 180cm、深さ 20cm を測る。底面の海拔レベルは 9.45m である。

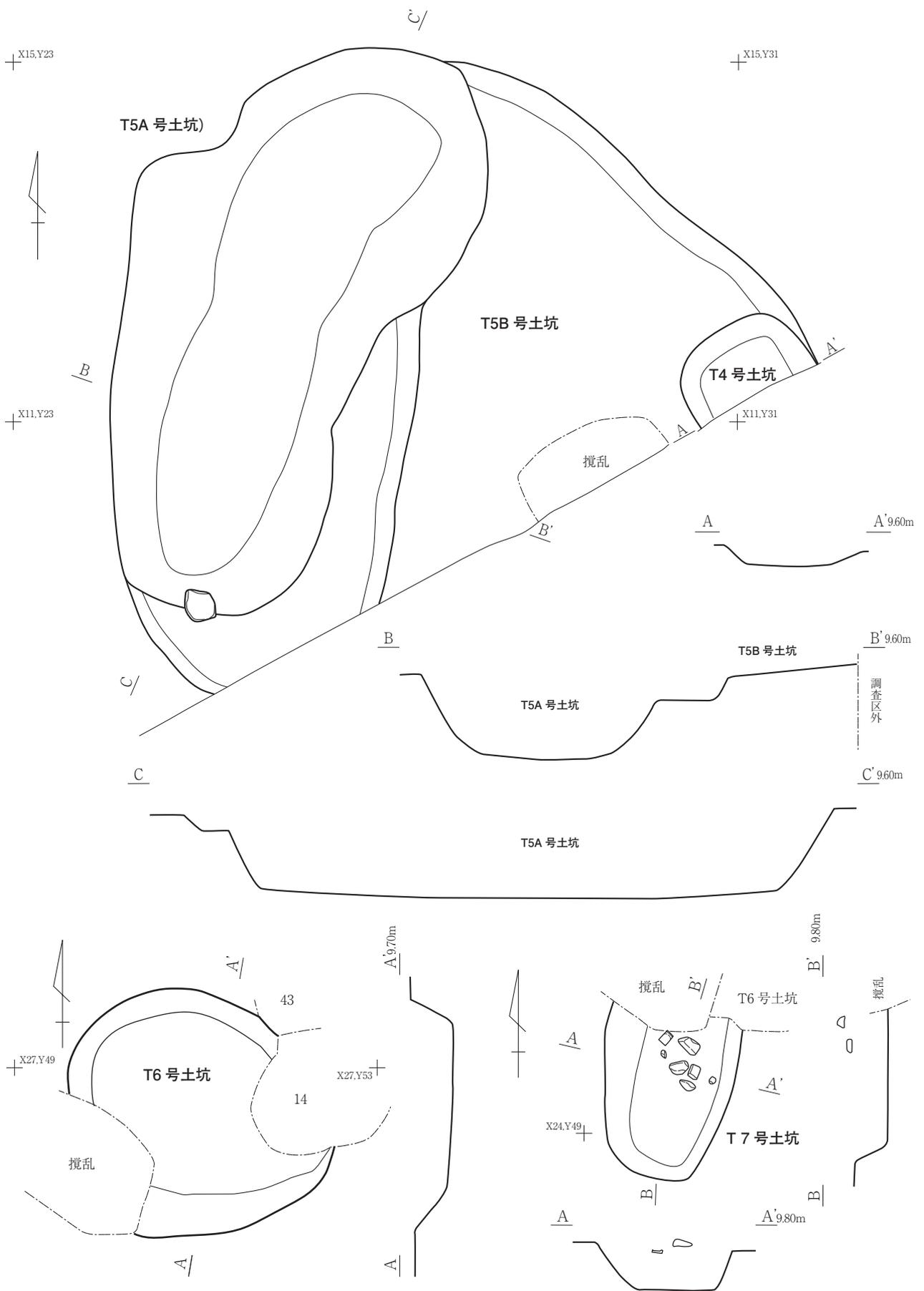
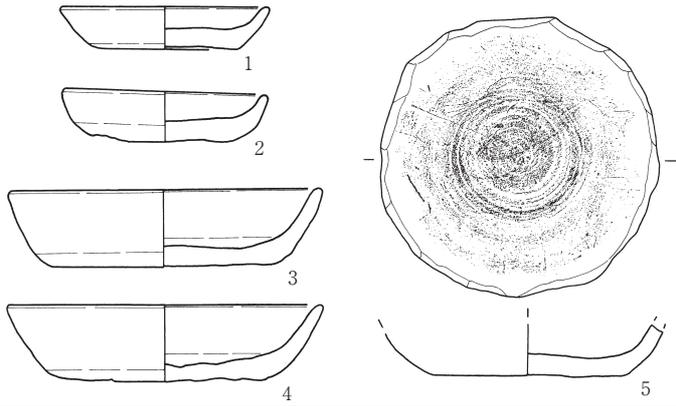
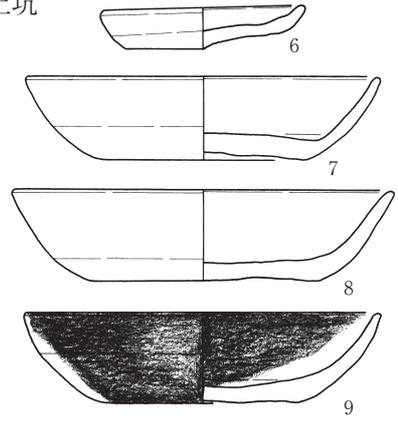


图93 土坑 (2)

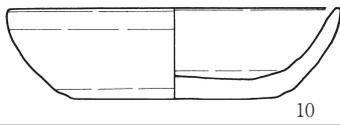
T1 号土坑



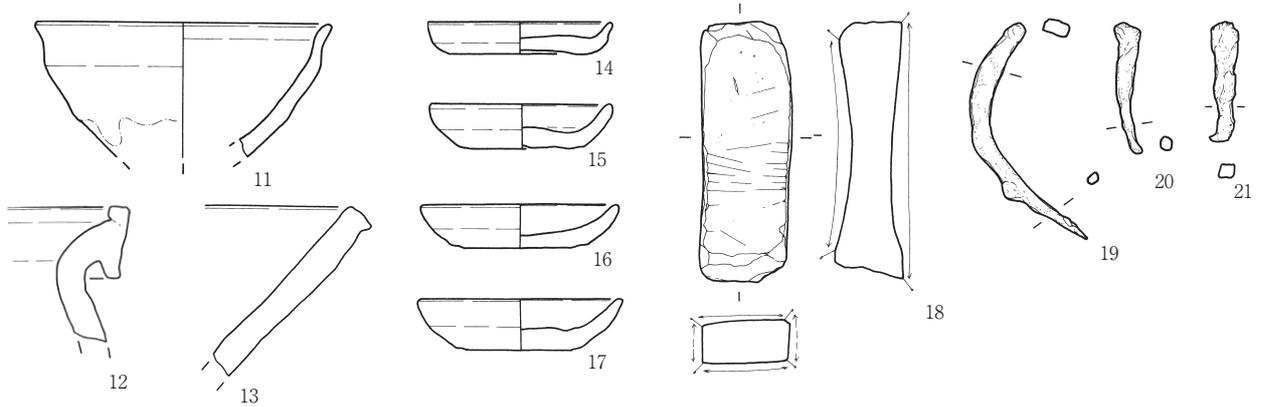
T3 号土坑



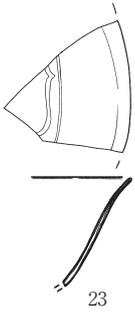
T4 号土坑



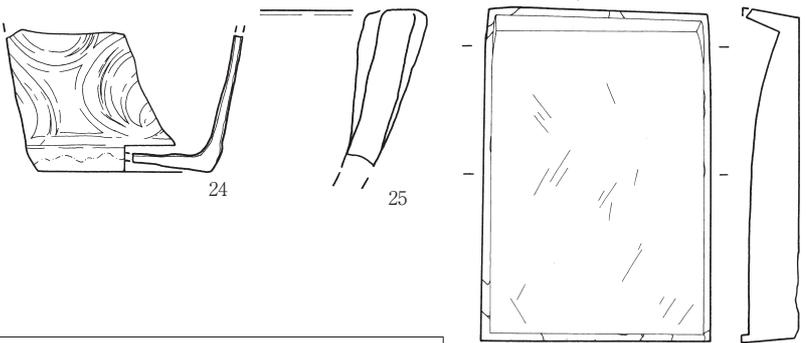
T5 号土坑



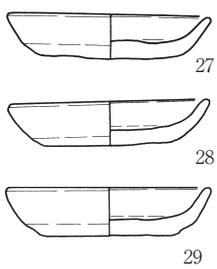
T6 号土坑



T7 号土坑



T8 号土坑



T9 号土坑

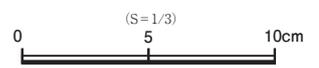
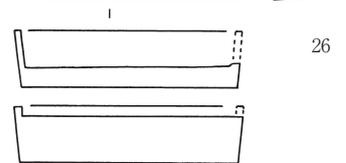
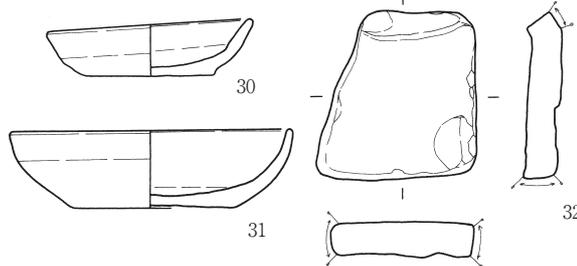


图94 土坑出土遗物 (1)

遺物は4点が図示できた。図96-40～42はかわらけ皿で、40は小皿、41は中皿、42は大皿。43は鉄製品で釘である。

#### T12号土坑

本址は調査区のx24～25、y35～37の間に位置し、南東でピット61を部分的に壊している。本址が新しい。平面形は楕円形で、確認規模は長軸247cm、短軸125cm、深さ72cmを測る。底面の海拔レベルは9.74m、主軸方位N-104°-Eである。

遺物は10点が図示できた。図96-44は中国産青磁無文碗体部下位～底部、45、46は山茶碗窯片口鉢口縁部と胴部下位。47はかわらけ皿で薄手造りの大皿、48骨製品の筭、49～53は鉄製品の釘である。

#### T13号土坑

本址は調査区のx21～24、y43～46の間に位置し、南でT14号土坑に壊されている。平面形は隅丸方形で、確認規模は長軸(306)cm、短軸(284)cm、深さ119cmを測る。底面の海拔レベルは8.50mである。

遺物は3点が図示できた。図98-54は瀬戸窯卸皿底部、55は土器質火鉢口縁部で、外面には菊花文のスタンプ文が捺されている。56は骨製品の井である。

#### T14号土坑

本址は調査区のx21～24、y43～46の間に位置し、北でT13号土坑を壊して、西側の一部は遺構66に壊されている。平面形は不整楕円形で、確認規模は長軸307cm、短軸211cm、深さ99.5cmを測る。底面の海拔レベルは9.70mである。

遺物は4点が図示できた。図98-57は瀬戸窯卸皿底部、58は瓦質火鉢口縁部、59、60は石製品の砥石で、いずれも滑石の転用品である。

#### T15号土坑

本址は調査区のx22～23、y43～45の間に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長軸213cm、短軸140cm、深さ12cmを測る。底面の海拔レベルは9.56mである。

遺物は1点が図示できた。図98-61は瀬戸窯香炉である。

#### T16号土坑

本址はⅡ区のx35～37、y21～23の間に位置し、攪乱76に壊されている。平面形は楕円形で、確認規模は長軸(200)cm、短軸106cm、深さ11.5cm、底面の海拔レベルは9.66mを測る。

#### T17号土坑

本址はⅡ区のx34～36、y16～17の間に位置している。平面形は円形で、確認規模は長軸60cm、短軸(40)cm、深さ7cm、底面の海拔レベルは9.85mを測る。

#### T18号、T19号、T20号、T21号、T22号土坑

本土坑群はⅡ区の西壁際のx30～36、y7～10の間に位置している複数の土坑をまとめた。T20号以外は西側の調査区外に延びている。これらの土坑は平面形や規模に類似点が多く、例えば貯蔵施設群や大型建物の柱穴などの遺構との関連性を考えたが、断定できない。調査では、西壁が崩落する可能性もあり、深さ120cm、底面の海拔レベルは7.60mで調査を終了した。

確認規模は、T18号は長軸124cm、短軸(50)cm、深さ(74)cm、T19号は長軸94cm、短軸56cm、深さ45cm、T20号は長軸92cm、短軸(50)cm、深さ(102)cm、T21は長軸118cm、短軸72cm、深さ(65.5)cmを測る。T22号は長軸156cm、短軸(100)cm、深さ115.5cm、底面の海拔レベルは8.75mを測る。各土坑の主軸方位はN-25°-W～N-8°-E方向を示している。

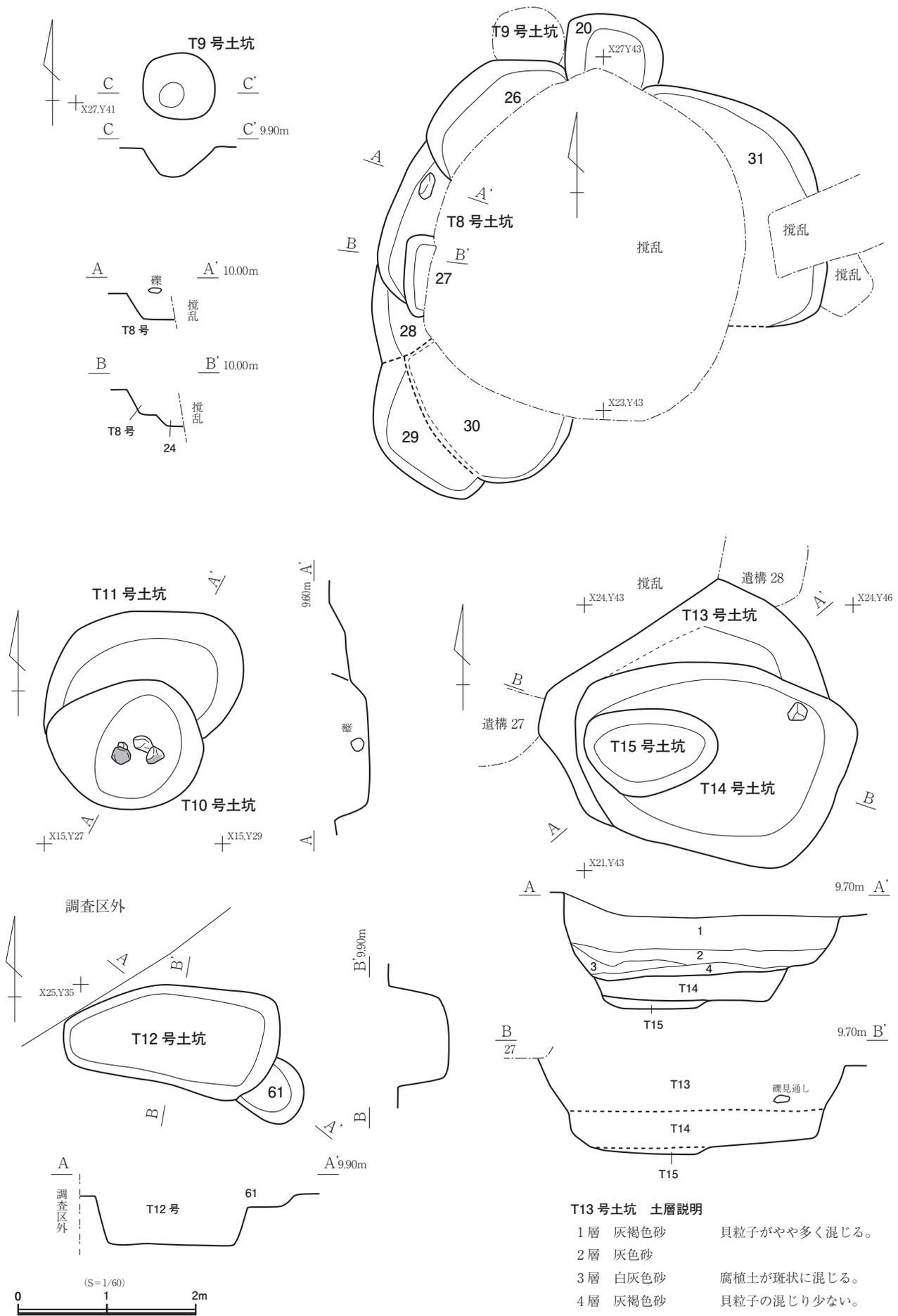


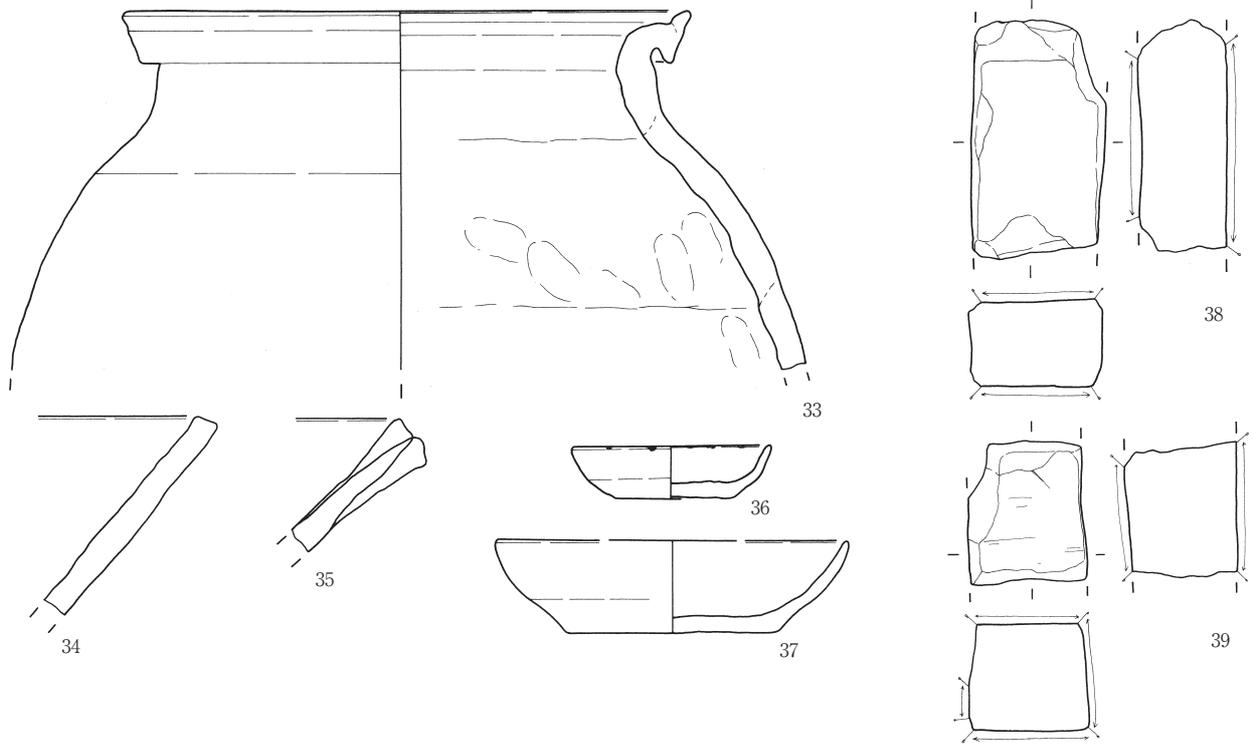
図95 土坑 (3)

遺物は、T19号土坑から1点、T21号土坑の出土遺物から6点が図98に図示できた。T19号出土の62は鉄製品で釘である。T21号出土の63は山茶碗窯片口鉢口縁部、64、65はかわらけ皿の小皿と大皿で共にススが付着している。66～68は石製品の砥石で、粗粒泥岩で産地は共に鳴滝産である。

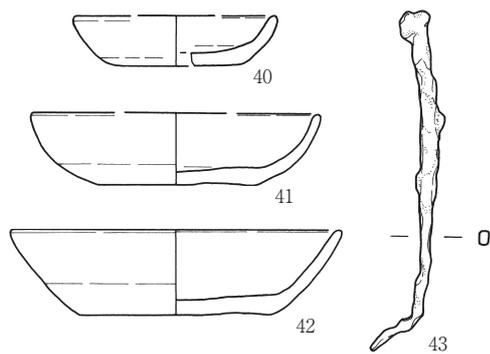
### T23号土坑

本址はⅡ区のx 26～28、y 8～10の間に位置している。平面形はほぼ円形を呈する。確認規模は長軸118cm、短軸72cm、深さ50cmを測る。底面の海拔レベルは8.31mである。

### T10号土坑



### T11号土坑



### T12号土坑

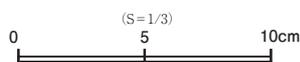
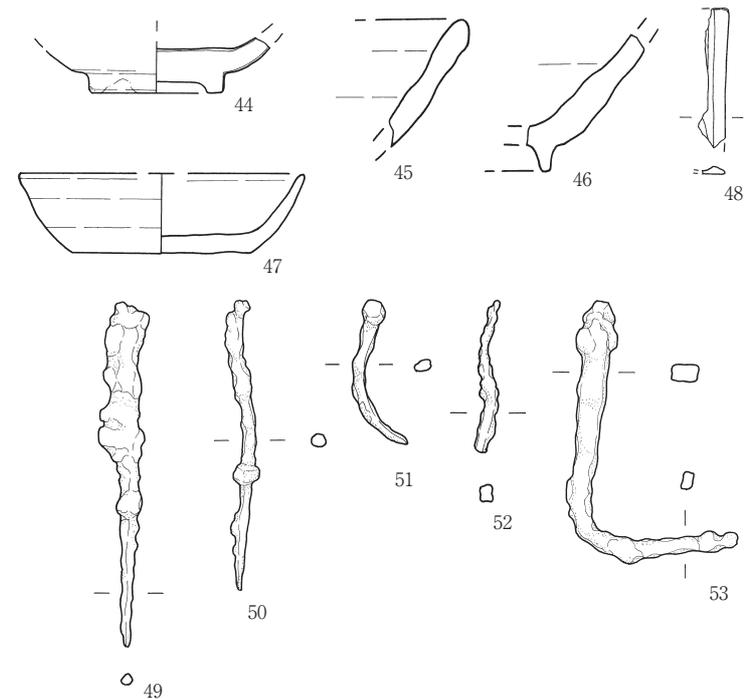


図96 土坑出土遺物 (2)

遺物は出土していない。

#### T24 号土坑

本址はⅡ区の x36～38、y10～11 の間に位置し、北側は調査区外に延びている。平面形は長方形であるが、本址も T16 号、T17 号、T18 号、T20 号と同様な性格を考えている。確認規模は長径 (60) cm、短径 56cm、深さ 32cm、底面の海拔レベルは 9.31m、主軸方位は N4° -W 方向を示す。

#### T25 号土坑

本址はⅡ区の西壁際の x28～33、y8～10 の間に位置する 2 基の遺構で、ほとんどは西の調査区外に延びている。調査中に調査区西壁が崩落する危険性が生じたため、調査は中断した。北の T25a が南の T25b を壊している。T25a は土坑と思われ、確認規模は南北 180cm、深さ 190cm、底面レベル 7.80m を測る。T25b は確認時点では井戸と考えたが調査を途中で中断したため不明。確認規模は南北 315cm、深さ (135) cm、底面の海拔レベルのは 7.40m を測る。

#### T26 号土坑

本址はⅡ区の x35～37、y22～24 の間に位置している。平面形は円形で、確認規模は長軸 70cm、短軸 70cm、深さ 25cm、底面の海拔レベルは 8.59m を測る。

遺物は土師器甕片 5 点が出土している。

#### T27 号土坑

本址はⅡ区の x35～37、y23～25 の間に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 98cm、短軸 64cm、深さ 26.5cm、底面の海拔レベルは 8.61m を測る。

遺物は土師器甕片 1 点が出土している。

#### T28 号土坑

本址はⅡ区の x36、y37 の間に位置している。平面形は不整円形で、確認規模は長軸 102cm、短軸 80cm、深さ 30cm、底面の海拔レベルは 8.30m を測る。

遺物は出土していない。

#### T29 号土坑

本址はⅢ区の x52、y23 の間に位置し、北側部分は調査区外に延びている。残存部から、平面形は恐らく円形に近いと思われる。確認規模は長軸 83cm、短軸 (37) cm、深さ 19cm を測る。底面の海拔レベルは 9.32m である。

遺物は 2 点が図示できた。図 98-69 は白磁口元皿口縁部、70 はかわらけ皿の大皿である。

#### T30 号土坑

本址はⅢ区の x50、y21 の間に位置し、南側は調査区外に延びている。平面形はほぼ円形と思われる。確認規模は長軸 120cm、短軸 68cm、深さ 42cm を測る。底面の海拔レベルは 9.20m である。

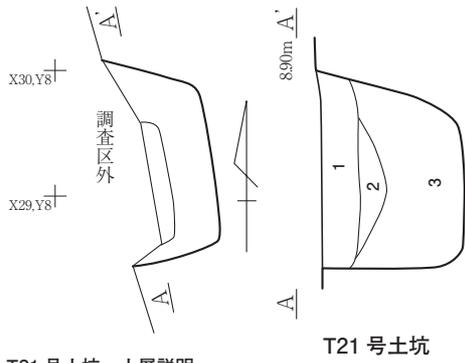
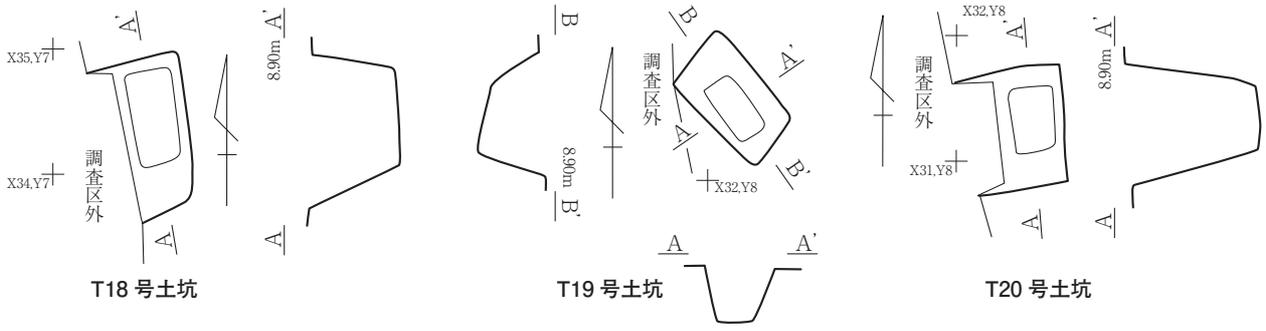
遺物は 3 点が図示できた。図 98-71、72 はかわらけ皿の小皿、73 は鉄製品の釘である。

#### T31 号土坑

本址はⅢ区の x49～51、y23 の間に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 209cm、短軸 150cm、深さ 60cm を測る。底面の海拔レベルは 8.99m である。

遺物は 22 点が図示できた。図 100-74 は中国産褐釉壺口縁部、75 は常滑窯片口鉢口縁部、76 は山茶碗窯片口鉢口縁部である。77～95 はかわらけ皿で、77～86 は小皿、87～94 は大皿。小皿のうち 86 の口縁部にはススが付着し、大皿の 92 の底部にはススが付着している。95 は打ち欠きである。

#### T32 号土坑



T21号土坑 土層說明

- 1層 暗茶褐色砂質土 砂質強い。
- 2層 褐色砂
- 3層 灰褐色砂質土 砂質強い。

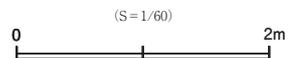
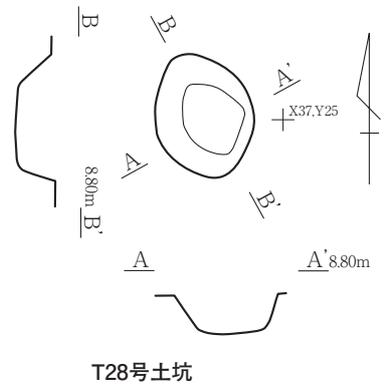
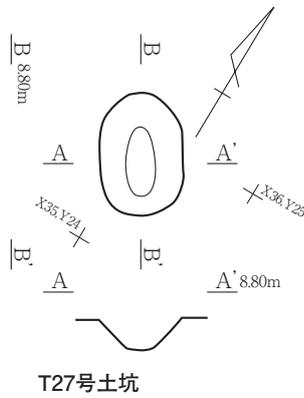
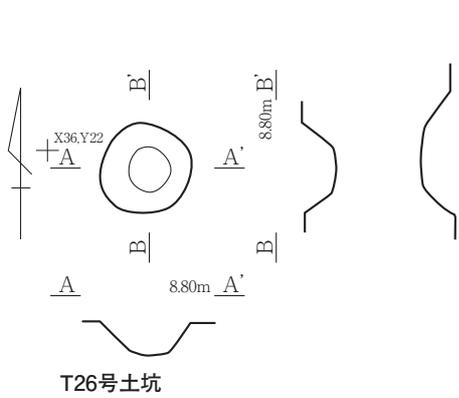
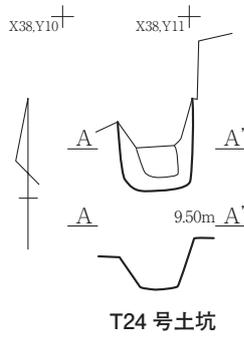
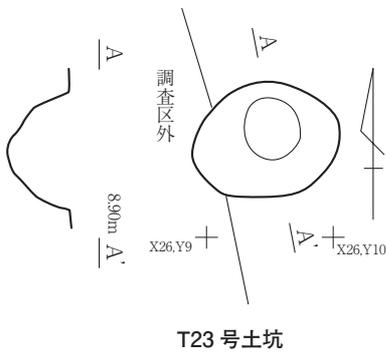
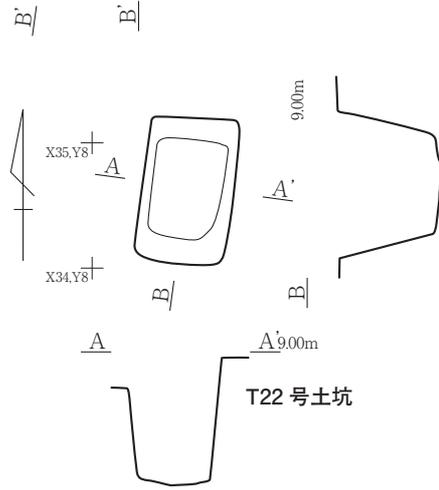
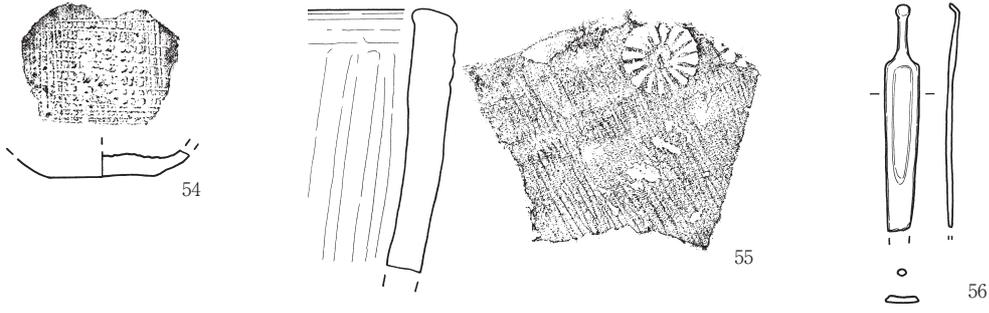
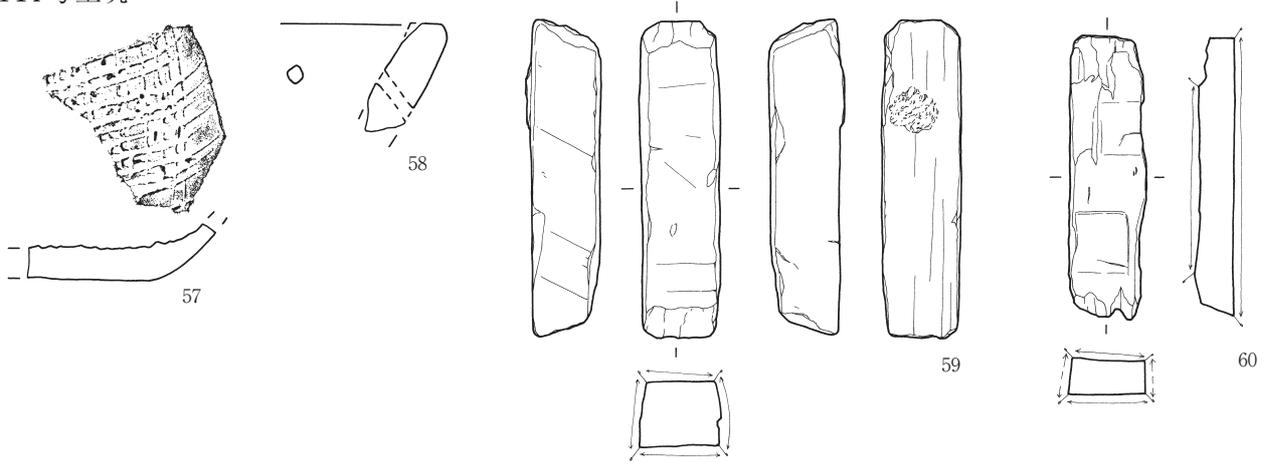


图97 土坑 (4)

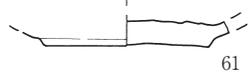
T13 号土坑



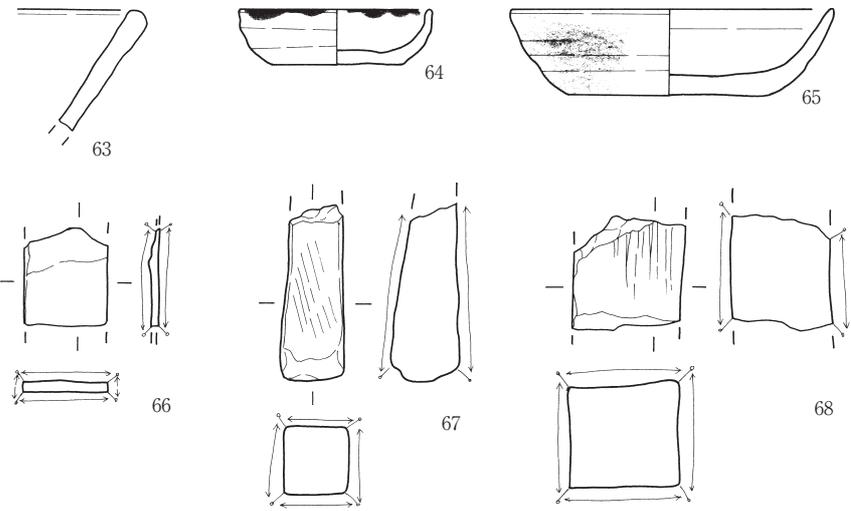
T14 号土坑



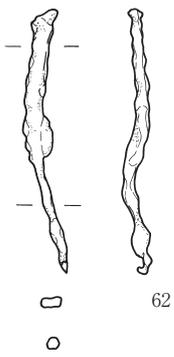
T15 号土坑



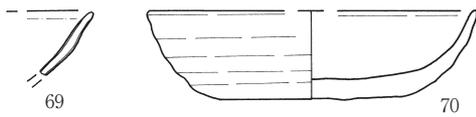
T21 号土坑



T19 号土坑



T29 号土坑



T30 号土坑

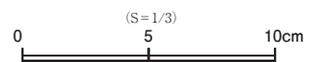
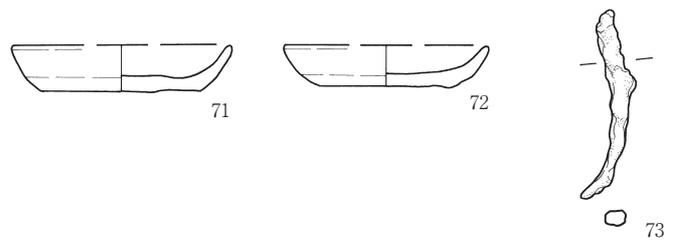


图98 土坑出土遗物 (3)

本址はⅢ区の x50～52、y23～25 の間に位置している。覆土からは多くのかわれ皿や中国産青磁碗などが投げ込まれたような状態で出土している。平面形は円形で、確認規模は長軸 110cm、短軸 100cm、深さ 34.5cm を測る。底面の海拔レベルは 9.55m である。

遺物は 17 点が図示できた。図 100-96 は中国産青磁無文碗体部下位～底部、97～112 はかわらけ皿で、97 は内折れ皿、98～104 は小皿、105 は中皿、106～112 は大皿である。大皿の 106、107、109、111 は薄手造りである。

#### T33 号土坑

本址はⅢ区の x52、y22 の間に位置している。平面形はほぼ円形で、確認規模は長軸 90cm、短軸 70cm、深さ 24cm を測る。底面の海拔レベルは 9.28m である。

遺物は 1 点が図示できた。図 100-113 は骨製品であるが用途不明である。

#### T34 号土坑

本址はⅢ区の x 49～51、y 10～12 の間に位置し、土坑 232 に切られ T42 号土坑を壊している。平面形は楕円形を呈する。確認規模は長軸 156cm、短軸 104cm、深さ 84cm を測る。底面の海拔レベルは 8.62 m である。

遺物は出土していない。

#### T35 号土坑

本址はⅢ区の x48～50、y18～20 の間に位置し、南側は調査区外に延びている。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 (180) cm、短軸 160cm、深さ 72cm を測る。底面レベル 9.62m である。

遺物は 4 点が図示できた。図 102-114 は常滑窯片口鉢口縁部、115 は備前窯播鉢体部、116 は穿孔かわらけ皿、117 は礫で表面が焼けて切りキズのような跡が残る。砥石として使用した跡が残る。

#### T36 号土坑

本址はⅢ区の x 49～52、y 19～21 の間に位置している。平面形は楕円形を呈する。確認規模は長軸 152cm、短軸 98cm、深さ 65cm を測る。底面の海拔レベルは 9.63 m である。

遺物は出土していない。

#### T37 号、T38 号、T39 号土坑

Ⅲ区の x48～50、y8 の間に位置し、切り合っている 3 基の土坑をここで説明する。各土坑の関係は T37 号は調査区北西隅に位置し、南で T38 号を部分的に壊して、西と北は調査区外に延びている。T38 号は南で T39 号を壊して西は調査区外に延びている。T39 号は西の調査区外に延びている。確認規模は、T37 号の平面形は方形で、長軸 (80) cm、短軸 (50) cm、深さ 76.5cm を測り、底面レベル 8.26m である。T38 号の平面形は楕円形で、長軸 (80) cm、短軸 (30) cm、深さ 64.5cm を測り、底面レベル 8.31m である。T39 号は残存部から平面形は円形と思われるが不明。小部分の確認であるため規模の計測はしていない。調査部分での底面の海拔レベルは 8.48m である。

遺物は T38 号の出土遺物のうち 2 点が図示できた。図 102-118 は常滑窯片口鉢口縁部、119 は伊勢系の鍔釜である。

#### T40 号土坑

本址はⅢ区の x 50～52、y 20～22 の間に位置している。平面形は楕円形を呈する。確認規模は長軸 100cm、短軸 80cm、深さ 27cm を測る。底面の海拔レベルは 9.20 m である。

遺物は出土していない。

#### T41 号土坑

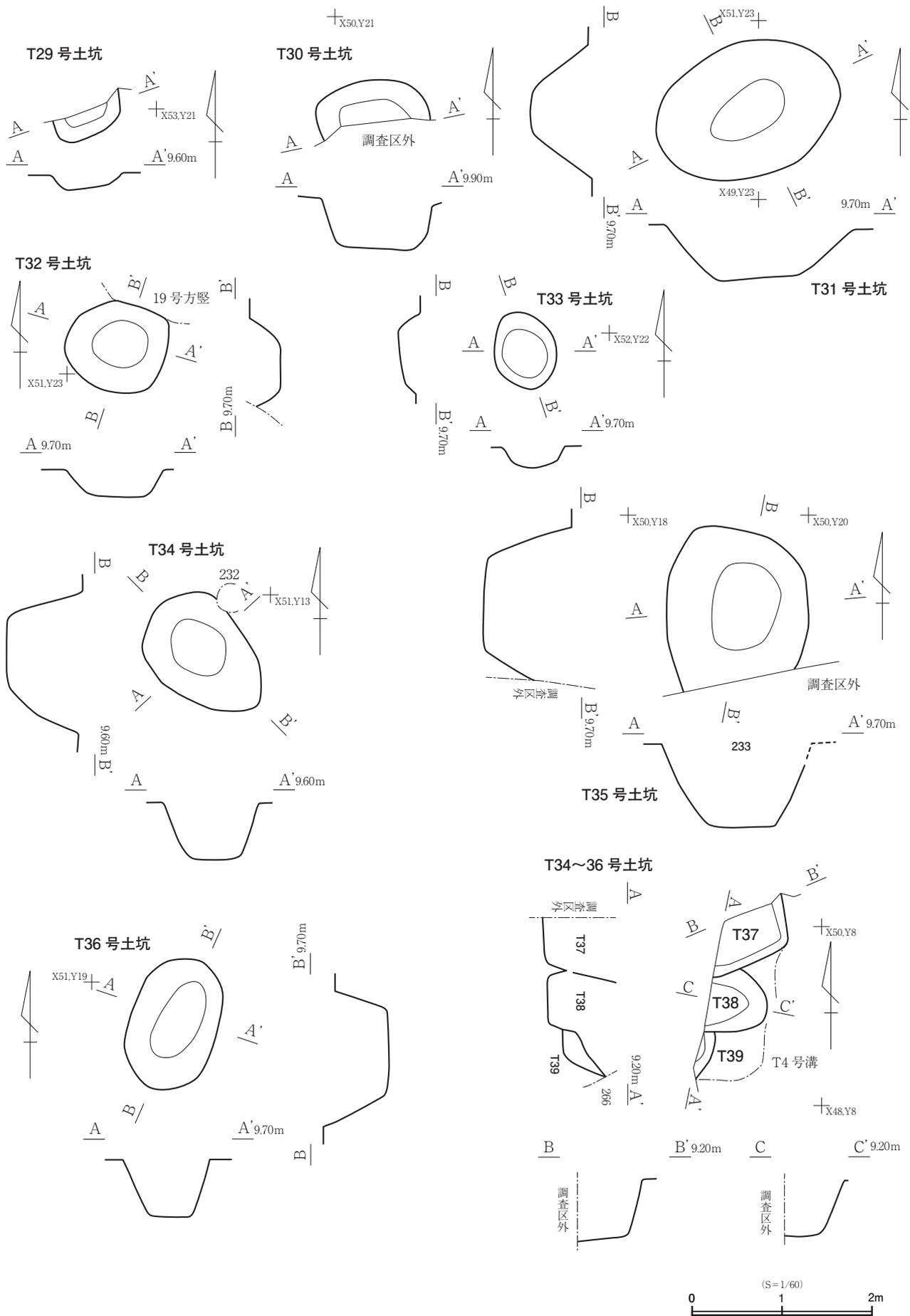
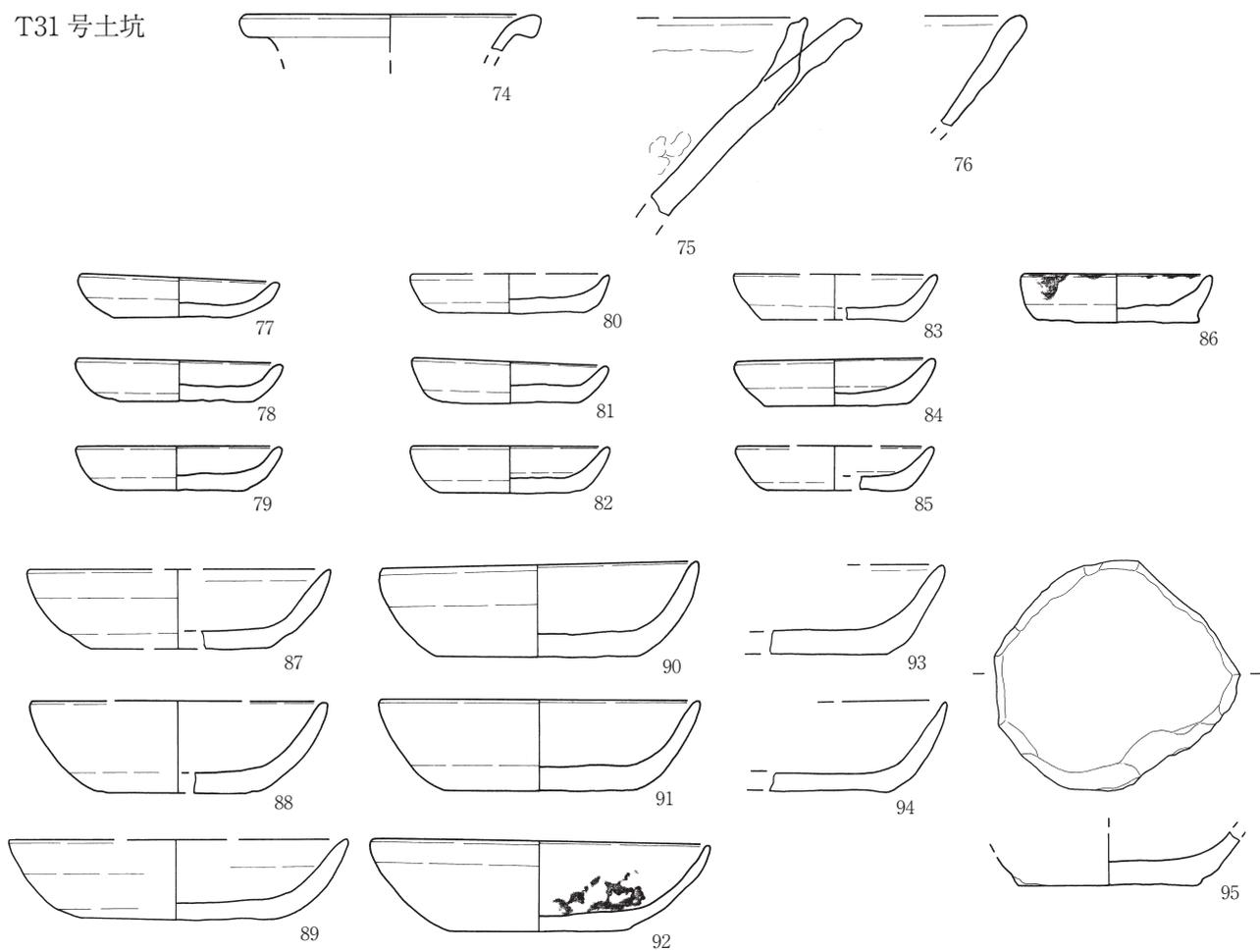
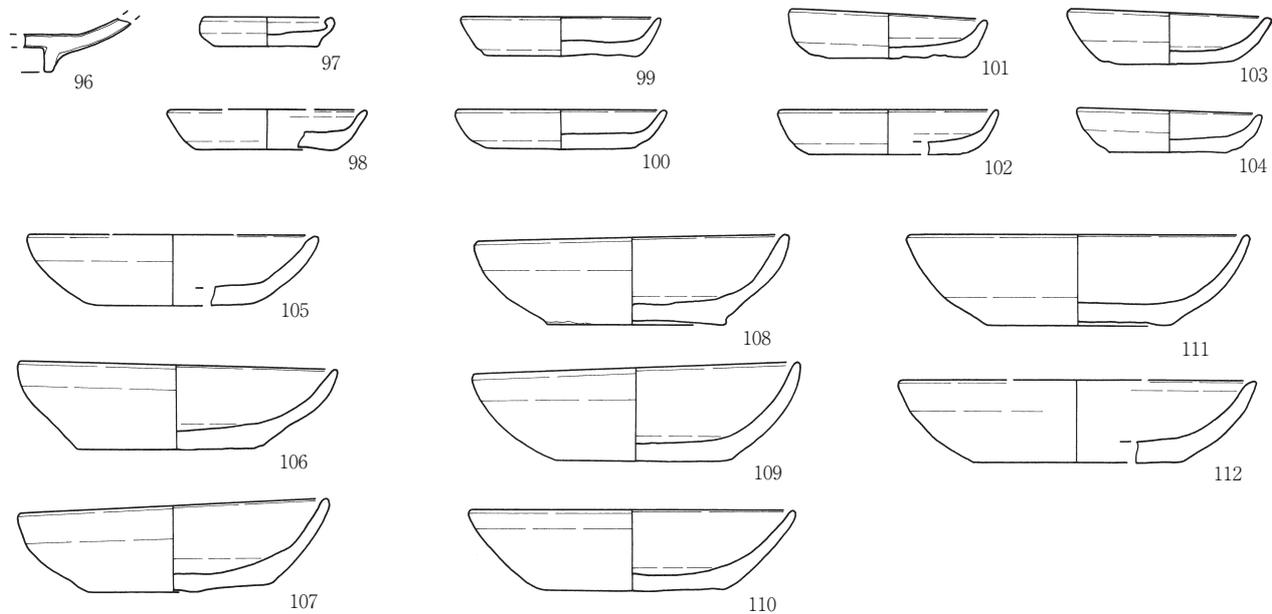


图99 土坑 (5)

T31 号土坑



T32 号土坑



T33 号土坑

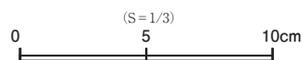
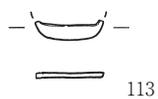


图100 土坑出土遺物 (4)

本址はⅢ区の x47、y7 の間に位置し、南側の調査区外に約半分が延びている。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 106cm、短軸 80cm、深さ 107cm を測る。底面レベル 8.26m である。

遺物は 4 点が図示できた。図 102-120 は常滑窯甕口縁部、121 は山茶碗窯片口鉢胴部下位～底部、122、123 はかわらけ皿の小皿で、122 の口縁部にはススが付着している。

#### T42 号土坑

本址はⅢ区の x51、y20 の間に位置し、南側は T28 号土坑に切られている。平面形は楕円形と思われる。確認規模は長軸 180cm、短軸 90cm、深さ 45cm を測る。底面の海拔はレベル 9.08m である。

遺物は 2 点が図示できた。図 102-124 はかわらけ皿の小皿、125 は鉄釘である。

#### T43 号

Ⅲ区の x48、y10～12 の間に位置する 3 基の土坑について説明を加える。調査中の所見では T40B は T40C に壊され、T40C は T40A を壊している。T40A は平面形は楕円形で、確認規模は長軸 120cm、短軸 (100) cm、深さ 30cm、T40B は平面形は不整楕円形で、確認規模は長軸 95cm、短軸 (80) cm、深さ 43cm、T40C は平面形は楕円形で、確認規模は長軸 (100) cm、短軸 95cm、深さ 55cm を測る。3 基の土坑の底面の海拔レベルは 9.36m～9.50m 前後である。

遺物は、3 基の土坑の出土遺物が混じってしまったが、図 102 に 6 点が図示できた。126、127 は常滑窯甕口縁部 6 b 類、128 は常滑窯小壺口縁部、129 は山茶碗窯片口鉢口縁部、130 はかわらけ皿の小皿で薄手造り、131 は鉄製品で用途不明である。

#### T44 号土坑

本址はⅢ区の x50～52、y11～13 の間に位置し、西側を T31 号土坑に壊され、南で土坑 278 を壊し、北は調査区外に延びている。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 (115) cm、短軸 130cm、深さ 54cm を測る。底面の海拔レベルは 9.38m である。

遺物は 1 点が図示できた。図 102-132 はかわらけ皿の大皿で薄手造りである。

#### T45 号土坑

本址はⅢ区の x51～52、y24～28 の間に位置し、北を 19 号方形竪穴建物に壊されている。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 (210) cm、短軸 (85) cm、深さ 32cm、底面の海拔レベルは 9.50m を測る。

遺物は図 102 に 3 点が図示できた。133 はかわらけ皿の大皿、134、135 は鉄釘である。

#### T46 号土坑

本址はⅢ区の x48、y12 の間に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 106cm、短軸 63cm、深さ 61cm を測る。底面の海拔レベルは 8.77m である。

遺物は図 102 に 3 点が図示できた。136 は常滑窯片口鉢口縁部、137 は土器質火鉢口縁部、138 は瓦質火鉢で胴部外面に菊花文のスタンプ文が捺してある。

#### (7) ピット

ピットは方形竪穴建物などの大型遺構の間から僅かに検出されている。恐らく小規模な建物が存在していたと思われるが、建物は復元できなかった。

#### T1 号ピット

本址はⅠ区の x23～24、y46～47 に位置している。平面形は円形で、確認規模は長径 36cm、短径 34cm、深さ 20cm、底面の海拔レベルは 9.34m を測る。

#### T2 号ピット

本址はⅠ区の x24～25、y46～48 に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長径 54cm、短径

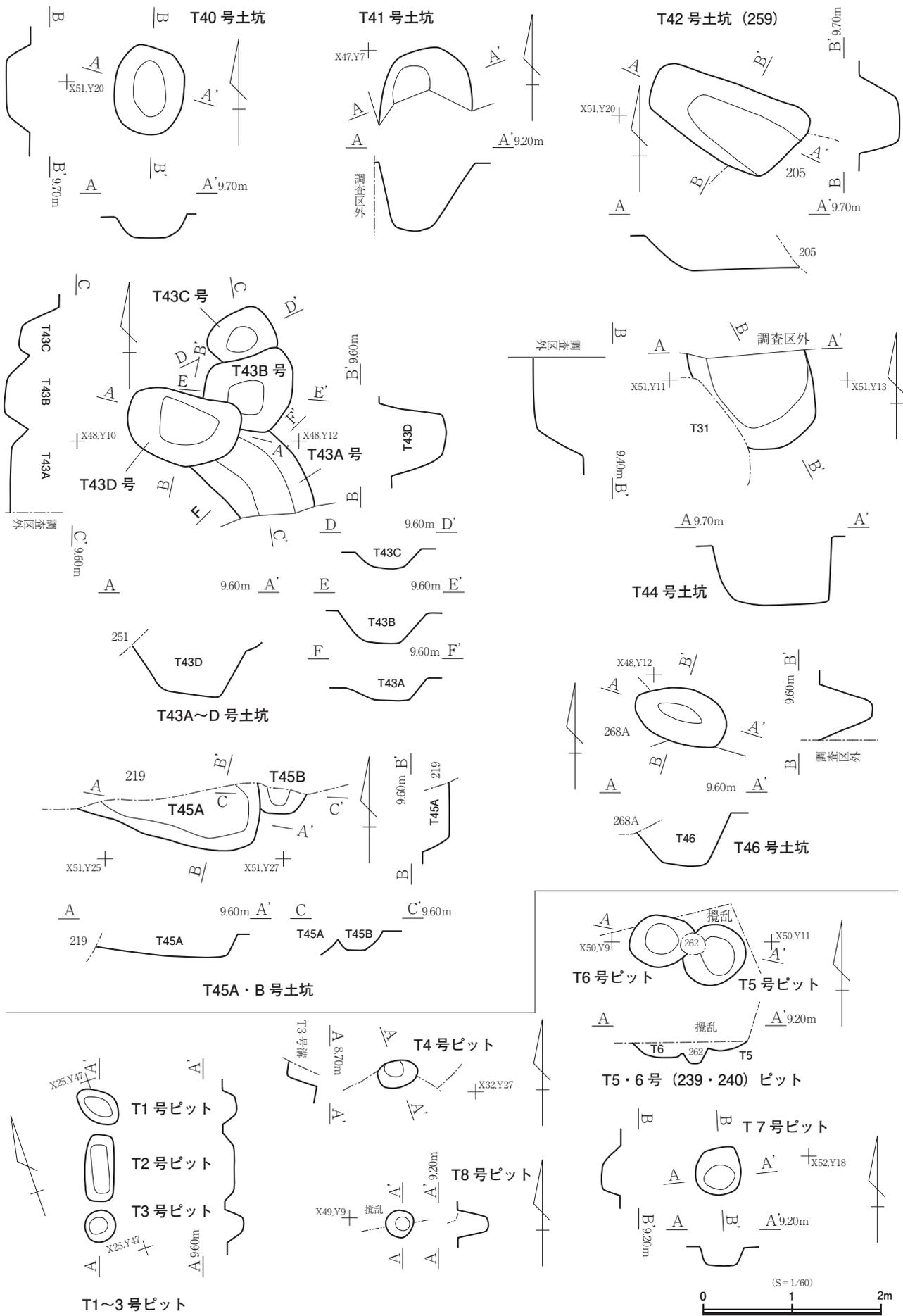
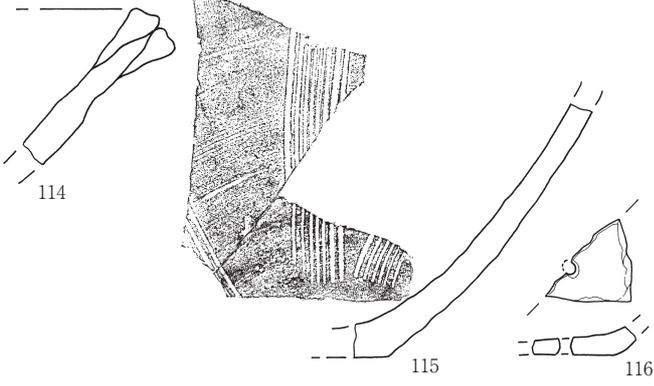
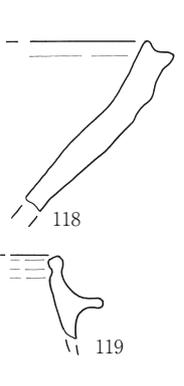


図101 土坑 (6)

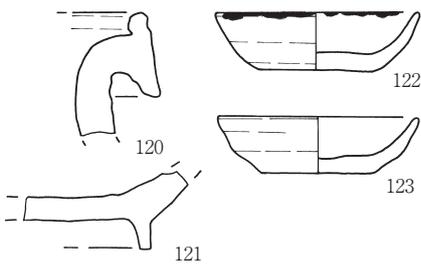
T35 号土坑



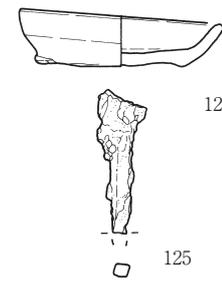
T38 号土坑



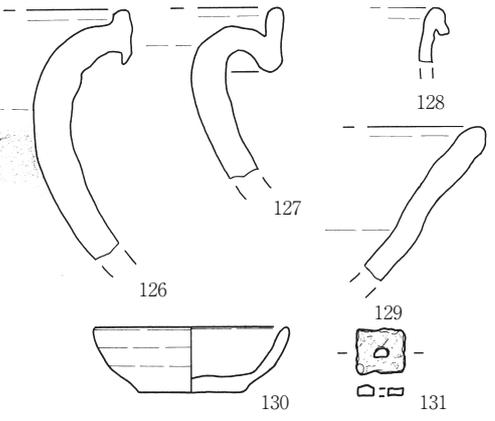
T41 号土坑



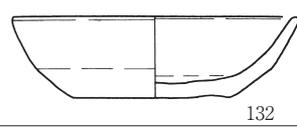
T42 号土坑



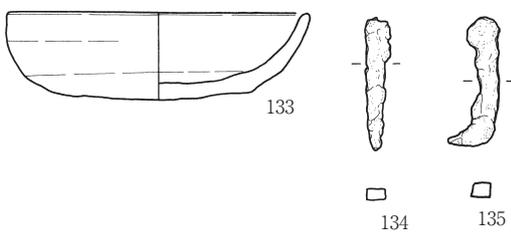
T43 号土坑



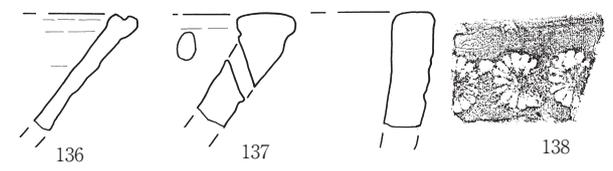
T44 号土坑



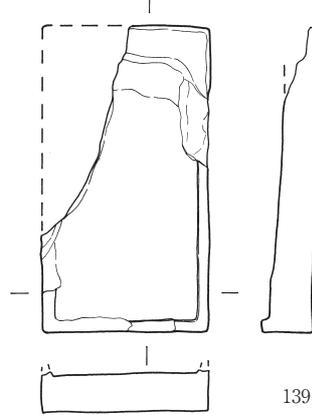
T45 号土坑



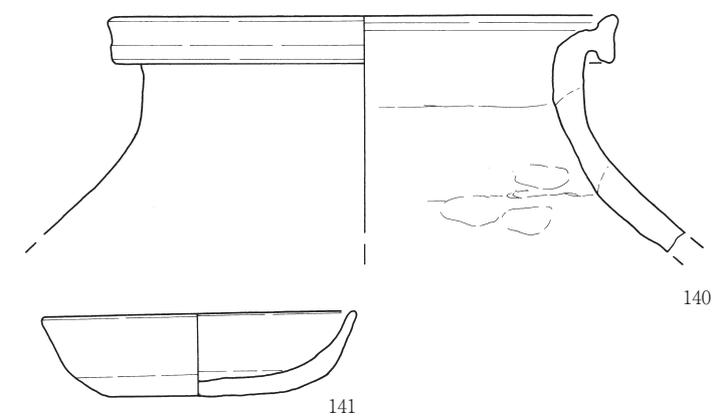
T46 号土坑



T4 号ピット



T5 号ピット



T8 号ピット

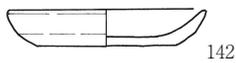
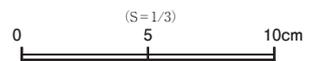


図102 土坑出土遺物 (5)



32cm、深さ 19.5cm、底面の海拔レベルは 9.41m を測る。

#### T3号ピット

本址はⅠ区の x23～25、y46～47 の間に位置している。平面形は隅丸方形で、確認規模は長径 74cm、短径 34cm、深さ 13.5cm、底面の海拔レベルは 9.37m を測る。

#### T4号ピット

本址はⅡ区の x32～33、y25～27 の間に位置している。確認規模は長軸 47cm、短軸 30cm、深さ 14cm を測る。底面の海拔レベルは 8.44m である。

遺物は図 102 に 1 点が図示できた。139 は石製品の硯である。

#### T5号、T6号ピット

本址はⅢ区の x52～53、y21～22 の間に位置している。平面形は円形で、確認規模は長径 32cm、短径 30cm、深さ 34cm、底面の海拔レベルは 8.99m を測る。

遺物は図 102 に 2 点が図示できた。図 102-140 は常滑窯甕口縁部 6a 類、141 はかわらけ皿の大皿である。

#### T7号、T8号ピット

本址はⅢ区の x49～50、y9～11 の間に位置している。T7号がT8号を部分的に壊している。両者の間にある柱穴との関係は不明。平面形はいずれも不整円形で、確認規模はT7号ピットが長軸 75cm、短軸 60cm、深さ 17cm を測り、底面レベル 85m である。T8号ピットが長軸 (70) cm、短軸 (70) cm、深さ 10.5cm を測り、底面の海拔レベルは 9.02m を測る。

遺物はT8号ピットの出土遺物のうち1点が図示できた。図 102-142 はかわらけ皿の小皿である。

#### T9号ピット

本址はⅢ区の x51～53、y16～18 の間に位置し、北を遺構 274 に壊されている。平面形は円形で、確認規模は長軸 (84) cm、短軸 78cm、深さ 37cm を測る。底面の海拔レベルは 8.80m である。

#### T10号ピット

本址はⅢ区の x51～52、y27～29 の間に位置している。平面形は楕円形で、確認規模は長軸 (72) cm、短軸 48cm、深さ 8cm、底面の海拔レベルは 8.71m を測る。覆土は暗褐色砂質土でサザエの貝殻が 1 点出土している。

表7 出土遺物法量表

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
50	1	1	包含層	中国	青磁連弁文碗	-	-	[3.9]	
50	2	1	包含層	中国	青磁無文碗	-	-	[2.8]	
50	3	1	包含層	中国	青磁無文碗	-	(6.0)	[3.8]	
50	4	1	包含層	中国	青磁無文碗	-	-	[2.0]	
50	5	1	包含層	中国	青磁無文碗	-	-	[2.4]	キザミ痕あり
50	6	1	包含層	瀬戸窯	折縁中皿	-	(6.4)	[1.7]	中皿かIVかIV
50	7	1	包含層	瀬戸窯	花瓶	-	(7.5)	[6.0]	中期Ⅰ・Ⅱ
50	8	1	包含層	瀬戸窯	仏供具	-	4.8	[2.8]	
50	9	1	包含層	常滑窯	甕	-	-	[8.3]	
50	10	1	包含層	常滑窯	甕	-	-	[8.1]	6a類
50	11	1	包含層	常滑窯	甕	-	-	[6.3]	6b類
50	12	1	包含層	常滑窯	甕	-	-	[6.6]	6a類
50	13	1	包含層	常滑窯	甕	-	-	[4.8]	6a類
50	14	1	包含層	常滑窯	小壺	-	-	[4.2]	
50	15	1	包含層	常滑窯	片口鉢	-	-	[7.4]	Ⅱ類
50	16	1	包含層	常滑窯	片口鉢	-	-	[5.4]	
50	17	1	包含層	常滑窯	片口鉢	-	-	[6.5]	
50	18	1	包含層	常滑窯	片口鉢	-	-	[4.6]	
50	19	1	包含層	山茶碗窯系	片口鉢	-	-	[8.0]	
50	20	1	包含層	山茶碗窯系	片口鉢	-	-	[6.3]	
50	21	1	包含層	備前窯	搦鉢	-	-	[7.8]	
50	22	1	包含層	山茶碗窯系	山茶碗	-	(5.0)	[1.6]	もみ殻高台
50	23	1	包含層	土器	かわらけ皿	(7.0)	(5.0)	1.5	
50	24	1	包含層	土器	かわらけ皿	(7.5)	4.5	1.7	
50	25	1	包含層	土器	かわらけ皿	(8.0)	4.4	1.6	
50	26	1	包含層	土器	かわらけ皿	7.6	5.5	1.5	灯明皿 スス付着
50	27	1	包含層	土器	かわらけ皿	8.0	5.6	1.5	
50	28	1	包含層	土器	かわらけ皿	7.7	4.3	1.8	灯明皿 スス付着
50	29	1	包含層	土器	かわらけ皿	(7.4)	(4.2)	1.6	
50	30	1	包含層	土器	かわらけ皿	8.0	5.3	1.7	
50	31	1	包含層	土器	かわらけ皿	(8.0)	(6.0)	1.8	
50	32	1	包含層	土器	かわらけ皿	(8.0)	(6.0)	1.5	
50	33	1	包含層	土器	かわらけ皿	(7.4)	5.0	1.7	
50	34	1	包含層	土器	かわらけ皿	(8.0)	(4.8)	2.0	
50	35	1	包含層	土器	かわらけ皿	7.7	5.0	2.0	
50	36	1	包含層	土器	かわらけ皿	(7.6)	4.5	2.2	灯明皿・スス付着
50	37	1	包含層	土器	かわらけ皿	7.7	5.0	2.0	
50	38	1	包含層	土器	かわらけ皿	(7.0)	5.1	2.0	灯明皿・スス付着
50	39	1	包含層	土器	かわらけ皿	7.6	4.7	2.9	
50	40	1	包含層	土器	打ち欠き	-	4.1	[1.6]	
50	41	1	包含層	土器	かわらけ皿	(10.0)	5.5	3.0	
50	42	1	包含層	土器	かわらけ皿	11.5	6.4	2.8	
50	43	1	包含層	土器	かわらけ皿	(11.0)	(6.2)	3.3	
50	44	1	包含層	土器	かわらけ皿	(14.0)	-	[3.3]	手づくね
51	45	1	包含層	土器	かわらけ皿	(13.0)	(8.0)	2.9	
51	46	1	包含層	土器	かわらけ皿	(13.0)	(8.3)	3.1	
51	47	1	包含層	土器	かわらけ皿	(13.5)	8.0	3.3	
51	48	1	包含層	土器	かわらけ皿	(13.0)	(8.0)	3.4	
51	49	1	包含層	土器	かわらけ皿	(13.0)	8.0	3.4	
51	50	1	包含層	土器	かわらけ皿	(12.5)	6.5	3.3	
51	51	1	包含層	土器	かわらけ皿	(13.7)	(7.7)	3.6	灯明皿・スス付着
51	52	1	包含層	瓦質	火鉢	-	-	[3.7]	
51	53	1	包含層	瓦質	火鉢	-	-	[8.0]	

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
51	54	1	包含層	土製品	土錘	長3.1	巾2.3	厚2.3	
51	55	1	包含層	土製品	土錘	長4.4	巾	厚0.9	半分欠損
51	56	1	包含層	石製品	滑石製鍋	-	-	[6.5]	転用品
51	57	1	包含層	石製品	滑石製砥石	長7.3	短6.6	厚1.1	転用品
51	58	1	包含層	石製品	砥石	長[4.7]	巾3.1	厚2.0	鳴滝産 仕上砥
51	59	1	包含層	石製品	砥石	長[4.7]	巾4.1	厚0.6	鳴滝産 仕上砥
51	60	1	包含層	石製品	砥石	長[6.2]	巾3.3	厚0.8	鳴滝産 仕上砥
51	61	1	包含層	石製品	滑石製砥石	長(10.0)	巾3.4	厚2.0	転用品
51	62	1	包含層	石製品	砥石	長7.1	巾4.2	厚3.3	鳴滝産 中砥
51	63	1	包含層	石製品	砥石	長[5.1]	巾3.8	厚2.5	鳴滝産 仕上砥
51	64	1	包含層	石製品	砥石	長[11.4]	巾[5.4]	1.3	
51	65	1	包含層	石製品	硯	長12.0	巾12.0	厚1.4	
51	66	1	包含層	常滑窯	磨常滑	長5.8	巾5.0	厚2.4	転用品
51	67	1	包含層	常滑窯	磨常滑	長5.2	短5.0	厚1.2	転用品
51	68	1	包含層	骨製品	筭	長(5.4)	巾(0.65)	厚0.3	欠損している
51	69	1	包含層	骨	加工骨	長[3.8]	巾[2.3]	厚0.2	刃物痕あり 紡錘車?
52	70	1	包含層	骨	加工骨	長(11.1)	巾3.4	厚2.5	
52	71	1	包含層	骨	加工骨	長(9.4)	巾3.1	厚1.3	
52	72	1	包含層	鉄製品	不明品	長(16.3)	巾1.2	厚0.45	
52	73	1	包含層	鉄製品	五徳	長14.0	巾2.0	厚1.2	
52	74	1	包含層	鉄製品	火箸	長(20.0)	巾0.5	厚0.5	
52	75	1	包含層	鉄製品	刀子	長16.3	巾1.5	厚0.5	
52	76	1	包含層	鉄製品	刀子	長(15.2)	巾1.8	厚0.6	
52	77	1	包含層	鉄製品	刀子	長(14.4)	巾2.3	厚0.5	
52	78	1	包含層	鉄製品	不明品	直径4.0	-	厚(0.2)	円盤状 飾り金具?
52	79	1	包含層	鉄製品	止め金具	長2.4	巾1.2	厚0.3	
52	80	1	包含層	鉄製品	釘	長8.8	巾0.5	厚0.7	
52	81	1	包含層	鉄製品	釘	長7.3	巾0.3~0.5	厚(0.5~0.8)	
52	82	1	包含層	鉄製品	釘	長7.3	巾0.4	厚0.5	
52	83	1	包含層	鉄製品	釘	長[5.4]	巾0.5	厚0.5	
52	84	1	包含層	鉄製品	釘	長7.0	巾0.8	厚(0.4)	
52	85	1	包含層	鉄製品	釘	長6.4	巾(0.9)	厚(0.5)	
52	86	1	包含層	鉄製品	釘	長3.8	巾0.4	厚0.4	
52	87	1	包含層	鉄製品	釘	長(12.7)	巾0.6	厚0.5	
52	88	1	包含層	鉄製品	釘	長5.1	巾(0.4)	厚(0.4)	
52	89	1	包含層	鉄製品	釘	長6.6	巾(0.6)	厚(0.6)	
52	90	1	包含層	鉄製品	釘	長5.4	巾(0.6)	厚(0.5)	
52	91	1	包含層	鉄製品	釘	長5.8	巾(0.7)	厚(0.7)	
52	92	1	包含層	銅製品	銭	2.2	2.2	0.1	開元通寶(南唐:960年)
52	93	1	包含層	銅製品	銭	2.5	2.5	0.1	宋通元寶(北宋:960年)
52	94	1	包含層	銅製品	銭	2.3	2.3	0.1	嘉祐元寶(北宋:1056年)
52	95	1	包含層	銅製品	銭	1.8	1.8	0.1	天禧通寶(北宋:1017年)
53	1	1	攪乱	中国	青磁折縁皿	-	-	[2.4]	
53	2	1	攪乱	中国	青磁連弁文碗	-	-	[4.1]	
53	3	1	攪乱	中国	青磁連弁文碗	-	-	[2.0]	
53	4	1	攪乱	唐津産	打ち欠き	-	4.3	[1.5]	天目碗
53	5	1	攪乱	瀬戸窯	灰釉鉢	-	-	[5.0]	中皿かIV
53	6	1	攪乱	瀬戸窯	灰釉碗	-	-	[5.6]	
53	7	1	攪乱	常滑窯	甕	-	-	[8.3]	6a類
53	8	1	攪乱	常滑窯	片口鉢	-	-	[5.4]	
53	9	1	攪乱	備前窯	播鉢	-	-	[6.3]	
53	10	1	攪乱	産地不明	片口鉢	-	-	[3.3]	
53	11	1	攪乱	土器	かわらけ皿	(10.8)	(6.0)	2.8	灯明皿・スス付着

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
53	12	1	攪乱	土器	かわらけ皿	(13.6)	(8.2)	3.6	灯明皿・スス付着
53	13	1	攪乱	土製品	フイゴ羽口	長[9.9]	巾8.4	厚8.3	
53	14	1	攪乱	石製品	砥石	長(4.7)	巾3.4	厚0.6	鳴滝産 仕上砥
53	15	1	攪乱	石製品	陽物	長[7.7]	巾4.4	厚4.6	
53	16	1	攪乱	鉄製品	不明品	長 -	巾(1.4)	厚(1.2)	
55	1	1	1号方壺	中国	青白磁梅瓶	長5.4	短4.9	厚0.5	
55	2	1	1号方壺	常滑窯	広口壺	-	-	[4.0]	6b類
55	3	1	1号方壺	瀬戸窯	仏華瓶	-	5.5	[2.3]	内底面スス
55	4	1	1号方壺	瀬戸窯	卸皿	-	-	[3.2]	
55	5	1	1号方壺	瀬戸窯	卸皿	-	-	[2.8]	
55	6	1	1号方壺	瀬戸窯	卸皿	-	(7.0)	[1.5]	
55	7	1	1号方壺	瀬戸窯	折縁鉢	-	-	[4.7]	
55	8	1	1号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[7.0]	
55	9	1	1号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[7.4]	
55	10	1	1号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[5.3]	
55	11	1	1号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[4.1]	I類
55	12	1	1号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[5.5]	
55	13	1	1号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[4.2]	
55	14	1	1号方壺	魚住窯	片口鉢	-	-	[2.95]	
55	15	1	1号方壺	産地不明	片口鉢	-	-	[4.9]	
55	16	1	1号方壺	亀山窯	甕	長(6.4)	短(5.0)	厚0.6	
55	17	1	1号方壺	土器	かわらけ皿	(7.8)	(6.2)	1.1	
55	18	1	1号方壺	土器	かわらけ皿	(8.0)	(6.0)	1.8	
55	19	1	1号方壺	土器	かわらけ皿	(7.8)	(4.8)	1.8	
55	20	1	1号方壺	土器	かわらけ皿	7.8	5.1	1.9	
55	21	1	1号方壺	土器	かわらけ皿	7.7	5.0	2.4	
55	22	1	1号方壺	土器	かわらけ皿	(10.8)	(5.4)	3.0	
55	23	1	1号方壺	土器	打ち欠き	-	8.0	[1.5]	内底面にスス
55	24	1	1号方壺	瓦質	火鉢	-	-	[4.1]	菊花スタンプ
55	25	1	1号方壺	土製品	人形	-	-	2.7	
55	26	1	1号方壺	石製品	砥石	長10.0	巾7.0	厚4.4	二次加工 孔あり 荒砥
55	27	1	1号方壺	石製品	砥石	長[3.8]	巾2.7	厚1.8	鳴滝産 仕上砥
55	28	1	1号方壺	石製品	砥石	長[7.0]	巾2.8	厚1.5	伊予産 仕上砥
55	29	1	1号方壺	石製品	砥石	長(9.5)	巾4.7	厚1.9	滑石転用品
56	30	1	1号方壺	石製品	石臼	上面直径43	下面直径40	高13.7	安山岩
56	31	1	1号方壺	石製品	石臼	上面直径(43)	下面直径(40)	高15	残存1/2弱 角閃石安山岩
56	32	1	1号方壺	石製品	石臼	上面直径(44)	下面直径(44)	高17	角閃石安山岩
57	33	1	1号方壺	鉄製品	火箸	長15.8	巾(0.5)	厚(0.5)	
57	34	1	1号方壺	鉄製品	釘	長5.1	巾(0.4)	厚(0.4)	
57	35	1	1号方壺	鉄製品	釘	長5.2	巾(0.25)	厚(0.3)	
57	36	1	1号方壺	鉄製品	釘	長6.6	巾(0.6)	厚(0.4)	
57	37	1	1号方壺	銅製品	銭	2.4	2.4	0.1	元豊通寶(北宋:1078年)
57	38	1	1号方壺	銅製品	銭	2.5	2.5	0.1	宋通通寶(北宋:960年)
57	39	1	1号方壺	銅製品	銭	2.4	2.4	0.1	天禧通寶(北宋:1017年)
57	40	1	1号方壺	銅製品	銭	2.6	2.6	0.1	解読不可
57	41	1	1号方壺	銅製品	銭	2.6	2.6	0.1	解読不可
57	42	1	1号方壺	銅製品	銭	2.8	(2.8)	0.1	解読不可
57	43	1	1号方壺	銅製品	銭	2.6	2.6	0.1	解読不可
58	1	1	2号方壺	鉄製品	釘	長10.9	巾(0.9)	厚(0.4)	
58	2	1	2号方壺	鉄製品	釘	長6.4	巾(1.8)	厚(0.4)	
58	3	1	2号方壺	鉄製品	釘	長6.8	巾(0.5)	厚(0.7)	
58	4	1	2号方壺	鉄製品	釘	長9.6	巾(0.5)	厚(0.7)	
60	1	1	4号方壺	瀬戸窯	入子	3.6	2.2	0.9	

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
60	2	1	4号方壺	瀬戸窯	卸皿	-	(10.6)	[2.2]	
60	3	1	4号方壺	瀬戸窯	鉢	-	(9.2)	[2.2]	底部卸目
60	4	1	4号方壺	山茶碗窯系	片口鉢	-	-	[2.4]	
60	5	1	4号方壺	土器	かわらけ皿	(11.8)	(7.4)	3.1	
60	6	1	4号方壺	土器	かわらけ皿	(12.8)	(8.0)	3.5	
60	7	1	4号方壺	土器	かわらけ皿	-	(7.0)	[2.4]	
60	8	1	4号方壺	骨製品	筭	長(17.5)	巾1.5	厚0.3	
60	9	1	4号方壺	銅製品	銭	2.4	2.4	0.1	元祐通寶(北宋:1086年)
62	1	1	5号方壺	瀬戸窯	卸皿	-	-	[4.45]	
62	2	1	5号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[3.6]	
62	3	1	5号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[5.2]	
62	4	1	5号方壺	瓦質	火鉢	-	-	[6.1]	
62	5	1	5号方壺	鉄製品	落とし鍵	長10.0	巾(0.7)	厚(0.7)	
62	6	1	5号方壺	鉄製品	釘	長10.6	巾(0.8)	厚(0.4)	
62	7	1	5号方壺	鉄製品	釘	長8.0	巾(0.9)	厚(0.6)	
62	8	1	5号方壺	鉄製品	釘	長(4.5)	巾(0.4)	厚(0.4)	
62	9	1	5号方壺	鉄製品	釘	長(5.3)	巾(0.6)	厚(0.5)	
62	10	1	5号方壺	鉄製品	釘	長5.4	巾(0.4)	厚(0.3)	
62	11	1	5号方壺	鉄製品	釘	長(4.9)	巾(0.6)	厚(0.4)	
63	1	1	6号方壺	石製品	硯	長7.9	巾5.5	厚1.0	
63	2	1	6号方壺	石製品	砥石	長[6.5]	巾3.3	厚0.8	仕上砥
63	3	1	6号方壺	鉄製品	釘	長11.7	巾(0.6)	厚(0.4)	
63	4	1	6号方壺	鉄製品	釘	長7.1	巾(0.7)	厚(0.5)	
63	5	1	6号方壺	鉄製品	釘	長9.6	巾(0.5)	厚(0.5)	
63	6	1	6号方壺	鉄製品	釘	長7.4	巾(1.0)	厚(0.5)	
64	1	1	7号方壺	土器	かわらけ皿	(7.4)	4.0	2.5	灯明皿・スス付着
64	2	1	7号方壺	石製品	砥石	長[5.3]	巾3.4	厚0.4	上野産 仕上砥
64	3	1	7号方壺	石製品	砥石	長6.3	巾3.2	厚0.9	スス付着 伊予産 仕上砥
64	4	1	7号方壺	鉄製品	小札	長(3.8)	巾(3.9)	厚(1.05)	兜部品か 3枚重なる
64	5	1	7号方壺	鉄製品	釘	長(7.5)	巾(0.4)	厚(0.4)	
64	6	1	7号方壺	鉄製品	釘	長(6.5)	巾1.0	厚(0.4)	
64	7	1	7号方壺	鉄製品	釘	長7.3	巾(0.5)	厚(0.4)	
64	8	1	7号方壺	鉄製品	釘	長(5.3)	巾(0.6)	厚(0.5)	
66	1	1	9号方壺	石製品	砥石	長[4.7]	巾3.4	厚2.5	鳴滝産 中砥
68	1	1	11号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[3.8]	I類
68	2	1	11号方壺	土器	かわらけ皿	(11.0)	6.8	3.2	
68	3	1	11号方壺	土器	かわらけ皿	(12.0)	(7.0)	3.1	
68	4	1	11号方壺	骨製品	筭	長(6.5)	巾0.9	厚0.25	
68	5	1	11号方壺	銅製品	銭	2.5	2.5	0.1	元豊通寶(北宋:1078年)
69	1	1	13号方壺	鉄製品	不明品	長7.8	巾(1.7)	厚(1.1)	
69	2	1	13号方壺	鉄製品	刀子	長[6.2]	巾(0.6~1.3)	厚(0.3)	
69	3	1	13号方壺	鉄製品	釘	長7.2	巾(0.8)	厚(0.8)	
70	1	1	14号方壺	中国	青白磁合子身	-	-	[2.0]	
70	2	1	14号方壺	常滑窯	甕	-	-	[5.8]	6b類
70	3	1	14号方壺	瀬戸窯	鉢	-	-	[2.8]	底部卸目
70	4	1	14号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[8.5]	II類
70	5	1	14号方壺	常滑窯	片口鉢	-	-	[4.6]	II類
70	6	1	14号方壺	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[3.2]	
70	7	1	14号方壺	魚住窯	片口鉢	-	-	[4.2]	
70	8	1	14号方壺	産地不明	片口鉢	-	-	[4.5]	
70	9	1	14号方壺	瀬戸窯	片口鉢	-	-	[5.9]	
70	10	1	14号方壺	土器質	火鉢	-	-	[7.9]	
70	11	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(8.2)	(4.8)	1.7	

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
70	12	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(8.2)	(5.0)	2.0	
70	13	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(8.8)	(6.6)	1.8	
70	14	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	7.4	5.4	1.5	灯明皿
70	15	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(7.8)	(6.0)	1.5	
70	16	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	8.0	5.4	1.35	
70	17	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	7.6	5.0	1.7	
70	18	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	7.8	5.8	1.8	
70	19	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	7.6	5.4	1.8	
70	20	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(7.8)	(5.0)	1.9	
70	21	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	7.8	5.9	1.8	灯明皿
70	22	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(7.6)	(5.0)	1.9	
70	23	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	7.8	4.6	2.1	灯明皿
70	24	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	7.1	5.1	2.3	
70	25	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(8.1)	5.3	2.4	
70	26	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(10.4)	(5.2)	3.0	
70	27	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(12.8)	(8.0)	3.6	
70	28	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(11.8)	(7.2)	3.1	
70	29	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(11.8)	(7.0)	3.1	
70	30	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(13.6)	(7.8)	3.7	
70	31	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(11.0)	(7.0)	3.0	
70	32	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.8)	3.3	
70	33	1	14号方壺	土器	かわらけ皿	(12.0)	(7.8)	4.0	
70	34	1	14号方壺	石製品	滑石製品	長3.0	巾1.9	厚1.1	穿孔あり
70	35	1	14号方壺	鉄製品	刀子	長(8.9)	巾2.3	厚0.7	
70	36	1	14号方壺	骨	加工骨	直径3.2	-	高1.9	側面に刃物痕あり メジロザメ脊椎
72	1	1	15号方壺	土器	かわらけ皿	8.5	5.5	1.9	
72	2	1	15号方壺	土器	かわらけ皿	8.2	5.2	1.8	
72	3	1	15号方壺	土器	かわらけ皿	7.8	5.4	1.8	
72	4	1	15号方壺	土器	かわらけ皿	12.3	8.8	3.45	
72	5	1	15号方壺	銅製品	銭	2.4	2.4	0.1	解読不可
74	1	1	16号方壺	中国	褐釉小壺	-	-	[3.1]	
74	2	1	16号方壺	土器	かわらけ皿	(10.8)	(6.8)	3.0	
74	3	1	16号方壺	骨製品	筭	長[9.5]	巾1.3	厚0.2	
74	4	1	16号方壺	鉄製品	小札	長7.8	巾4.8	厚(0.2~0.4)	
74	5	1	16号方壺	鉄製品	釘	長6.9	巾(0.6~1.1)	厚(0.7)	
74	6	1	16号方壺	鉄製品	釘	長7.7	巾(0.5~1.0)	厚(0.4)	
74	7	1	16号方壺	鉄製品	釘	長(4.6)	巾(1.0)	厚(0.9)	
74	8	1	16号方壺	鉄製品	釘	長7.3	巾(0.3~0.5)	厚(0.4)	
74	9	1	16号方壺	鉄製品	釘	長6.1	巾0.3~0.5	厚0.4	
74	10	1	16号方壺	鉄製品	釘	長4.3	巾0.4	厚0.4	
74	11	1	16号方壺	土師器	打ち欠き	長[3.9]	短[3.8]	厚0.7	台付甕転用品
75	1	1	17号方壺	常滑窯	甕	-	-	[5.0]	7類
75	2	1	17号方壺	常滑窯	甕	-	-	[4.9]	6b類
75	3	1	17号方壺	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[4.5]	II類
75	4	1	17号方壺	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[4.8]	
75	5	1	17号方壺	産地不明	片口鉢	-	-	[5.0]	
75	6	1	17号方壺	産地不明	片口鉢	-	-	[6.7]	内面にスス付着
75	7	1	17号方壺	東濃系	山茶碗	-	-	[2.1]	
75	8	1	17号方壺	土器	かわらけ皿	7.6	5.0	2.45	灯明皿・スス付着
75	9	1	17号方壺	土器	かわらけ皿	(8.5)	6.0	2.1	
75	10	1	17号方壺	土器	かわらけ皿	(10.5)	6.4	3.0	灯明皿・スス付着
75	11	1	17号方壺	瓦質	火鉢	-	-	8.8	
75	12	1	17号方壺	鉄製品	釘	長7.5	巾0.7	厚0.5	

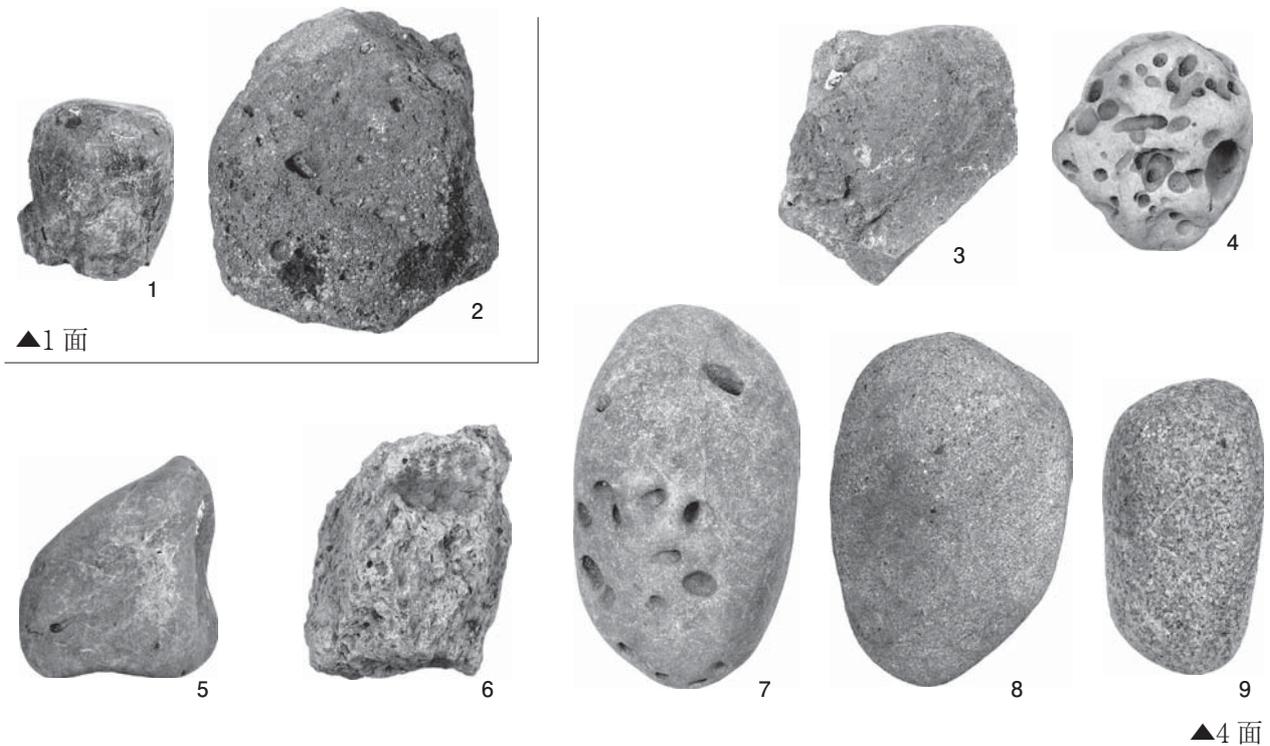
図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
75	13	1	17号方竪	鉄製品	釘	長(5.5)	巾(1.0)	厚(0.8)	
76	1	1	18号方竪	土器	かわらけ皿	(7.3)	4.7	1.9	
76	2	1	18号方竪	骨	加工痕	長[4.0]	短[3.3]	厚0.6	刃物痕あり
76	3	1	18号方竪	銅製品	銭	2.3	2.3	0.1	治平通寶(北宋:1064年)
76	4	1	18号方竪	銅製品	銭	2.4	2.4	0.1	開元通寶(南宋:960年)
76	5	1	18号方竪	銅製品	銭	2.3	2.3	0.1	大宋元寶(南宋:1225年)
78	1	1	19号方竪	鉄製品	不明品	長[4.0]	巾[3.3]	厚0.6	
80	1	1	1号井戸	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[6.3]	
80	2	1	1号井戸	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[4.2]	
80	3	1	1号井戸	瀬戸窯	卸皿	-	-	[3.0]	
80	4	1	1号井戸	瀬戸窯	卸皿	-	(6.0)	[1.5]	
80	5	1	1号井戸	土器	かわらけ皿	(8.0)	(6.0)	1.9	灯明皿・スス付着
80	6	1	1号井戸	土器	かわらけ皿	(7.0)	4.5	(2.3~2.7)	
80	7	1	1号井戸	土器	かわらけ皿	(12.8)	(8.6)	3.3	
80	8	1	1号井戸	瓦質	火鉢	-	-	[5.6]	菊花スタンプ
80	9	1	1号井戸	瓦質	火鉢	-	-	[5.0]	
80	10	1	1号井戸	骨製品	筭	長[8.9]	巾1.5	厚0.3	
80	11	1	1号井戸	鉄製品	落とし鍵	長8.8	巾(0.5)	厚(0.5)	
80	12	1	1号井戸	鉄製品	釘	長9.0	巾(0.6)	厚(0.5)	
80	13	1	1号井戸	鉄製品	釘	長7.0	巾0.5	厚0.7	
80	14	1	1号井戸	鉄製品	釘	長[6.7]	巾0.4	厚0.3	
80	15	1	1号井戸	銅製品	銭	2.5	2.5	0.1	元豊通寶(北宋:1078年)
82	1	1	2号井戸	中国	青白磁梅瓶	-	(10.4)	[5.2]	
82	2	1	2号井戸	中国	青磁腰折碗	-	-	[1.7]	
82	3	1	2号井戸	中国	青磁折縁鉢	-	-	[2.8]	
82	4	1	2号井戸	常滑窯	甕	-	-	[9.3]	6a類
82	5	1	2号井戸	常滑窯	甕	-	-	[4.8]	6a類
82	6	1	2号井戸	常滑窯	甕	-	-	[5.3]	8類
82	7	1	2号井戸	常滑窯	甕	-	-	[5.1]	7類
82	8	1	2号井戸	常滑窯	甕	-	-	[9.4]	7類
82	9	1	2号井戸	常滑窯	甕	-	-	[6.1]	9類
82	10	1	2号井戸	瀬戸窯	入子	-	-	[2.6]	
82	11	1	2号井戸	瀬戸窯	入子	(8.4)	-	[1.8]	前Ⅲ~中Ⅱ
82	12	1	2号井戸	瀬戸窯	灰釉皿	-	(6.0)	[2.1]	
82	13	1	2号井戸	瀬戸窯	片口鉢	-	-	[3.0]	中野5 小型
82	14	1	2号井戸	東濃系	山茶碗	-	-	[3.3]	
82	15	1	2号井戸	常滑窯	片口鉢	-	-	[9.5]	
82	16	1	2号井戸	常滑窯	片口鉢	-	-	[7.5]	
82	17	1	2号井戸	常滑窯	片口鉢	-	-	[6.0]	
82	18	1	2号井戸	常滑窯	片口鉢	-	-	[3.7]	
82	19	1	2号井戸	常滑窯	片口鉢	-	-	[4.3]	
82	20	1	2号井戸	山茶碗窯系	片口鉢	-	(11.9)	[7.1]	
82	21	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	7.3	6.2	1.8	
82	22	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(7.0)	(4.5)	1.8	灯明皿・スス付着
82	23	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(6.8)	(4.0)	1.8	灯明皿・スス付着
82	24	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	7.4	4.2	2.3	
82	25	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	8.0	5.0	2.1	灯明皿・スス付着
82	26	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(10.2)	5.4	2.9	
82	27	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	10.6	6.0	3.0	灯明皿・スス付着
82	28	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	11.0	6.4	3.1	
82	29	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(12.0)	7.0	3.5	
82	30	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(13.0)	(8.5)	2.9	灯明皿・スス付着
82	31	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(13.5)	(7.4)	3.4	

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
82	32	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	13.0	7.0	3.6	
82	33	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(14.5)	8.0	4.1	
82	34	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(14.0)	(9.1)	3.5	灯明皿・スス付着
82	35	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	-	-	3.1	内面にスス付着
82	36	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	(12.7)	(7.5)	3.7	
82	37	1	2号井戸	土器	かわらけ皿	-	8.2	[2.4]	
82	38	1	2号井戸	瓦質	火鉢	-	-	[5.5]	
82	39	1	2号井戸	土器質	火鉢	-	-	[5.5]	
82	40	1	2号井戸	常滑窯	磨常滑	長4.8	巾4.5	厚0.9	転用品
82	41	1	2号井戸	骨製品	筭	長(8.0)	巾1.3	厚0.3	
82	42	1	2号井戸	骨製品	筭	長12.0	巾1.45	厚0.2	
82	43	1	2号井戸	骨製品	筭	長[7.7]	巾0.8	厚0.2	
82	44	1	2号井戸	骨製品	筭	長[6.1]	巾1.4	厚0.1~0.3	
82	45	1	2号井戸	骨製品	筭	長(8.0)	巾1.5	厚0.3	
82	46	1	2号井戸	骨製品	筭	長[7.5]	巾[0.6]	厚0.3	
82	47	1	2号井戸	骨製品	筭	長7.0	巾1.0	厚1.0	
82	48	1	2号井戸	骨製品	不明品	長[6.3]	巾0.5	厚0.2	加工品
83	49	1	2号井戸	石製品	砥石	[5.7]	3.0	1.0	鳴滝産 仕上砥
83	50	1	2号井戸	石製品	砥石	[5.5]	3.5	3.5	鳴滝産 中砥
83	51	1	2号井戸	石製品	砥石	長[5.3]	巾4.8	厚3.4	鳴滝産 中砥
83	52	1	2号井戸	石製品	磨石	長9.9	短8.6	厚3.3	
83	53	1	2号井戸	鉄製品	皿	直径(9.8)	-	厚(0.3)	
83	54	1	2号井戸	鉄製品	火箸	長13.4	巾(0.4~0.8)	厚(0.4~0.6)	
83	55	1	2号井戸	鉄製品	釘	長6.5	巾(0.4)	厚(0.4)	
83	56	1	2号井戸	鉄製品	釘	長6.3	巾(0.6)	厚(0.5)	
83	57	1	2号井戸	鉄製品	釘	長4.5	巾(0.6)	厚(0.6)	
83	58	1	2号井戸	鉄製品	釘	長5.2	巾(0.6)	厚(0.4)	
83	59	1	2号井戸	鉄製品	釘	長6.9	巾(0.7)	厚(0.5)	
89	1	1	T3号溝	土器	かわらけ皿	7.8	-	1.3	内折れ 手づくね
89	2	1	T3号溝	鉄製品	用途不明	長3.7	巾2.8	厚0.4	
89	3	1	T4号溝	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[5.3]	
89	4	1	T4号溝	山茶碗窯系	山茶碗	-	(5.6)	[1.5]	もみ殻高台
89	5	1	T4号溝	土器	かわらけ皿	9.4	6.0	2.6	
89	6	1	T4号溝	土器	かわらけ皿	8.0	5.0	2.2	スス付着
89	7	1	T4号溝	瓦質	火鉢	-	-	[5.9]	
89	8	1	T4号溝	土製品	るつば	長(8.8)	短(8.0)	厚(0.4)	
91	1	1	T1号土壇墓	鉄製品	鋏と毛抜き	長11.9	巾2.4	厚1.1	2点融着している 副葬品 布付着
91	2	1	T1号土壇墓	銅製品	銭	2.4	2.4	0.1	大観通寶(北宋:1107年)
91	1	1	T3号土壇墓	鉄製品	刀子	[9.1]	(1.8)	(0.4)	
91	2	1	T3号土壇墓	鉄製品	釘	長6.7	巾(0.4)	厚(0.35)	
94	1	1	T1号土坑	土器	かわらけ皿	8.0	5.4	1.6	
94	2	1	T1号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	5.6	1.9	
94	3	1	T1号土坑	土器	かわらけ皿	12.1	8.9	3.0	
94	4	1	T1号土坑	土器	かわらけ皿	12.2	8.0	3.0	
94	5	1	T1号土坑	土器	打ち欠き	-	7.6	[2.0]	内面スス付着
94	6	1	T3号土坑	土器	かわらけ皿	7.7	6.0	1.6	
94	7	1	T3号土坑	土器	かわらけ皿	(13.8)	(8.0)	3.2	
94	8	1	T3号土坑	土器	かわらけ皿	(14.8)	(9.0)	3.5	
94	9	1	T3号土坑	土器	かわらけ皿	(13.8)	(7.4)	3.5	灯明皿 スス付着
94	10	1	T4号土坑	土器	かわらけ皿	(12.8)	(8.0)	3.5	
94	11	1	T5号土坑	瀬戸美濃窯	天目碗	(11.4)	-	[5.8]	
94	12	1	T5号土坑	常滑窯	甕	-	-	[5.3]	6b類
94	13	1	T5号土坑	常滑窯	片口鉢	-	-	[6.6]	II類

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
94	14	1	T5号土坑	土器	かわらけ皿	(7.2)	(5.0)	1.2	
94	15	1	T5号土坑	土器	かわらけ皿	(7.0)	(4.8)	1.7	
94	16	1	T5号土坑	土器	かわらけ皿	(7.6)	(5.4)	1.7	
94	17	1	T5号土坑	土器	かわらけ皿	(7.8)	(4.8)	2.0	
94	18	1	T5号土坑	石製品	砥石	長(10.0)	巾3.4	厚1.6	上野産 仕上砥
94	19	1	T5号土坑	鉄製品	釘	長(8.9)	巾(0.8)	厚0.5	
94	20	1	T5号土坑	鉄製品	釘	長5.1	巾0.7	厚0.5	
94	21	1	T5号土坑	鉄製品	釘	長(4.6)	巾0.6	厚0.5	
94	23	1	T6号土坑	中国	白磁碗	-	-	[4.2]	
94	24	1	T7号土坑	中国	青白磁梅瓶	-	6.6	[5.3]	
94	25	1	T7号土坑	土器質	火鉢	-	-	[6.1]	
94	26	1	T7号土坑	石製品	硯	長13.0	巾8.8	厚2.2	赤間産？
94	27	1	T8号土坑	土器	かわらけ皿	7.7	5.2	1.7	
94	28	1	T8号土坑	土器	かわらけ皿	7.6	4.9	1.7	
94	29	1	T8号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	5.4	1.9	
94	30	1	T9号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	5.0	2.0	
94	31	1	T9号土坑	土器	かわらけ皿	10.9	6.3	3.0	
94	32	1	T9号土坑	常滑窯	磨常滑	長7.0	短5.6	厚1.3	転用品
96	33	1	T10号土坑	常滑窯	甕	(22.0)	-	[14.0]	6b類
96	34	1	T10号土坑	常滑窯	片口鉢	-	-	[7.7]	
96	35	1	T10号土坑	常滑窯	片口鉢	-	-	[5.2]	
96	36	1	T10号土坑	土器	かわらけ皿	7.6	4.6	2.1	
96	37	1	T10号土坑	土器	かわらけ皿	(13.6)	8.4	3.6	
96	38	1	T10号土坑	石製品	砥石	長[5.4]	巾4.6	厚4.2	鳴滝産 中砥
96	39	1	T10号土坑	石製品	砥石	長(9.0)	巾5.2	厚3.3	伊予産 中砥
96	40	1	T11号土坑	土器	かわらけ皿	(7.8)	(5.4)	1.9	
96	41	1	T11号土坑	土器	かわらけ皿	(11.2)	(6.0)	2.8	
96	42	1	T11号土坑	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.6)	3.3	
96	43	1	T11号土坑	鉄製品	釘	長13.3	巾(0.5)	厚(0.3)	
96	44	1	T12号土坑	中国	青磁無文碗	-	5.0	[2.2]	
96	45	1	T12号土坑	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[4.9]	
96	46	1	T12号土坑	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[5.0]	
96	47	1	T12号土坑	土器	かわらけ皿	(11.0)	(7.0)	3.1	
96	48	1	T12号土坑	骨製品	筭	長[5.6]	巾1.1	厚0.3	欠損している
96	49	1	T12号土坑	鉄製品	釘	長13.6	巾(0.5)	厚(0.4)	
96	50	1	T12号土坑	鉄製品	釘	長11.4	巾(0.5)	厚(0.4~0.5)	
96	51	1	T12号土坑	鉄製品	釘	長5.6	巾0.5	厚(0.4)	
96	52	1	T12号土坑	鉄製品	釘	長6.1	巾(0.5)	厚(0.6)	
96	53	1	T12号土坑	鉄製品	釘	長[10.4]	巾(0.7~1.1)	厚0.4~0.7	
98	54	1	T13号土坑	瀬戸窯	卸皿	-	4.2	[1.0]	
98	55	1	T13号土坑	瓦質	火鉢	-	-	[10.4]	菊花スタンプ
98	56	1	T13号土坑	骨製品	筭	長[8.8]	巾1.3	厚0.2	
98	57	1	T14号土坑	瀬戸窯	卸皿	-	-	[2.1]	
98	58	1	T14号土坑	瓦質	瓦質火鉢	-	-	[4.2]	
98	59	1	T14号土坑	石製品	滑石製砥石	長(12.4)	巾3.1	厚2.6	
98	60	1	T14号土坑	石製品	滑石製砥石	長(11.0)	巾2.9	厚1.9	
98	61	1	T15号土坑	瀬戸窯	香炉	-	6.4	[0.9]	中期
98	62	1	T19号土坑	鉄製品	釘	長10.4	巾(0.8)	厚(0.4)	
98	63	1	T21号土坑	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[4.7]	
98	64	1	T21号土坑	土器	かわらけ皿	7.5	5.0	2.1	灯明皿・スス付着
98	65	1	T21号土坑	土器	かわらけ皿	(12.5)	8.0	3.3	スス付着
98	66	1	T21号土坑	石製品	砥石	長[3.8]	巾3.3	厚0.4	鳴滝産 仕上砥
98	67	1	T21号土坑	石製品	砥石	長[7.0]	巾2.5	厚2.6	鳴滝産 仕上砥

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
98	68	1	T21号土坑	石製品	砥石	長[4.0]	巾4.2	厚3.9	鳴滝産 中砥
98	69	1	T29号土坑	中国	白磁口元皿	-	-	[2.5]	
98	70	1	T29号土坑	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.2)	3.5	
98	71	1	T30号土坑	土器	かわらけ皿	(8.4)	6.1	1.3	
98	72	1	T30号土坑	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.0)	1.6	
98	73	1	T30号土坑	鉄製品	釘	(7.5)	(0.5~0.8)	(0.5)	
100	74	1	T31号土坑	中国	褐釉壺	(11.4)	-	[1.5]	
100	75	1	T31号土坑	常滑窯	片口鉢	-	-	[6.9]	
100	76	1	T31号土坑	土器	片口鉢	-	-	[4.0]	
100	77	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	4.6	1.55	
100	78	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	8.0	5.8	1.6	
100	79	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	8.0	5.3	1.7	
100	80	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.7)	1.6	
100	81	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	7.6	5.6	1.65	
100	82	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	5.5	1.8	
100	83	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.6)	1.8	
100	84	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	5.7	1.85	
100	85	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	(7.8)	(5.2)	1.7	
100	86	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	7.4	6.6	1.9	灯明皿 スス付着
100	87	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	(12.0)	(7.0)	3.1	
100	88	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	(11.6)	(6.6)	3.6	
100	89	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	(13.3)	7.4	3.2	
100	90	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	12.5	8.3	3.1	
100	91	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	12.6	7.6	3.6	
100	92	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	13.4	7.3	3.5	内面にスス
100	93	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	-	-	3.6	
100	94	1	T31号土坑	土器	かわらけ皿	-	-	3.6	
100	95	1	T31号土坑	土器	打ち欠き	-	7.2	[2.1]	
100	96	1	T32号土坑	中国	青磁無文碗	-	-	[2.1]	
100	97	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	5.0	4.0	1.1	内折れ極小
100	98	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	(7.6)	(5.4)	1.5	
100	99	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	7.6	5.8	1.5	
100	100	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.6)	1.5	
100	101	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	7.6	6.1	1.7	
100	102	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	(8.4)	(6.2)	1.7	
100	103	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	5.2	2.0	
100	104	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	7.0	4.6	1.6	
100	105	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	(11.2)	(6.2)	2.7	
100	106	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	12.3	7.2	3.3	
100	107	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	(12.6)	7.0	3.1	
100	108	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	(13.8)	(8.2)	3.2	
100	109	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	12.0	7.1	3.3	
100	110	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	12.0	7.0	3.4	
100	111	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	12.6	7.0	3.6	
100	112	1	T32号土坑	土器	かわらけ皿	(13.2)	7.0	3.5	
100	113	1	T33号土坑	骨製品	不明品	長[2.6]	短[0.6]	厚0.2	
102	114	1	T35号土坑	常滑窯	片口鉢	-	-	[5.7]	
102	115	1	T35号土坑	備前窯	搦鉢	-	-	[10.0]	
102	116	1	T35号土坑	土器	かわらけ皿	-	-	[1.2]	穿孔あり
102	117	1	T35号土坑	石製品	砥石	長[6.5]	巾[6.0]	厚3.8	荒砥
102	118	1	T38号土坑	常滑窯	片口鉢	-	-	[6.2]	Ⅱ類
102	119	1	T38号土坑	土製品	鍔釜	-	-	[3.3]	
102	120	1	T41号土坑	常滑窯	甕	-	-	[4.4]	

図版 No.	番号	面	遺構名	器 種		法 量			備 考
						口径/長径	底径/短径	器高/厚	
102	121	1	T41号土坑	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[3.0]	
102	122	1	T41号土坑	土器	かわらけ皿	8.0	4.3	2.2	灯明皿 スス付着
102	123	1	T41号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	4.3	2.2	
102	124	1	T42号土坑	土器	かわらけ皿	7.8	5.8	1.9	
102	125	1	T42号土坑	鉄製品	釘	長(5.8)	巾0.6	厚0.5	
102	126	1	T43号土坑	常滑窯	甕	-	-	[9.8]	6b類 内面スス
102	127	1	T43号土坑	常滑窯	甕	-	-	[6.6]	6b類
102	128	1	T43号土坑	常滑窯	小壺	-	-	[2.1]	
102	129	1	T43号土坑	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[6.1]	
102	130	1	T43号土坑	土器	かわらけ皿	(7.4)	(4.2)	2.5	灯明皿 スス付着
102	131	1	T43号土坑	鉄製品	不明品	長(1.8)	短(1.7)	厚(0.3)	
102	132	1	T44号土坑	土器	かわらけ皿	11.0	6.3	3.2	
102	133	1	T45号土坑	土器	かわらけ皿	(11.6)	7.5	3.4	
102	134	1	T45号土坑	鉄製品	釘	長5.2	巾0.7	厚0.4	
102	135	1	T45号土坑	鉄製品	釘	長5.0	巾0.7	厚0.5	
102	136	1	T46号土坑	山茶碗窯	片口鉢	-	-	[5.0]	
102	137	1	T46号土坑	土器質	火鉢	-	-	[4.7]	外面にスス付着
102	138	1	T46号土坑	瓦質	火鉢	-	-	[4.5]	菊花スタンプ
102	139	1	T4号ピット	石製品	硯	長12.0	巾6.5	厚[1.6]	
102	140		T5号ピット	常滑窯	甕				6a類
102	141	1	T5号ピット	土器	かわらけ皿	12.1	7.0	3.2	
102	142	1	T8号ピット	土器	かわらけ皿	7.7	5.5	1.4	



▲1 面  
▲4 面  
1. 硬質頁岩、 2. 玄武岩質溶岩、 3. 凝灰質砂岩、 4. 玄武岩質溶岩、 5. 硬質細粒凝灰岩、 6. 流紋岩質凝灰岩、 7. 硬質砂岩、  
8. 硬質砂岩、 9. 硬質砂岩

表8 土坑・ピット計測表

遺構番号	遺構名	長径(cm)	短径(cm)	深度(cm)	海拔高(m)	遺構番号	遺構名	長径(cm)	短径(cm)	深度(cm)	海拔高(m)
5	土抗	(250)	(90)	23.5	9.81	130	ピット	36	30	42.5	8.74
14	土抗	170	144	68	9.77	139	土坑	144	36	22.5	9.52
15	土抗	196	95	43	9.64	153	土坑	(92)	84	29.5	8.51
18	土抗	110	(71)	23	9.80	154	ピット	80	(44)	19	9.51
22	土抗	124	(40)	23	9.60	206	ピット	26	22	9.5	9.49
23	土抗	(158)	(78)	40.5	9.79	212	ピット	64	52	16.5	9.53
24	土抗	93	(30)	43	(9.83)	223	ピット	(26)	(26)	10.5	9.61
25	土抗	(107)	(58)	38.5	9.81	227	土抗	(100)	(22)	23.5	9.61
26	土坑	(168)	(66)	28	9.76	230	ピット	58	(56)	16	9.48
27	土坑	(220)	(100)	23.5	9.74	232	ピット	34	32	36.5	9.45
28	土抗	(306)	(88)	22	9.65	242	ピット	40	38	46	9.03
42	土抗	(320)	(124)	54	9.67	243	土抗	(110)	46	76.5	9.05
43	土抗	(150.4)	(140)	21	9.59	244	ピット	30	30	42.5	9.01
48	土抗	(82)	(52)	20.5	9.65	246	ピット	32	26	33.5	9.09
50	ピット	(74)	(32)	14	9.32	248	土坑			76.5	8.93
55	土抗	201	86	50	9.60	251	土坑	160	70		8.98
61	土坑	71	(53)	14	9.70	261	ピット	(60)	(60)	29.5	9.51
63	土抗	40	(38)	18	9.45	262	ピット	28	24	18	8.95
64	土抗	(70)	(20)	19	9.42	267	土坑	80	34	35	9.27
70	ピット	36	36	9	9.17	270	土坑	72	46	24.5	9.47
73	ピット	38	24	22.5	9.42	271	ピット	(44)	(44)	38	9.52
74	ピット	60	40	19.5	9.15	278	土抗	(84)	78	37	9.17
75	土抗	300	50	17	9.11	279	土抗	100	(90)	42.5	9.38
80	土抗	82	70	20.5	8.92	281	土抗	96	(60)	34	8.84
81	ピット	72	30	13.5	9	292	ピット	78	60	24	8.62
85	ピット	48	46	13.5	9.3	294	土抗	112	(92)	19	8.62
86	土抗	150	(70)	61.5	9.28	295	土抗	130	(130)	25	8.64
99	土坑	(130)	126	89	9.87	301	土抗			21.5	8.62
109	土坑	130	(60)	15.5	9.87	302	ピット	38	36	12	8.41
110	土坑			42	9.72	303	ピット	34	28	22	8.64
116	土坑			19.5	9.88	304	ピット	38	38	22.5	8.64
125	土坑	86	40	12	8.95	305	土抗	(80)	74	41	8.64
127	ピット	44	40	46.5	9.29	306	土抗			14	8.53
128	ピット	(50)	32	21	9.24	308	ピット	40	(28)	5	8.61
129	ピット	52	38	24.5	9.68	311	土坑	72	70	34	8.86

表9 石材計測表(単位:g)

※堅穴…堅穴住居址の略

石材/出土位置	1面	1~2面	2面	3面	4面	5面	T1~3号溝	2号堅穴	6号堅穴	8号堅穴	9号堅穴	14号堅穴	2号井戸	合計
凝灰質泥岩(TMs)					1008	639.5	851			29	508	455		3490.5
凝灰質砂岩(TSs)					1446	627						370	46	2489
凝灰角礫岩(TB)				41	105									146
硬質細粒凝灰岩(HFT)					502									502
硬質砂岩(HSs)			434		4677	271				1205				6587
硬質頁岩(HSh)	324													324
結晶片岩(Sch)			39											39
流紋岩質凝灰岩(RT)					71									71
玄武岩質溶岩		352												352
浮石、軽石(Pm)			162		1988	289		114	49					2602
サンゴ											44			44
合計	324	352	635	41	9797	1826.5	851	114	49	1234	552	825	46	19248.5

表10 出土遺物構成表(点数) ※かわらけ、貝、獣骨を除く。

種別 出土位置	常滑窯				山茶碗窯		瀬戸窯				備前窯	魚住窯	その他 国産陶器	白磁	青白磁	青磁	その他舶 載陶磁器
	甕	壺	鉢	転用品	碗	鉢	碗・皿類	壺・瓶類	鉢	入子 等							
試掘	8	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1面	1,550	19	61	5	12	63	46	47	19	12	4	7	14	16	19	68	26
2面	30	-	16	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
3面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4面	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,591	19	77	5	13	64	47	48	19	12	4	7	14	17	19	69	26

種別 出土位置	白かわ らけ	穿孔かわ らけ、コー スター	土器質 手焙り	瓦質手 焙り	瓦	土製品	石製品	骨製品(加 工骨含む)	貝製品	鉄製品	銅銭	鑄造関係	その他	須恵器	土師器	近世 近現代	合計
1面	5	4	53	66	6	12	66	8	-	406	16	129	36	168	1,447	18	4,428
2面	-	-	-	2	1	-	-	1	-	8	1	4	1	506	4,692	-	5,266
3面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	3
4面	-	-	-	-	-	-	1	14	5	-	-	-	-	47	614	-	685
5面	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	24	270	295	590
合計	5	4	53	68	7	12	68	23	5	414	17	133	38	746	7,025	313	10,982

表11 かわらけ構成表(重量) ※単位はg(グラム)

種別 出土位置	A大	A中	A小	A極小	B大	B中	B小	C大	C中	C小	D大	D小	E大	E小	合計
1面	40	50	110	0	82,223	10	9,998	3,875	1,715	1,223	450	30	0	30	99,754
2面	-	-	-	-	1,839	-	203	50	-	-	10	-	-	-	2,102
3面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
4面	-	-	-	-	190	-	-	-	-	-	-	-	-	-	190
5面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
合計	40	50	110	0	84,672	10	10,231	3,925	1,715	1,223	460	30	0	30	102,496

※かわらけ分類について

先頭のアルファベットは成形・器形を示し、Aを戦国・室町期(口縁部外反するロクロ糸切り成形)、Bをそれ以外のロクロ糸切り成形、Cを焼成良好な薄手造りのロクロ糸切り成形、Dを手づくね成形、Eを初期かわらけに見られるロクロ底回転糸切り・静止糸切り成形で表面をナデ調整しないタイプとした。後部の漢字は器種を示し、大皿を大、中皿を中、小皿を小とした。コースターは器壁の極端に低い極小型かわらけを示す。

表12 かわらけタイプ別比率表

分類 出土位置	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Dタイプ	Eタイプ	合計
1面	0.200%	92.458%	6.830%	0.482%	0.030%	100.000%
2面	0.000%	92.162%	3.078%	1.408%	0.477%	100.000%
3面	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%
4面	0.000%	100.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
5面	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%
合計	0.195%	92.602%	6.696%	0.478%	0.029%	100.000%

## 第4章 まとめと考察

本地点の調査では、特に南北方向の複雑な堆積土層の変化を確認する事が出来た。この変化は本地点における古墳時代から中世にかけての地形が複雑に変貌した結果と考えている。5面から1面にかけての遺構が検出された場所に偏りが見られるのは、複雑な地形と各時代の生活面造成等が大規模に同一レベルで行われなかった結果と考えられる。

本章では、調査の結果得られた多くの新知見から、地形変化、遺構の年代、浮かびあった問題点について若干のまとめと考察を加える。

### 第1節 検出遺構の年代

5面からは、頸部から口縁部にかけてキザミを施した輪積粘土帯を持つ土器が出土している。このほか胴部に斜め方向のヘラナデが施されている土器も出土している。これらの土器は、弥生時代末～古墳時代初めの年代が考えられる。したがって、本地点で最初に生活痕跡を残したのは、弥生時代末～古墳時代初め頃と考えられる。

4面の遺構は、5面の上に基本XⅡ層の黒色火山灰と飛砂が堆積してから成立している。基本X層の砂丘間低地斜面に埋設土器2か所、焼土が充満した土坑、散乱する土器・貝などが確認されている。埋設されている土器は古墳時代前期頃の年代が考えられている。同じ砂丘間低地を利用していることもあり、4面と5面の間に大きな時間差はないと考えている。

3面の遺構は、4面と5面で使用した砂丘間低地が、厚さ1m以上の飛砂で埋没してから成立している。本地点で検出された3面の遺構は石棺墓1基と土壙墓1基のみで、遺物は全く出土していない。そのため、実に消極的な根拠であるが、第1に7世紀中頃から9世紀前半にかけて営まれた2面より古く、古墳時代前期の4面より新しい土層に掘り込まれていること、第2に神奈川県横須賀市で検出された石棺墓の年代が古墳時代後半と報告されている<sup>(註)</sup>こと等から古墳時代後半と考えている。

2面の遺構は、3面の遺構が飛砂で厚く覆われてから成立している。検出された竪穴住居址の覆土あるいはカマドから7世紀中頃～9世紀前半の土器が出土している。周辺の調査地点でも同様の状況が確認されている為、この年代には、本地点周辺あるいは由比ガ浜の砂丘上に大きな集落が存在していたことが考えられる。

1面の遺構は、本文中では中世として一括しているが、出土遺物からは古、中、新の3期に大別できる。古期は基本Ⅳ層の堆積で覆われているT1号溝～T3号溝で、覆土中には多くの骨が捨てられている。これらの溝は、本文中では溝としたが、砂丘背後の低地であった可能性が高い。覆土からは13世紀初めの手づくねかわらけ皿が出土している。手づくねかわらけ皿はこの溝覆土以外にⅠ区北壁際の基本Ⅳ層下部からも出土している。

中期の遺構は古期の遺構が基本Ⅳ層で埋没してから掘り込まれている。中期になってはじめて由比ガ浜地域全体が都市に組み込まれたと考えている。遺構は方形竪穴建物を中心として井戸、小規模な掘立柱建物、土坑他である。遺物は多種にわたり、貿易陶磁器、かわらけ皿を含む国産陶磁器の他に石製品、骨製品、金属製品、土製品他が出土している。出土遺物から中期の成立は13世紀中頃で、以降14世紀中頃まで継続して賑わっていたと考えている。

新时期は中期から断続的に続いていたと考えているが、井戸1、井戸2以外の遺構は明確ではない。井戸1と井戸2からは15世紀代のかわらけ皿が少量出土している。この他に副葬品を持つT1号土壙墓、

T3号土壙墓はこの時代に属すと考えている。

これらのことから、1面ではまず12世紀末～13世紀初めに骨が散乱する溝が出現する。それが飛砂で埋没してしばらくすると都市鎌倉の開発が及んで、地下倉と考えられる方形竪穴建物を中心とした建物群が作られる。これが13世紀中頃と推定している。その生活は断続的に継続して、少なくとも15世紀中頃まで続いた。15世紀中頃の遺構として深く掘られた井戸だけが残ったのは、他の遺構が削平されて失われたと考えるほかない。

## 第2節 検出遺構の性格と地形

5面の遺構は、基本XⅡ層～XⅣ層が形成する幅20～30m、深さ2mほどの砂丘間低地に作られている。この低地は東西に延びている。検出された焼土粒が覆土に充満する土坑と現代のコンクリート杭に壊されている埋設土器と思われる遺構は、砂丘間低地から海側に存在する砂丘に上る斜面に作られている。焼土粒が充満した土坑は、土坑内で火を燃やしたことは明らかであるが、出土遺物も少なくその理由はわからない。祭祀の一環として火を使用することは十分に考えられる。また祭祀以外では、製塩に関わる炉も可能性の一つとして考えた。しかし、火を燃やした理由は確定できないままである。現時点では、祭祀に関わる空間があったと考えたい。

4面の遺構は、基本X層が形成する幅20～30m、深さ2mほどの砂丘間低地に作られている。この低地は5面の砂丘間低地と同じく東西に延びている。5面から4面への変化に多きな時間差はないと考えている。焼土粒が覆土に充満する土坑と埋設土器で構成される遺構は5面とほとんど変化していない、同じような空間であったと考えている。また、地点9（第2章図2参照）の調査でもやはり黒色砂層が南から北に向かって下がる斜面から埋設土器や少しまとまった貝殻等が見つかり、海浜部での祭祀行為の可能性が考えられている。本地点の5面から4面にかけては、海浜部での祭祀を行う空間として使用されていたと考えたい。

3面の石棺墓と土壙墓は、調査時点では周辺を見渡すことのできる高台に立地している墓域の一部と考えていた。しかし、堆積土層を検討すると、3面はⅢ区からⅡ区にかけてはほぼ平らであるが、Ⅱ区からⅠ区に向かってはやや急な角度で上っている。この傾斜は本地点の南側に大きな砂丘があった証と考えている。Ⅰ区の南側に大きな砂丘が存在していたとすれば、3面の遺構は砂丘背後の低地に築かれていたことになる。首長などを埋葬した古墳などの墓は周囲を見渡せる高台に築かれる事が多い。そういったイメージを覆してしまう結果であるが、本地点で検出された石棺墓や土壙墓が砂丘背後の低地に築かれている事に、興味深い点も多い。

2面の検出遺構は、本地点周辺に広がっている集落の一部と考えている。堆積順でいえば、2面の集落が廃絶した後に基本V層が堆積している。基本V層は調査区の北から南に向かって緩やかな角度で上り、東から西に向って下がっている。基本V層が砂丘後背湿地の堆積であることを考慮すれば、集落が廃絶した後に、調査区の南側に東西に延びる大きな砂丘が出現したと考えられる。しかし、Ⅰ区では基本X層、XⅡ層が海拔9.60～9.70mまで上がっているので、本地点南側の大きな砂丘は2面の集落と同時期には存在していた可能性がある。とすると、本地点周辺の集落は直接海風が吹き寄せない砂丘背後の低地に立地していたことになる。

1面の古期遺構群の内、覆土に多くの散乱する骨を含んでいるT1号溝～T3号溝は、東端が不明瞭になっていること、底面レベルが東から西に向って急傾斜で下がる事などから、砂丘背後の窪地の可能性が高い。とすればT1号～T3号溝の南に大きな砂丘が東西方向に延び、調査区の東側にも砂丘の高

まりがあったことになる。都市に組み込まれる前の由比ガ浜地域は、居住空間として使用されている空間は僅かで、ほとんど開発されていない起伏の激しい砂丘が広がっていた。そしてそこにヒトや動物の遺体を遺棄する場所が点在していた可能性がある。因みに、この頃の極楽寺坂・大仏坂を越えて鎌倉に入る道路は、現在の鎌倉文学館下から吉屋信子記念館前を通る道路の道筋と考えている。東と西は住宅地で分断されているが、東は六地藏辺から鎌倉市街に、西は甘縄神明社下、長谷寺前まで延びていたと推測している。ここから南に向かうと御霊神社前を経て極楽寺坂に、北に向かうと高德院の大仏前を経て大仏坂に達する。

1面中期になると、由比ガ浜地域が都市に組み込まれる。と同時に大きな削平・埋立てを伴う開発が随所で行われた。その結果、各調査地点で遺構検出面に多少の高低差が見られるため、決して平坦ではないが由比ガ浜一帯に方形竪穴建物を中心とする建物群が立ち並んだ。由比ガ浜一帯に造られた方形竪穴建物を中心とする遺構群の性格は諸説があって定まっていない。本文中図2の地点3では、骨製品の栗型（刀装品）の製作途中品や完成品が数多く出土している。本地点では動物の四肢骨から部材を切り取った跡の残る骨やフイゴ羽口、埴塼等が出土している。そのため骨製品加工、鑄造、石材加工などに携わる職人集団が居住し、方形竪穴建物（地下倉）を所有する貿易に関わる人々が暮らした空間であったと考えている。

この生活は、基本的には1面新时期まで継続されたと考えているが、副葬品を伴った土壙墓が造られる等やや性格に変化が認められる。海浜部に土壙墓が造られるのは、都市鎌倉の賑わいが衰えてからと考えているので、井戸と土壙墓の間に時間差を考える必要がある。また、采女塚等の古墳群が実際に由比ガ浜に在ったとしても、この地域を都市に組み込む際の開発を免れて江戸時代以降まで存在したとは考え難い。江戸時代に由比ガ浜の東部、滑川西岸近くの「下向原」に古墳状の高まりが存在していたのは、古墳ではなく、中世以降に周辺で見つかった人骨や石塔等を集めた「古墓」であり、それが古墳に変化したと考えている。

### 第3節 いくつかの問題点

本調査では新たに判明した事実が得られ、いくつかの問題点が生じた。本節ではそれらを簡単にまとめて今後の課題としたい。

調査の結果、基本V層の下に基本X層の堆積が確認され、由比ガ浜地域が複雑な起伏を伴う地形変化を辿ってきた事が確認された。これまでの由比ガ浜地域の発掘調査では基本IV層の下に基本V層が確認されていた。両層は多少の起伏はあるものの比較的平坦な堆積土として認識されていた。過去の調査から基本IV層は13世紀中頃以降に営まれた遺構群の基盤層で、基本V層上面では小規模な掘立柱建物他に伴って13世紀始め頃の手づくねかわらけ皿が出土している。そして基本V層の中～下で7世紀～9世紀の遺構が確認された。過去の調査では由比ガ浜地域でも弥生時代末頃の遺構や遺物が確認、報告されてはいたが、層序的に明確にされている地点は少なかった。

しかし今回の調査では、基本V層の下に厚い飛砂の堆積を挟んで基本X層があり、その下に粒子の粗い基本XII層が確認されている。基本X層と基本XII層は砂丘背後の、東西に延びる溝状の低地を形成している。そして基本XII層の下から弥生時代末～古墳時代初めの土坑が確認され、土器、貝製品などが出土している。堆積土層による時代区分が明確にできたのである。

しかし問題点や今後の課題もある。第1に、本地点では基本X層が砂丘背後の谷状の地形を呈していて、谷底部の深さは地表面から3.7mある。したがって通常の住宅建設に伴う調査ではそこまで深く調

査する事が困難であること。また谷状地形の上端近くでは、基本V層と基本X層の堆積が、区分できないほど接していることである。両層が接している場所では、層の区分は出土遺物に頼らざるを得ないのが現状である。

現時点では直ちに疑問は解決できないが、本地点で検出された石棺墓に埋葬されている人物が10代後半の女性であり、本地点とほぼ同時期に発見された鎌倉市材木座の石棺墓に埋葬されている人物も女性である点におおいに興味を感じている。鎌倉市以外で検出された石棺墓の類例を集める時間がなく、そこに埋葬されている人の性別もわからないため、鎌倉で女性が埋葬されている2例が極めて稀な例なのか、石棺墓に女性が埋葬される事が一般的なのかわからない。石棺墓という特殊な墓に、生前の身分や生活を示す副葬品を一切持たない女性が埋葬されている事には興味が湧く。今後、時間が許せば解明に挑戦したいが、なかなか難しいと考えている。この他にも鎌倉市内の発掘調査では、石臼が出土する事が稀であるが、その石臼が方形竪穴建物の基礎石に転用されている事にも興味深いものがある。

註 「八幡神社遺跡」『横須賀市文化財調査報告書第52集』2015年 横須賀市教育委員会